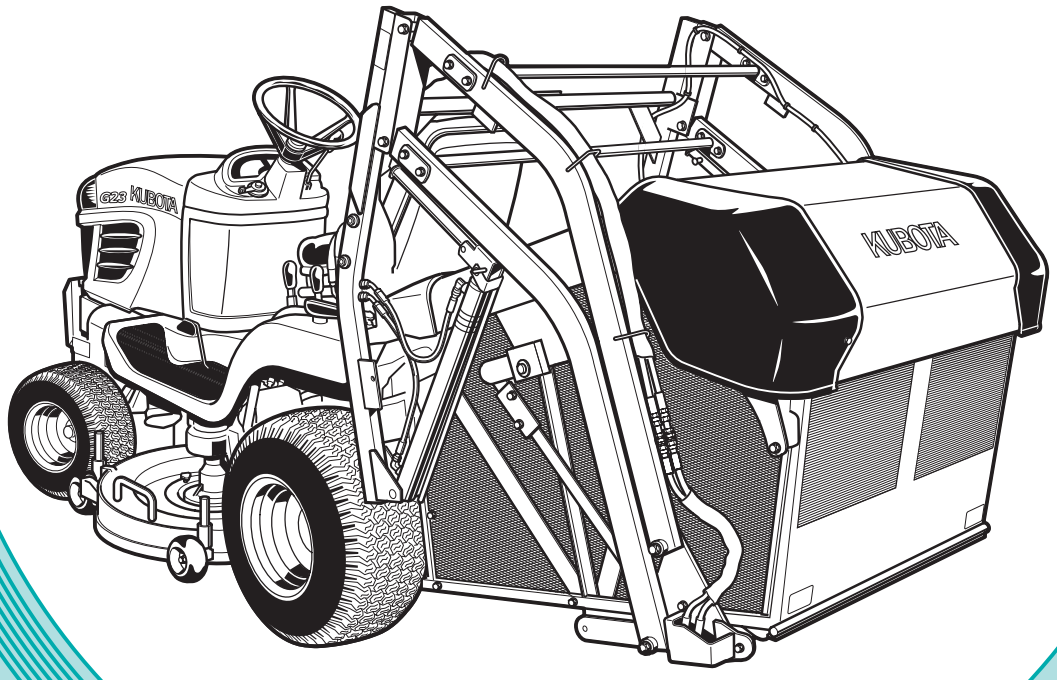
クボタガーデントラクタ

取扱説明書

G23 HD



1BDAFAIAP0240

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

Operator's Manual

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

	注意マーク
	ディーゼル軽油
	燃料計
	水温計
	エンジン予熱
	ブレーキ
	駐車ブレーキ
	バッテリ
	エンジンオイル圧力
	エンジン停止
	エンジン運転
	エンジン始動
	PTO“切”
	PTO“入”

	デフロック
	刈高さ
	モーア下げ位置
	モーア上げ位置
	ヘッドライト（下向）
	ヘッドライト（上向）
	高速
	低速
	エンジン回転調整位置
	速度設定装置“入”
	速度設定装置“切”
	集草機下げ位置
	集草機上げ位置
	集草バッグ回動（排草）
	集草バッグ回動（戻し）

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ 危険	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ 警告	注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ 注意	注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要	注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足	その他，使用上役立つ補足説明を示します。

専門用語の説明

- rpm ..... １分間の回転数（レボリューションパーミニッツ）
- PTO ..... 動力取出し（パワーテイクオフ）
- HST ..... 油圧変速装置（ハイドロスタティックトランスミッション）

目　次

⚠安全に作業するために

サービスと保証について

主要諸元

作業機に対する制限

運転に必要な各部の名称

モーアの着脱のしかた

モーアデッキの装着 **7**
モーアデッキの装着 7
モーアデッキの調節（前後） **9**
モーアデッキの調節（左右） **10**
モーアデッキの取外し **11**

集草機の着脱のしかた

集草機の取付け **12**
集草機の装着 12
集草機の取り外し 13

エンジンの始動と停止

エンジンの始動 **14**
駐車ブレーキ 14
キースイッチ 16
寒冷時の始動 16
ブロックヒーター（オプション） 16
エンジンの停止 **16**
暖機運転 **17**
低温度領域での暖機運転とトランスミッションオイル 17
バッテリあがりの処置 **17**

運転のしかた

ならし運転（最初の約 50 時間） **19**
新しい機械の潤滑油の交換 19
エンジンのならし運転 19
機械のならし運転 19
始動 **20**
シート 20
ヘッドランプスイッチ 20
ホーンボタン 21
モーア昇降レバー 21
集草機コントロールレバー 21
スロットルレバー 22
ブレーキペダル 22
速度調整ペダル 23
速度設定装置 23
停止 **24**
停止時 24
運転中の確認事項 **24**
以下の場合，直ちにエンジンを停止してください 24
イージーチェッカ 24
燃料計 25
水温計 25
アワメータ / タコメータ 26
駐車 **26**
駐車 26
HST バイパスボタン 27
運転技術 **27**
デフロック 27

モーアの使い方

モーアの上手な使い方 **28**
刈高さ調整方法 **28**
刈高さ調整ダイヤル 28
モーアの操作方法 **29**
PTO レバー 29

集草機の使い方

性能を発揮するには **31**
集草機の草を排出する方法 **31**
落下防止ストッパ **32**
ストッパのロック 32
ストッパの解除 33
クリーニングロッド **33**
集草機センサの調整 **34**
クイッククリーンレバー **34**

清掃

廃棄物の処理について **35**
洗車時の注意 **35**
集草機の清掃 **36**
モーアの清掃 **36**
トラクタの清掃 **36**
ホースによるモーアの清掃 **37**

タイヤおよび車輪

タイヤ **38**
空気圧 38
車輪 **38**

目　次

メンテナンス

定期点検箇所一覧表 39
給油（水）一覧表 42
給油（水） 42
グリースの注入と注油 43
推奨グリース 44

定期点検

ボンネットの開け方 45
ボンネット 45
エンジンカバー 45
ジャッキポイント 46
日常点検 46
エンジンオイルの量の点検 47
燃料の量の点検と給油 48
パネルスクリーンおよびラジエータネットの点検と清掃 48
タイヤの空気圧の点検 49
トランスミッションオイルの量の点検 50
ブレーキ液の量の点検 50
ブレーキペダルの点検 51
冷却水の量の点検 52
50 時間ごとの点検 52
安全装置 52
安全装置の点検 52
エアクリーナエレメントの清掃 53
モーアギヤボックスオイルの量の点検 54
グリースの注入 55
注油 60
バッテリ 61
バッテリの充電 61
フロント PTO ベルトテンション 62
100 時間ごとの点検 63
燃料ホースと燃料フィルタの点検 63
ファンベルトテンションの調整 64
HST ニュートラルスプリングの調整（速度調整ペダル用） 65
150 時間ごとの点検 65
モーアギヤボックスオイルの交換 65
200 時間ごとの点検 66
駐車ブレーキレバーの点検 66
エンジンオイルの交換 66
エンジンオイルフィルタの交換 67
トランスミッションオイルフィルタの交換 68
ラジエータホースと締付けバンドの点検 . . 68
油圧ホースの点検 69
ブレーキペダルの点検 70
ブレーキホースとブレーキパイプの点検 . . 70
前車軸支点の調整 72
吸気ホースの点検 72
トーインの調整 73
400 時間ごとの点検 73
トランスミッションオイルの交換 73
トランスミッションストレーナの清掃 74
燃料フィルタの交換 74
1500 時間ごとの点検 74
燃料噴射ノズル（噴射圧）の点検 74
3000 時間ごとの点検 75
噴射ポンプの点検 75
１年ごとの点検 75
エアクリーナエレメントの交換 75
２年ごとの点検 75
ラジエータの洗浄および冷却水の交換 75
不凍液 75
油圧ホースの交換 76
ブレーキ液の交換 76
燃料ホースの交換 76
ブレーキマスターシリンダの交換 76
ラジエータホースの交換 76
モーアギヤボックスオイルシールの交換 . . 76
吸気ホースの交換 76
エンジンブリーザーホースの交換 77
４年ごとの点検 77
ブレーキホースの交換 77
必要に応じた点検・整備 77
ブレーキパッドの点検と清掃 77
ヒューズの交換 78
ランプの交換 79
バッテリの交換 79
刈刃の点検と交換 79
新しいシャーピンとの交換 81
燃料系統の空気抜き 81

調整

一般締付けトルク 82
締付けトルク一覧 82

格納

不調と処置

エンジンの不調と処置 84
バッテリの不調と処置 84
トラクタの不調と処置 85
モーアの不調と処置 86
集草機の不調と処置 87

付表

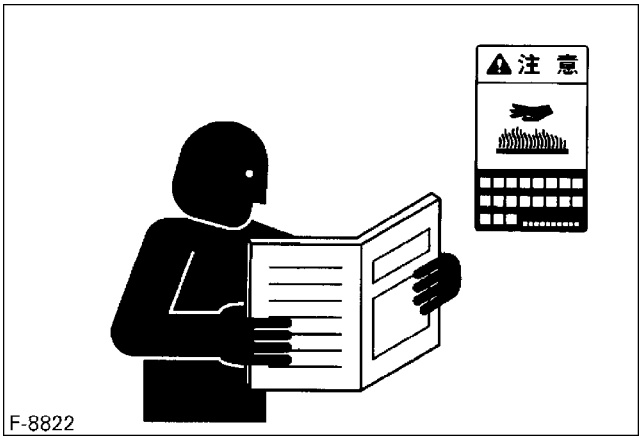
主な消耗部品一覧表 88

⚠ 安全に作業するために　　必ず読んでください

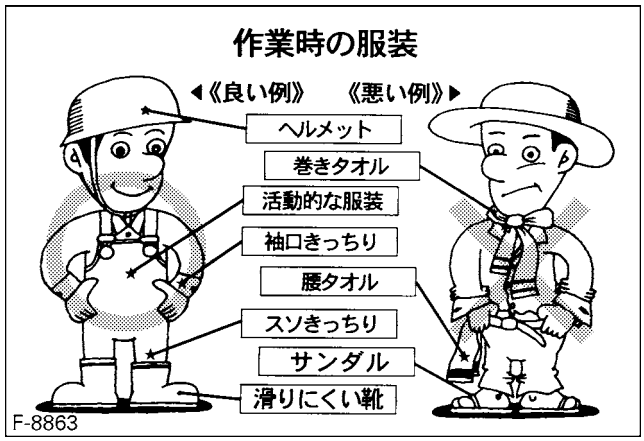
本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1. 運転前に

1. トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。
2. トラクタの停止及び，モーアやエンジンをすばやく停止する方法を知っておいてください。
   どのような緊急事態にも対応できるようにしてください。
3. トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。
4. 本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。



5. 飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。
6. ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
   回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
   安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。

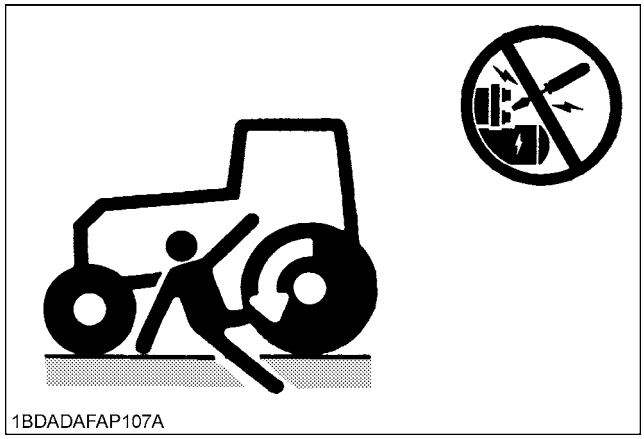


7. トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。
8. 安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
   紛失したり損傷した部品は交換してください。
   ブレーキ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
   又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。（詳細は**“メンテナンス”**の章参照）
9. トラクタは常に清掃しておいてください。
   バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。
   又，燃料パイプ及び電気配線を定期的に点検整備してください。火災などの原因になります。
10. モーアの上に物を載せたり，人が乗ったりしないでください。
11. 集草バッグの上に物を載せないでください。
12. 集草バッグの昇降機構を集草バッグの昇降以外の目的で使用しないでください。
13. クボタ推奨作業機以外は装着使用しないでください。
14. 作業機装着時はその取扱説明書，警告ラベルにある注意事項に従ってください。

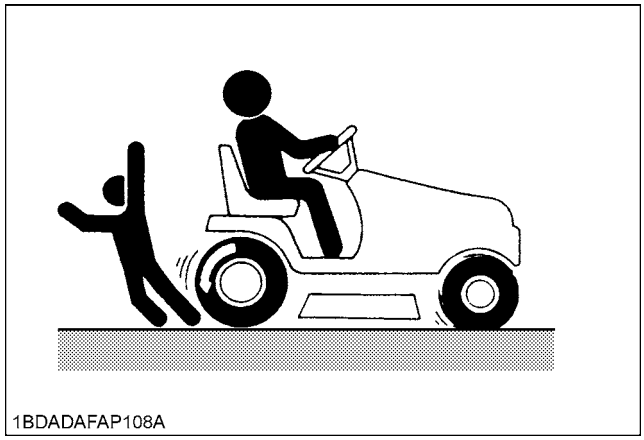
15. 転倒の危険性を少なくするため，機械の前側または後側に適切なウエイトを使用してください。
16. 機械の転倒による重大なケガまたは死亡事故の危険性を少なくするため，荷物をけん引しないでください。

2. 始動時に

1. エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，各レバーや速度コントロールペダルが**“中立”**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているか，そして PTO が確実に**“切”**の位置になっているかを確認してください。
2. 地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
   トラクタが突然動き出すおそれがあります。

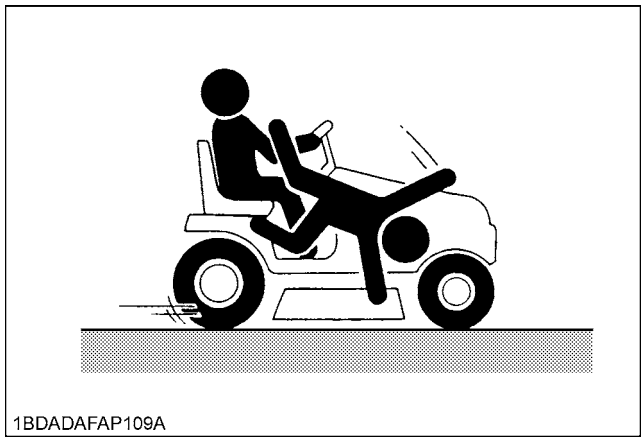

1BDADAFAP107A

3. トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人（特に子供）を近づけないでください。
   停車時は駐車ブレーキをかけてください。

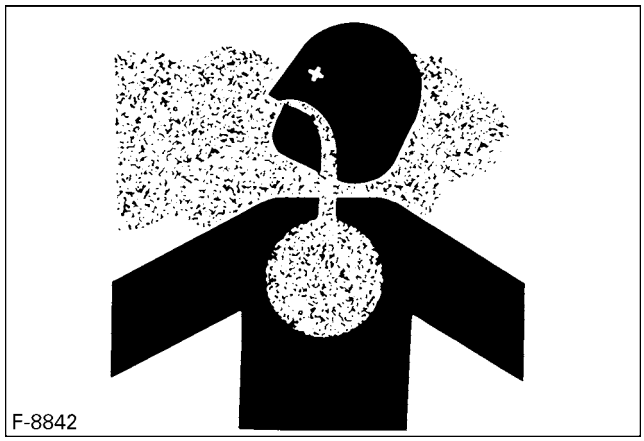

1BDADAFAP108A

3. 運転時に

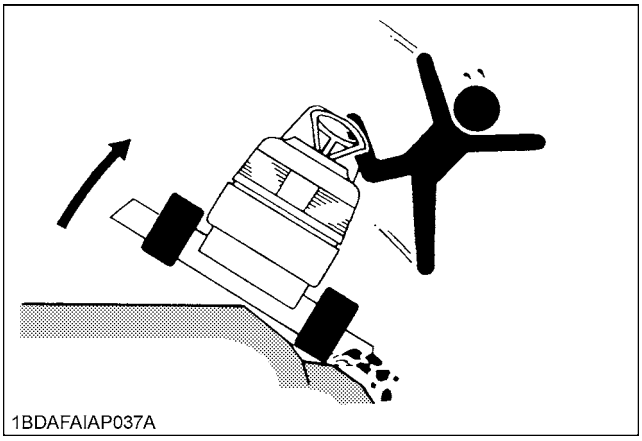
1. 子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
   又，必ずシートに座って運転してください。


1BDADAFAP109A

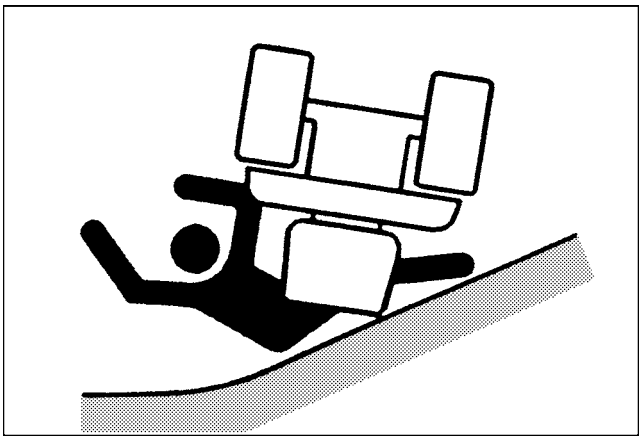
2. 換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
   排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。


F-8842

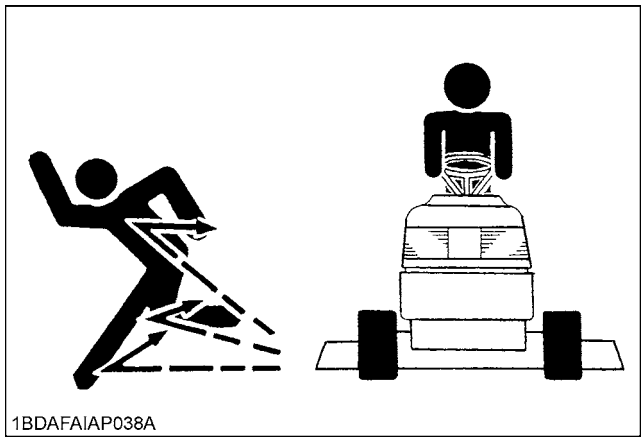
3. 溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。



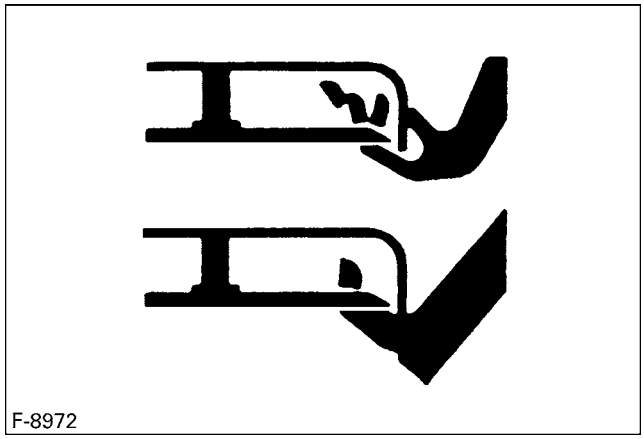
4. 傾斜地や凹凸地，ぬかるんだ場所，湿った草ではスリップし転倒しやすいので，特に運転操作に注意してください。



5. 転倒やスリップのおそれがある場所で使わないでください。
6. 高速・急発進・急停止・急旋回など，急激な運転操作をしないでください。
7. 斜面では上下方向に刈り，等高線刈りはしないでください。
8. 登坂不能時は刈刃を止め，ゆっくり真直ぐに降りてください。駆動を切り惰性で斜面を降りないでください。
9. 作業場所を点検して，針金，石など飛散のおそれがある物は除去してください。



10. 機械の周囲や，草の吐出し方向に人がいないことを確認しながら作業してください。
11. 後進時は後方の安全を充分確認しかつ，必要な場合以外は刈刃を停止して後進してください。
    手足を刈刃に近づけるときはエンジンを停止しキーを抜いてください。

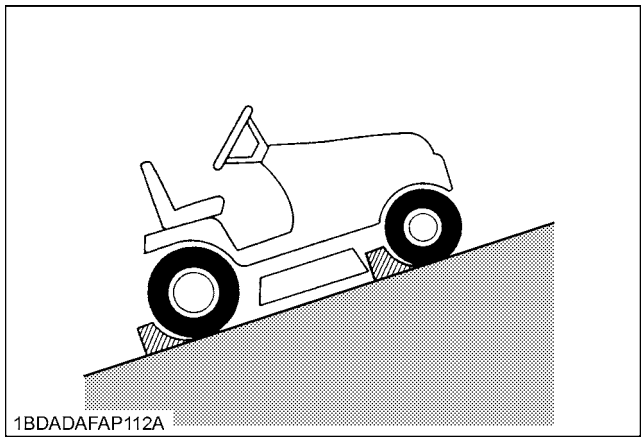


12. 火災のおそれがあるので排気を草や木の葉の堆積物などの可燃物には近づけないでください。
13. 公道は走行しないでください。公道での移動はトラックに積載して行なってください。
14. 急な斜面では，集草機などは使用しないでください。
15. 草刈りは昼間，又は良好な照明を使用して行なってください。
16. 移動状態（モーア吊上げ状態）で作業をしないでください。

17. 集草機やモーアの脱着や芝草の詰まり掃除などを行なうときは,
    - 平坦地で行なってください。
    - すべてのレバー及びペダルを中立位置にしてください。
    - エンジンを停止してください。
    - キーを抜いてください。
    - 駐車ブレーキを掛けてください。
    - 刈刃が停止していることを，確認してください。
18. 障害物に当たったときは，エンジンを停止し，トラクタ，モーア及び集草機の破損を点検してください。作業を再開する前に，破損部を修理してください。
19. 起伏地や高い草を刈るときは，異物や，かくれている障害物に当たる危険性を少なくするため，刈高さを高くセットしてください。
20. 草を刈っていないときは刈刃を停止してください。
21. 稼働中の機械から決して離れないでください。
    降りる前には，必ず刈刃を止め，駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止し，キーを抜いてください。
22. モーアを止め，硬く水平な場所で機械を停車した状態でのみ集草機の排出を行なってください。軟らかい所や傾いた場所で集草機を排出すると，機械の前輪が上がり転倒するおそれがあり，重大な障害や装備の多大な損害を引起こすおそれがあります。
23. 集草機を上げているときは機械をゆっくりと移動させ，傾斜地には入らないでください。また，急なターンをしないでください。機械が転倒するおそれがあります。
24. 集草機を降ろすときは手を近付けないでください。はさまれるおそれがあります。
25. 集草機内の草の重さにより転倒の可能性が高まるおそれがあります。
26. 機械が異常に振動し始めた場合，アタッチメントの運転を止め，エンジンを停止し，キーを抜いてください。その後で，直ちに機械を点検します。

4. 駐車，格納時に

1. 駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，PTO を**“切”**，作業機を**“下げ”**，各レバー及び速度コントロールペダルを**“中立”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，エンジンを**“停止”**してキーを抜いてください。
   やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。

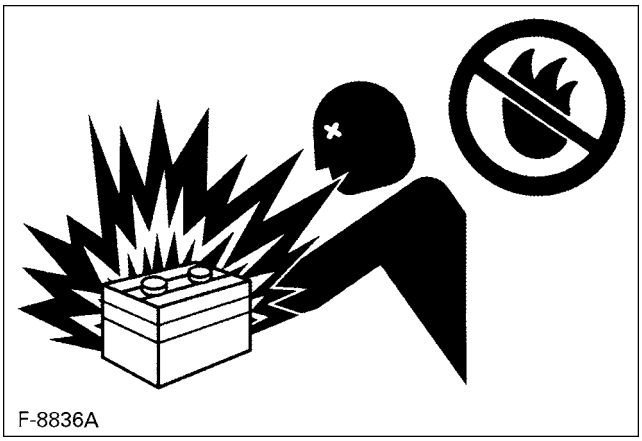


2. 乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には駐車しないでください。マフラの排気口に触れると火災のおそれがあります。
3. 格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。火災の原因になります。
4. モーアや集草機を使用後に適切に清掃しないと，刈り草に含まれる水分によりモーアや集草機が傷みます。また，集草機に残されている乾燥した草や木の葉は，火災事故を招くおそれがあります。必ず集草機およびダクトを清掃し，完全に空になっていることを確認してから格納してください。

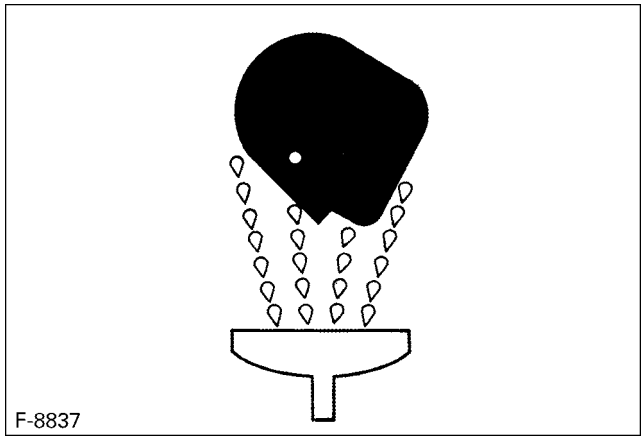
5. 点検・給油・整備時に

1. 平坦な場所に駐車し，作業機を**“下げ”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，モーア昇降レバー，集草バッグ操作レバー及び速度コントロールペダルを**“中立”**，PTO を**“切”**にし，そしてエンジンを停止してください。

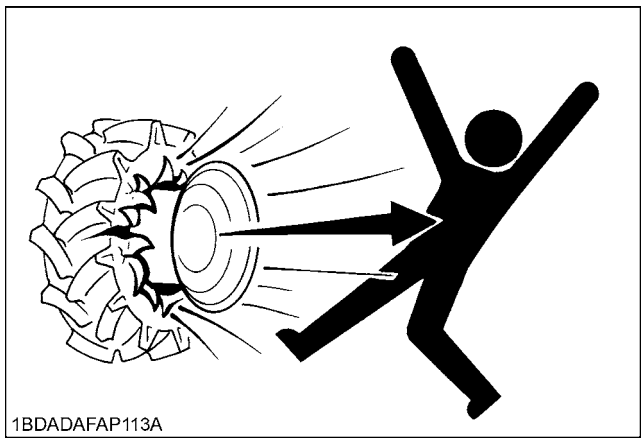
2. トラクタ及びモーアが動いているときは，いかなる調整も修理もしてはいけません。
3. エンジン・マフラなどが十分冷えてから点検整備してください。ヤケドのおそれがあります。
4. 本機の下で作業するときは，機械をスタンドや適切なブロックで確実に支えてから作業してください。安全のため，油圧で支える装置は使用しないでください。急に落下する可能性があります。
5. 刈刃は鋭く，手を切るおそれがあります。点検するときは，刈刃を覆うかまたは手袋をして，特に注意してください。
6. 持上げられた集草機の下に入らないでください。
7. 燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
   バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。


F-8836A

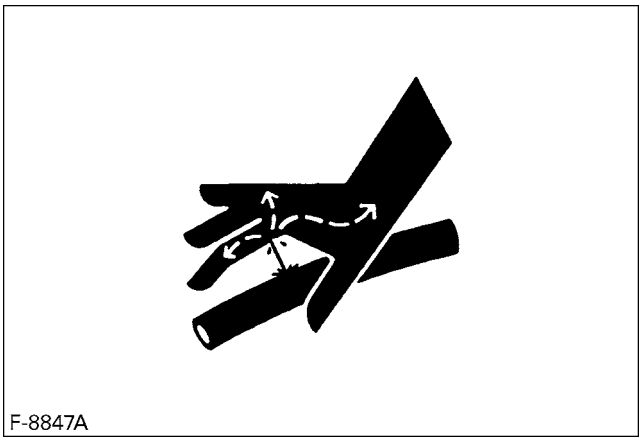
8. 放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
   (エンジンの始動と停止の章**“バッテリあがりの処置”**を参照)
9. バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
   LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
   すぐにUPPER LEVEL(上限)とLOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。(補水可能なバッテリの場合)
10. バッテリを外すときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。
11. バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。

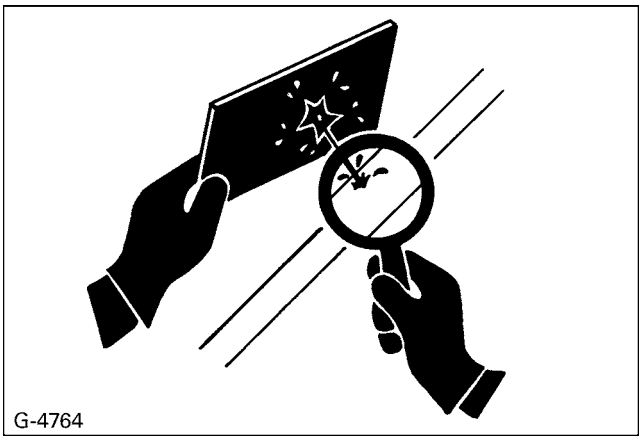

F-8837

12. タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
    空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
13. タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。
    タイヤ破裂のおそれがあります。
14. タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
    (特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。)

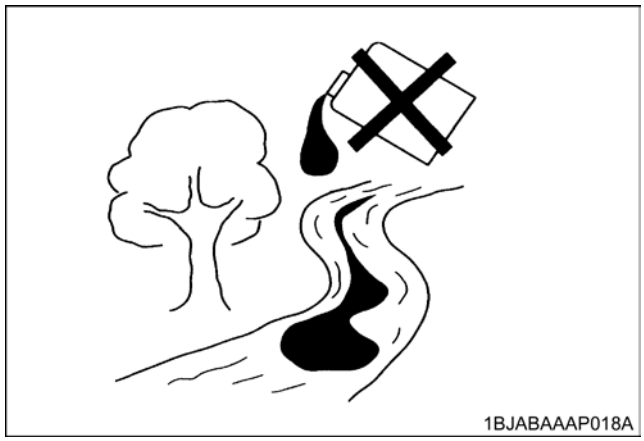

1BDADAFAP113A

15. 圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。
16. 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
    万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こすおそれがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。

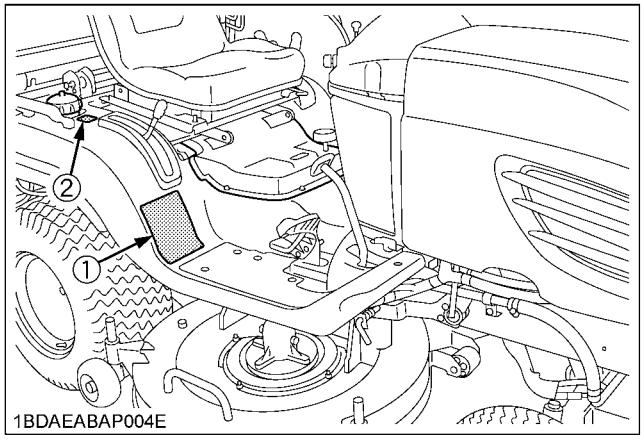

F-8847A

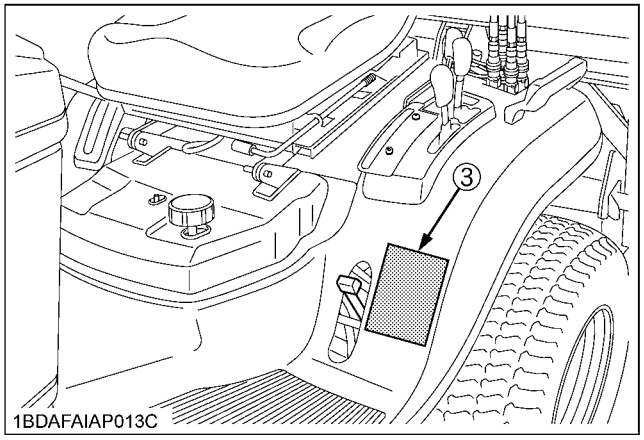

G-4764

17. 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者等に相談して，所定の規則に従って処理してください。
    機械から廃油を抜く場合は，容器に受けてください。
    守らないと環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

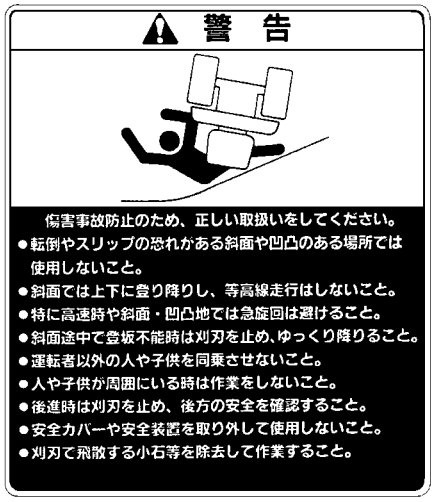

1BJABAAAP018A

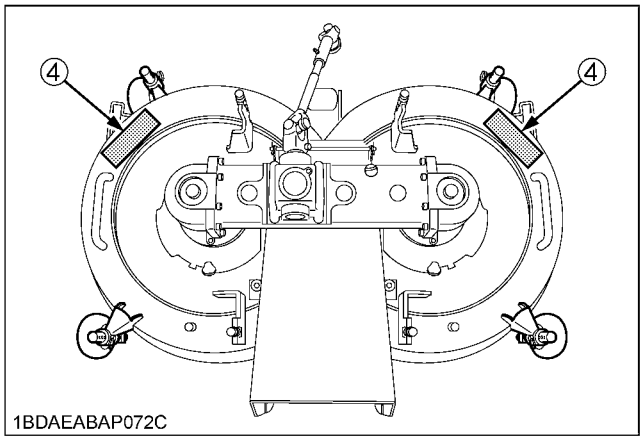
6. 表示ラベルと貼付位置





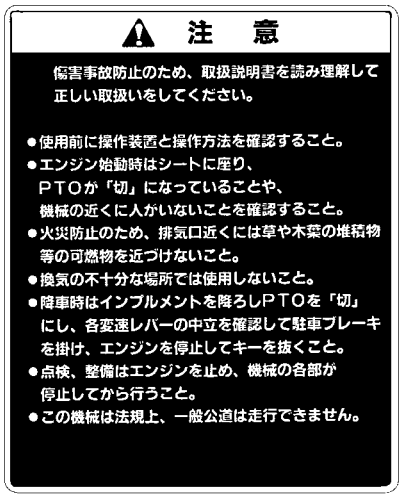
(1) 品番　K2058-6552-1





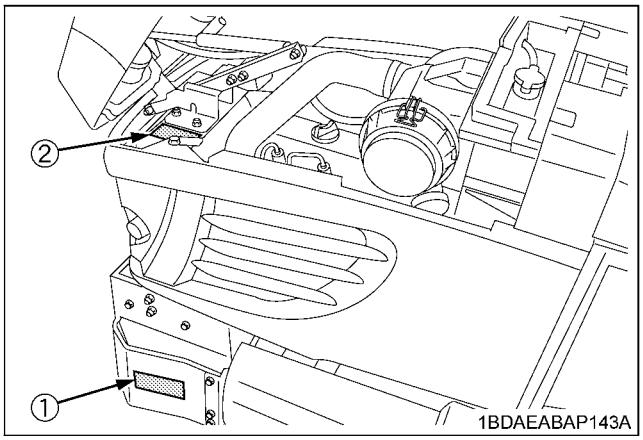
(2) 品番　K2058-6565-1

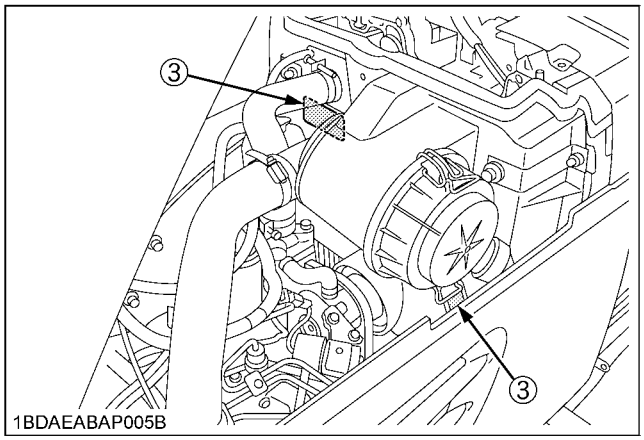
(3) 品番　K2058-6553-1



(4) 品番　K5438-6512-1

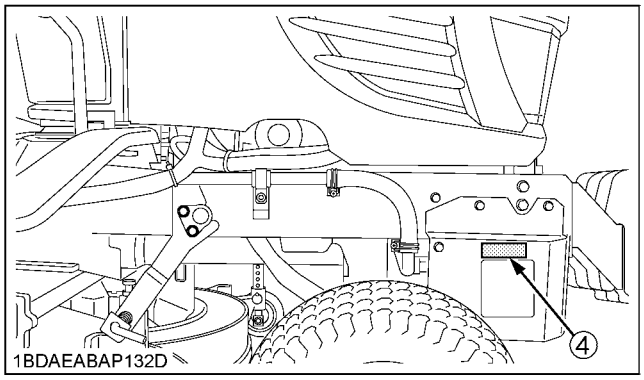
1BDAFAIAP026A





(1) 品番　K2058-6564-1

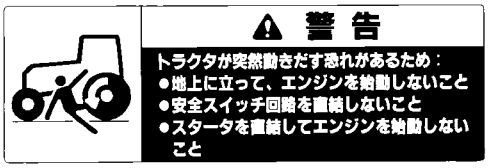
1BDAFAIAP025A



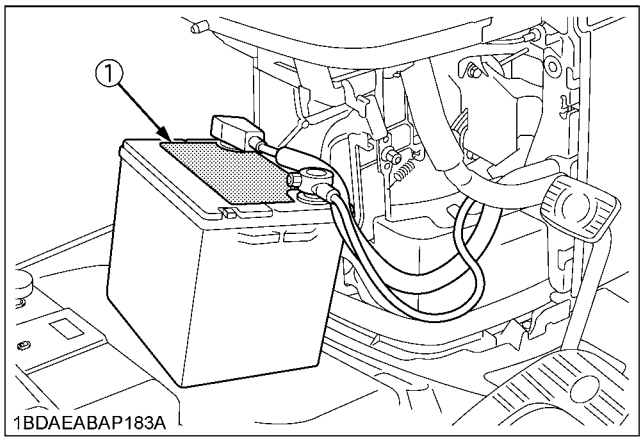
(2) 品番　K2058-6555-1

(3) 品番　K2058-6526-1

(4) 品番　K2058-6554-1



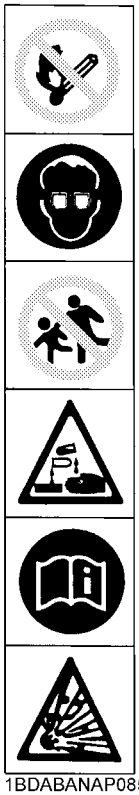
1BDAFAIAP027A



1BDAEABAP183A

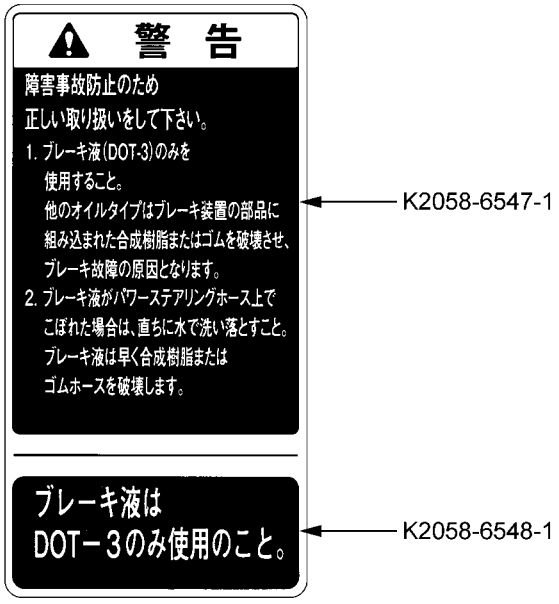
(1) 品番　K1221-6118-1

MAINTENANCE FREE • SANS ENTRETIEN • LIBRE DE MANTENIMIENTO
DANGER/POISON ¡PELIGRO/VENENO!
SHIELD EYES. EXPLOSIVE GASES CAN CAUSE BLINDNESS OR INJURY.
NO •SPARKS •FLAMES •SMOKING
SULFURIC ACID CAN CAUSE BLINDNESS OR SEVERE BURNS.
FLUSH EYES IMMEDIATELY WITH WATER. GET MEDICAL HELP FAST.
PROTÉGEZ LES YEUX. LES GAZ EXPLOSIFS PEUVENT BLESSER OU RENDRE AVEUGLE.
ÉVITER •LES ÉTINCELLES •LES FLAMMES •DE FUMER
L'ACIDE SULFURIQUE PEUT CAUSER LA CÉCITÉ OU DES BRÛLURES GRAVES.
RINCEZ LES YEUX À L'EAU IMMÉDIATEMENT CONSULTEZ UN MÉDECIN RAPIDEMENT.
PROTEJA LOS OJOS. LOS GASES EXPLOSIVOS PUEDEN CAUSAR DANOS O CEGUERA.
NO •CHISPAS •FLAMAS •CIGARROS
ÁCIDO SULFURICO PUEDE CAUSAR CEGUERA O QUEMADURAS FUERTES.
ENJUAGUE LOS OJOS INMEDIATAMENTE CON AGUA. ACUDA RÁPIDO CON EL MEDICO.
KEEP OUT OF THE REACH OF CHILDREN. DO NOT TIP. DO NOT OPEN BATTERY!
TENIR HORS DE LA PORTÉE DES ENFANTS. NE PAS RENVERSER. NE PAS OUVRIR LA BATTERIE!
ALEJESE DEL ALCANCE DE LOS NIÑOS. NO VOLTEAR. ¡NO ABRIR LA BATERIA!
CALIFORNIA PROPOSITION 65 WARNING: Batteries, battery posts, terminals and related accessories contain lead and lead compounds, and other chemicals known to the State of California to cause cancer and birth defects or other reproductive harm. WASH HANDS AFTER HANDLING.
If battery is put into service after date shown, charge for minimum of 1 hour at 6-10 amps.
Si la mise en service de cette batterie s'effectue après la date indiquée, veillez recharger de 5 à 10 ampères pendant 1 heure.
Si la batería es puesta en servicio después de la fecha que se muestra, cárguela durante un mínimo de 1 hora a 6-10 amperes.
MADE IN U.S.A. FABRIQUÉ AUX É.U.A. HECHO EN E.U.A.
PART NO.
CCA
CA
Pb
1BDABDMAP013A

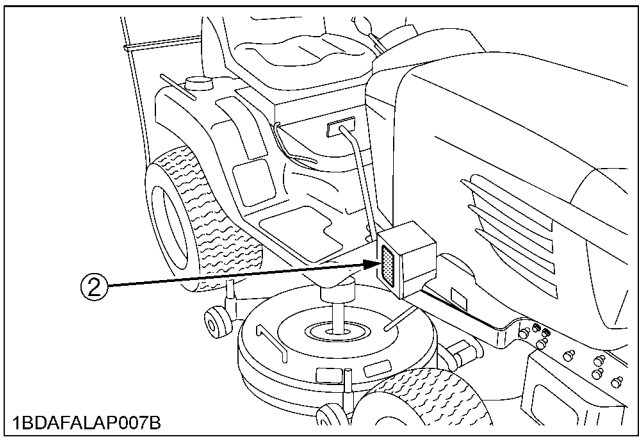

1BDABANAP085A

- 火気禁止
- メガネ着用
- こども禁止
- 硫酸注意
- 説明書熟読
- 爆発注意

(2) 品番　K2058-6547-1, K2058-6548-1

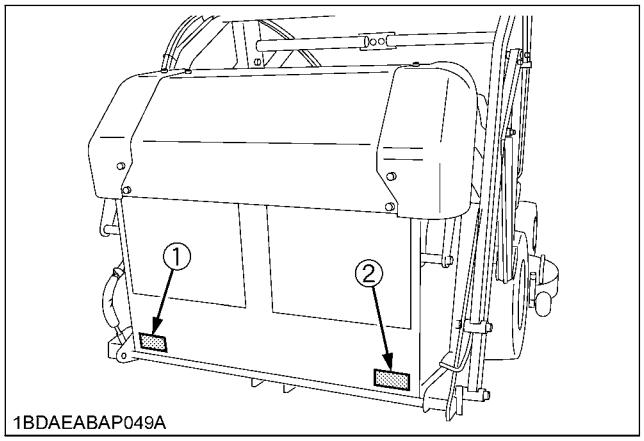


1BDAFALAP002D



1BDAFALAP007B

1BDAFAIAP109D



1BDAEABAP049A

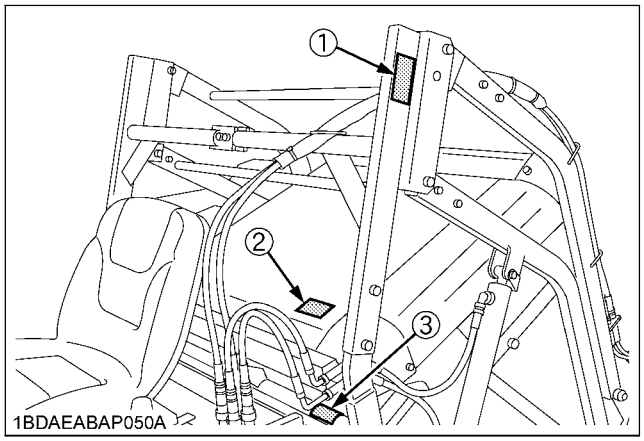
(1) 品番　K6318-6513-1

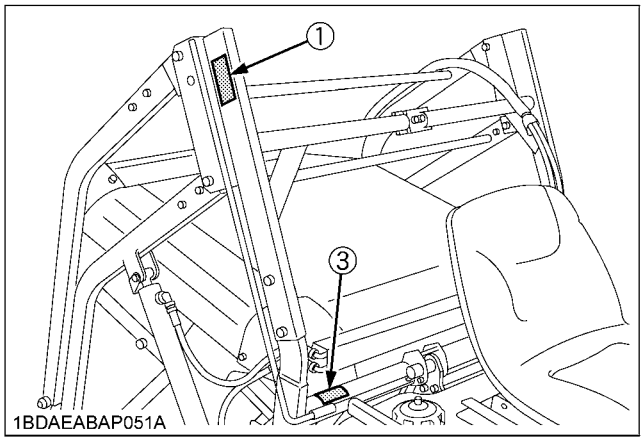
1BDAFAIAP033A

(2) 品番　K6318-6512-1

1BDAFAIAP034A

1BDAFAIAP029A

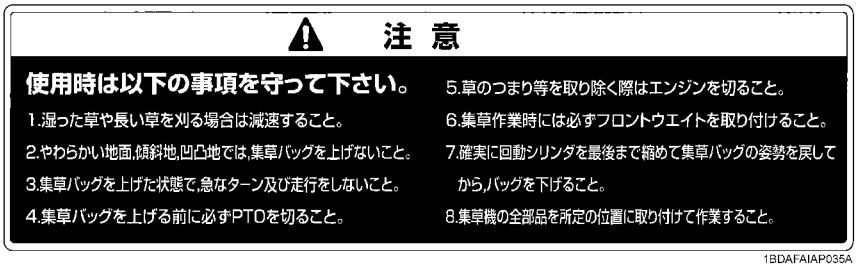




(1) 品番　K6318-6513-1

(3) 品番　K6318-6512-1

(2) 品番　K6318-6514-1



1BDAFAIAP030A

7. 表示ラベルの手入れ

1. ラベルはいつもきれいにして傷付けないようにしてください。
   ラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
2. 高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
3. 損傷や紛失したラベルは，新しいラベルを購入先から入手して交換してください。
4. ラベルがある部品を新しい部品と交換する場合は，新しいラベルを交換する部品と同じ場所に貼付けてください。
5. 新しいラベルは，汚れていない乾燥した面に貼付け，気泡を端から押し出して貼ってください。

サービスと保証について

この製品には，保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際銘板に記載している

1. 型式名と車台番号
2. エンジン名称とエンジン番号
3. モーア名称とモーア番号
4. 集草機名称と集草機番号

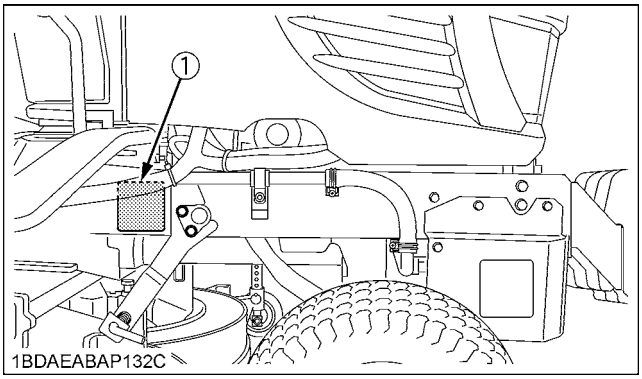
を併せてご連絡ください。
なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

警 告

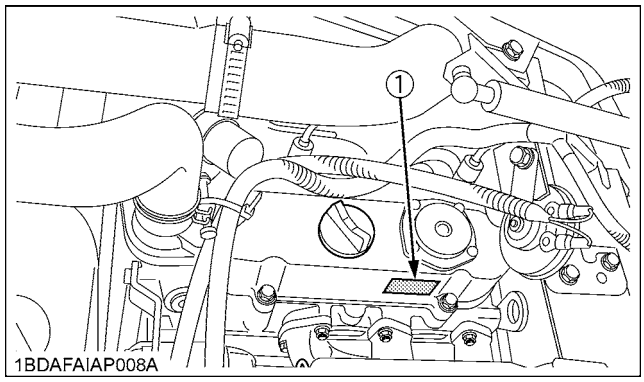
＊ 機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

■ 補修用部品の供給年限について

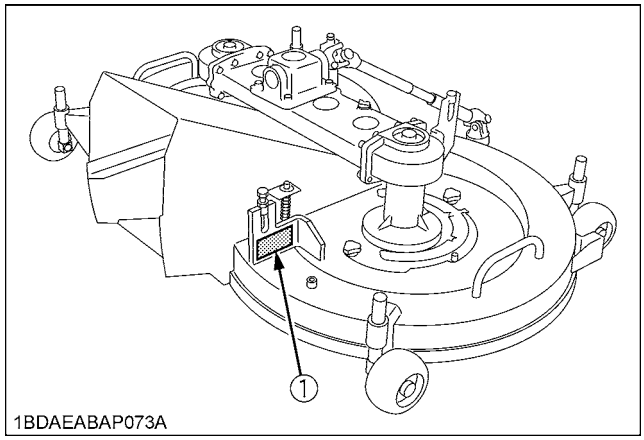
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。



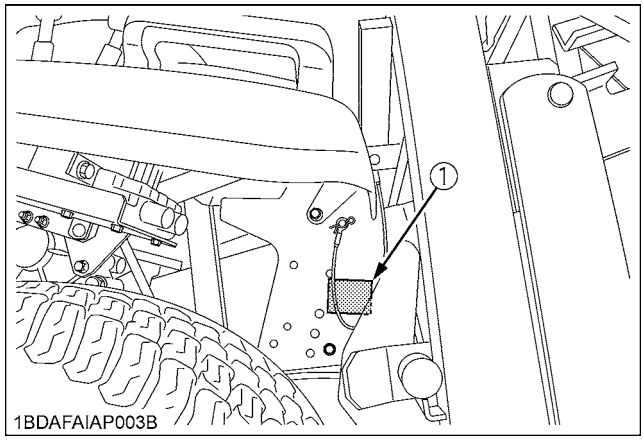
(1) 型式名，車台番号



(1) エンジン名称，エンジン番号



(1) モーア名称，モーア番号



(1) 集草機名称，集草機番号

主要諸元

トラクタ

型式名				G23HD-J
エンジン	機関型式			D902-E3-GT
	形式			水冷４サイクル３気筒立形ディーゼル
	総排気量		cc	898
	シリンダ内径×行程		mm	72 × 73.6
	最大出力／定格回転数	kW/rpm(PS/rpm)		17.1/3200 (23.3/3200)
	使用燃料			ディーゼル軽油
	始動方式			セルモータ式
	冷却方式			水冷ラジエータ式
	バッテリ			75D23L
容量	燃料タンク		L	20.5
	エンジンオイル		L	3.1
	トランスミッションオイル		L	11
タイヤ	前輪			16 × 7.50 - 8
	後輪			24 × 12.00 - 12
走行速度	前進		km/h	0 ～ 15.5
	後進		km/h	0 ～ 10
車両寸法	全長（集草機を含み，HD 用フロントウエイトブラケット非搭載時）		mm	3160
	全幅(モーア含む)		mm	1266
	全高		mm	1600
	軸距		mm	1390
	輪距	前輪	mm	900
		後輪	mm	840
質量(モーアおよび集草機非搭載時）			kg	520
PTO 軸	回転数		rpm	2600
	PTO クラッチ方式			ベルトテンションクラッチ
変速方式				油圧無段変速（HST）
制動方式	後輪			乾式ディスクブレーキ
	駐車ブレーキ			後輪，ハンドレバー

モーア

型式名		RCK48-G23-J
装着方式		クイックジョイント，平行リンク装着
刈高さ調整方式		ダイヤル式
刈幅	mm	1219
刈高さ	mm	25 ～ 102
質量(約)	kg	120
刈刃枚数		2
全長	mm	895
全幅	mm	1266
全高	mm	400
刈草放出方向		後方

集草機

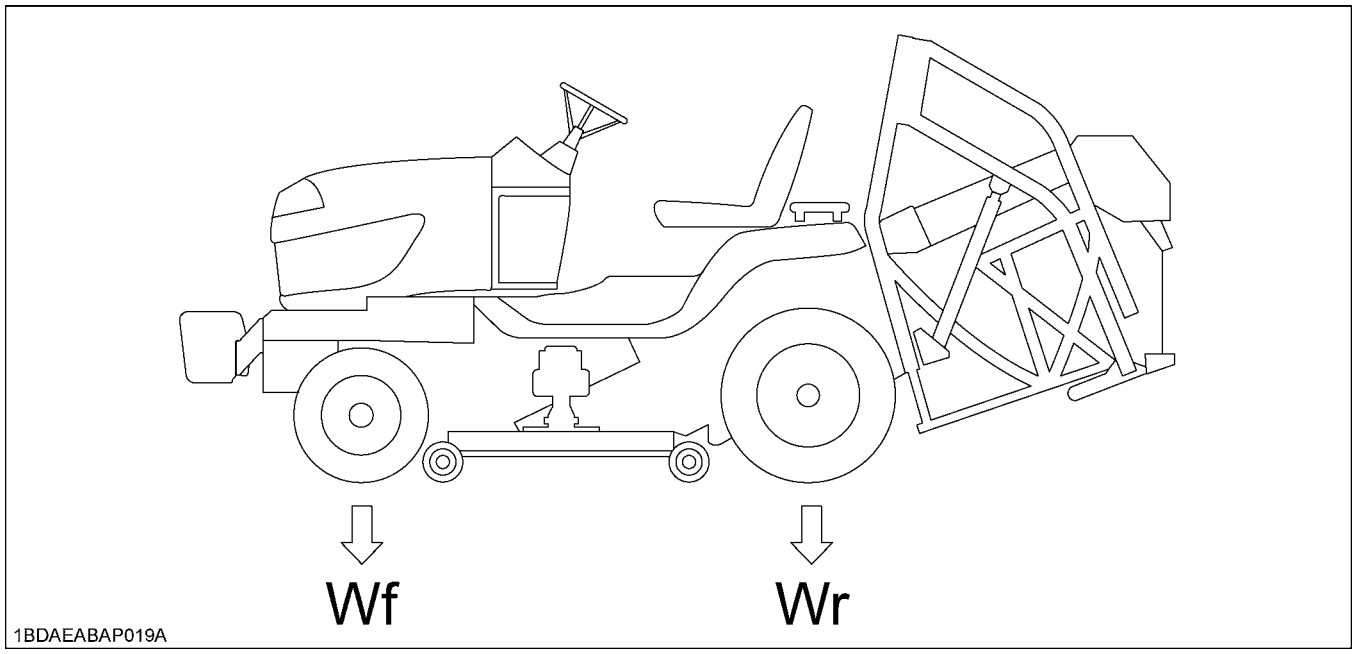
型式名		GCK-G26HD-J
集草容量	L	640
質量(約)	kg	220
排出高さ	mm	1930

この諸元は，改良のため予告なく変更することがあります。

作業機に対する制限

クボタの機械は，クボタが販売または承認する作業機で正しい性能が発揮されるように十分にテストされています。下記の最大負荷重量を超える作業機，またはクボタの機械との使用が推奨されない作業機の使用は，機械の不具合や故障，その他の損傷および運転者やその他の人のケガの原因になるおそれがあります。（不適切な使用による機械の不具合や故障は保証の対象外です。）

	最大車軸負荷重量		
型式	前車軸 Wf	後車軸 Wr	総重量
G23	400 kg	850 kg	1200 kg



■ ウエイト

注　意

＊ 重い作業機には，追加のウエイトが必要になります。作業機を持ち上げて起伏のある地面を運転するときは，使用しているウエイトの量に関係なく，ゆっくり運転してください。
＊ 前側の安定性を高め，前側が持ち上がらないようにするには，フロントウエイトを追加します。
＊ 登坂時は必ず後進してください。前進すると，機械が後方に転倒するおそれがあります。安全な作業ができない急な丘陵や坂は避けてください。

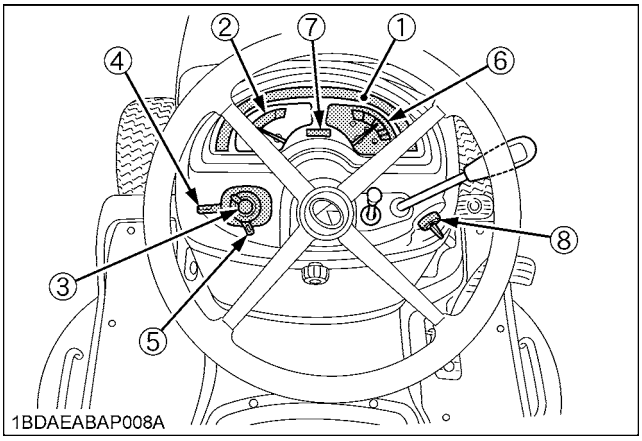
補　足

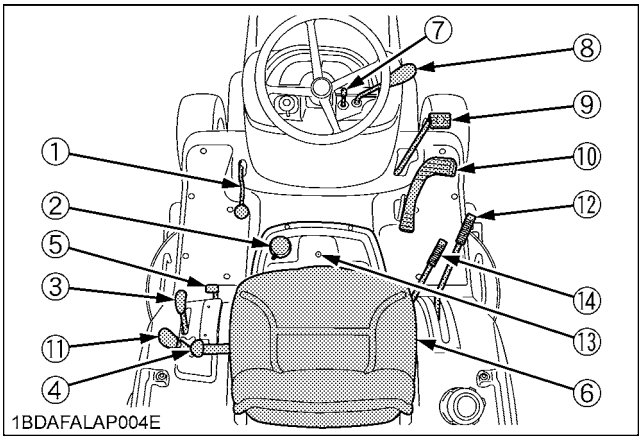
＊ ハイダンプ式集草機には，フロントウエイトキットを必ず取付けてください。

ロータリー耕うん機など，重い後部装着の作業機を取付けているときは，安定性およびステアリングコントロールのためにフロントウエイトを追加します。また，フロントウエイトは，連結装置を通じてけん引されている作業機による後輪にかかる重量を相殺します。重い後部装着の作業機の搬送中は，安定性および安全のため，必要に応じてフロントウエイトを追加します。前側のウエイトを装着していても，重い後部装着の作業機を持ち上げた状態で，起伏のある地面で機械を速い速度で運転した場合，必要な安定性が得られない場合もあります。こうした状況では，注意してゆっくり運転してください。ウエイトは機械の稼働能力を超えて使用しないでください。ウエイトが不要な場合は必ず取外してください。安定性のために必要な場合は，後側にウエイトを追加します。重い前部装着の作業機は，後輪を持ち上げる傾向があります。ステアリングのコントロールを維持し転倒を防止するために，十分なウエイトを追加します。作業機の取扱説明書には，使用の際必要なリアウエイトの量が示されています。リアウエイトは，購入先からお求めいただけます。

運転に必要な各部の名称

各装置の正しい名称と働きを理解してください。ご不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。





	参照ページ
(1) イージーチェッカ (TM).....	24
(2) 水温計	25
(3) ホーンボタン	21
(4) 方向指示器スイッチ (ライトが装備されている場合のみ)	–
(5) ヘッドランプスイッチ	20
(6) 燃料計	25
(7) アワメータ / タコメータ	26
(8) キースイッチ	16

	参照ページ
(1) 駐車ブレーキロックペダル ..	14
(2) 刈高さ調整ダイヤル	28
(3) モーア昇降レバー	21
(4) PTO レバー.....	29
(5) デフロックペダル	27
(6) シート	20
(7) 速度設定ロッド	23
(8) スロットルレバー	22
(9) ブレーキペダル	14, 23, 26
(10) 速度調整ペダル	23
(11) 集草機コントロールレバー .	21
(12) クイッククリーンレバー ...	34
(13) HST バイパスボタン	27
(14) 駐車ブレーキレバー	14

モーアの着脱のしかた

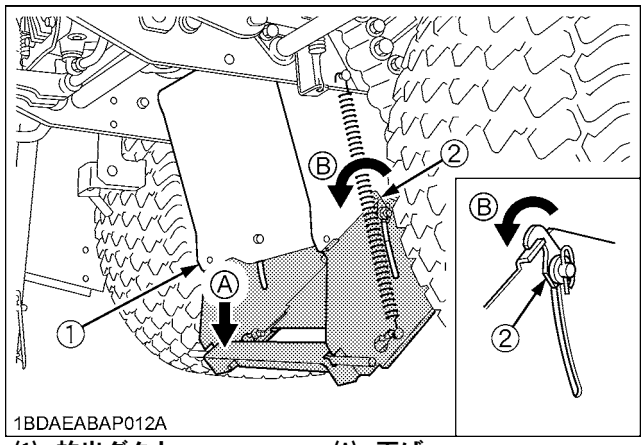
モーアデッキの装着

注　意

＊ モーアを取付ける前に，エンジンを停止しキーを抜いてください。

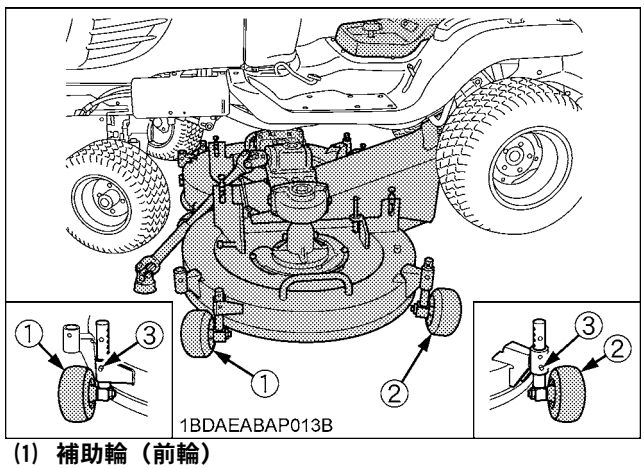
■モーアデッキの装着

1. 機械を水平な場所に駐車し，機械の左側にモーアデッキを置いてください。
2. 前輪を右に切ってください。
3. 放出ダクトを下げ，ロックプレートで一番低い位置にセットします。

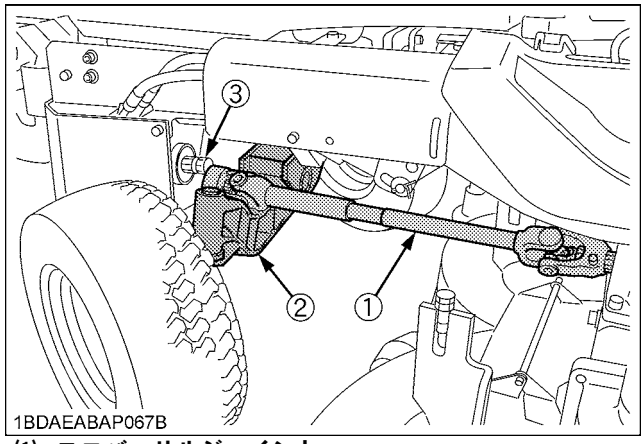


(1) 放出ダクト　　**(A) 下げ**
(2) ロックプレート　　**(B) ロック**

4. モーアデッキを機械の下に滑り入れて，ユニバーサルジョイントを前車軸の上に置きます。頭付きピンが前後すべての補助輪の下穴にセットされていることを確認します。



(1) 補助輪（前輪）
(2) 補助輪（後輪）
(3) 頭付きピン



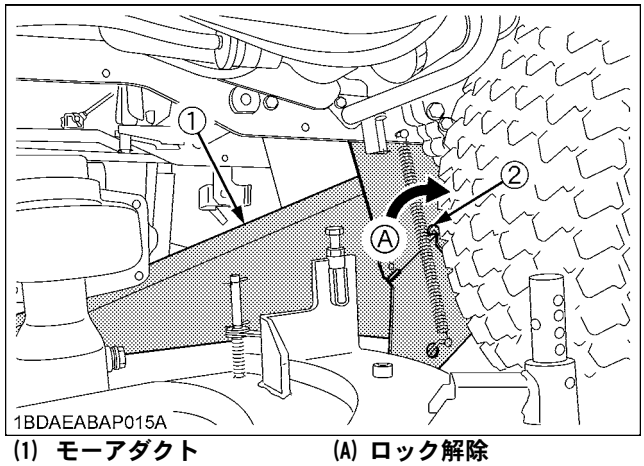
(1) ユニバーサルジョイント
(2) 前車軸
(3) PTO 軸

5. モーアデッキを機械の後方に移動し，モーアダクトを放出ダクトに差込んでください。

補　足

＊ モーアダクトが放出ダクトの内側に適切にセットされていることを確認してください。

6. ロックプレートのロックを解除してください。

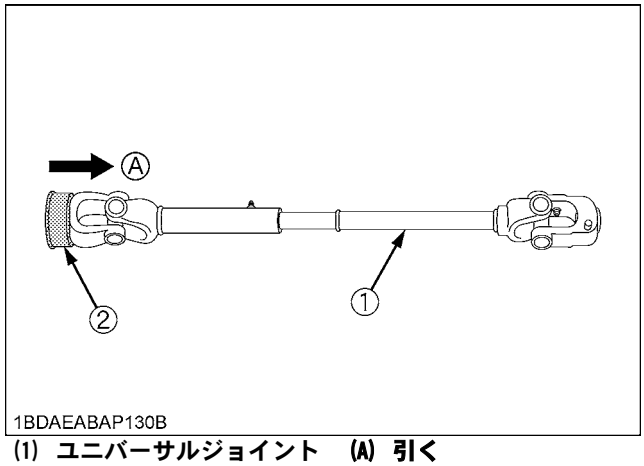


(1) モーアダクト　　**(A) ロック解除**
(2) ロックプレート

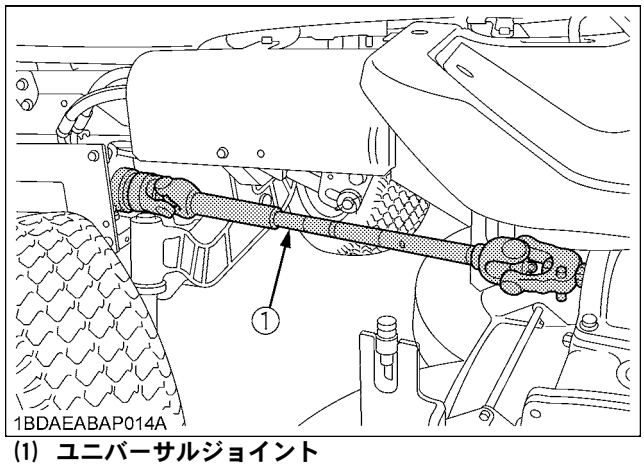
7. ユニバーサルジョイントのカプラを引いてください。
   カプラがロックするまで，ユニバーサルジョイントを PTO 軸に押入れてください。
   ユニバーサルジョイントが完全にロックされているかを確認するためにユニバーサルジョイントを前後に動かしてください。

重　要

＊ しっかりと固定されているかどうかをチェックするために最後にユニバーサルジョイントを引いてみてください。

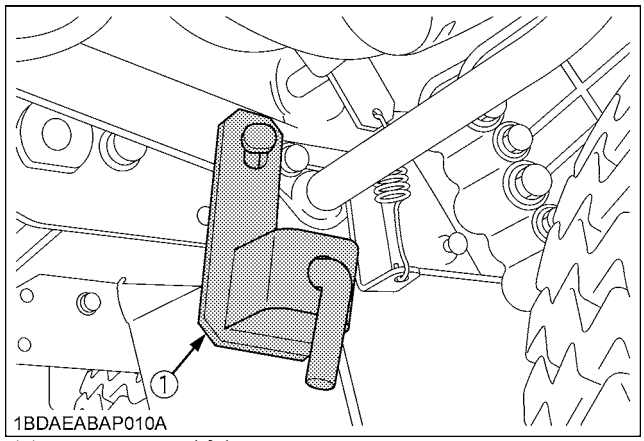


(1) ユニバーサルジョイント　(A) 引く
(2) カプラ



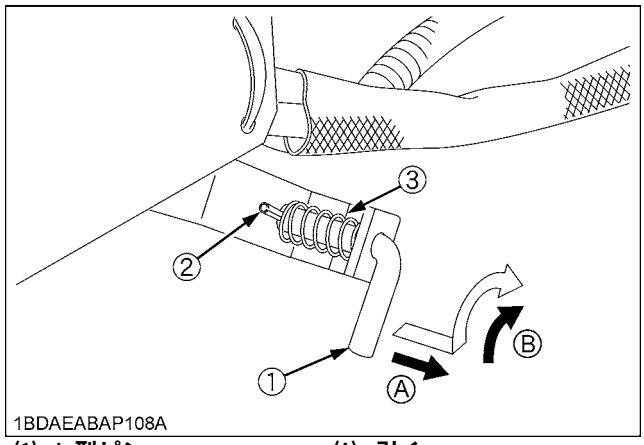
(1) ユニバーサルジョイント

8. リアアーム（左）を取付けてください。
   リアアーム（右）も取付けてください。



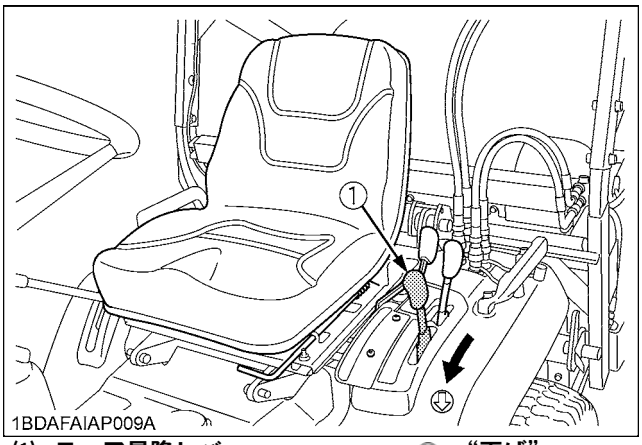
(1) リアアーム（左）

9. L 型ピンを引いてロックします。４個の L 型ピンを全てロックしてください。

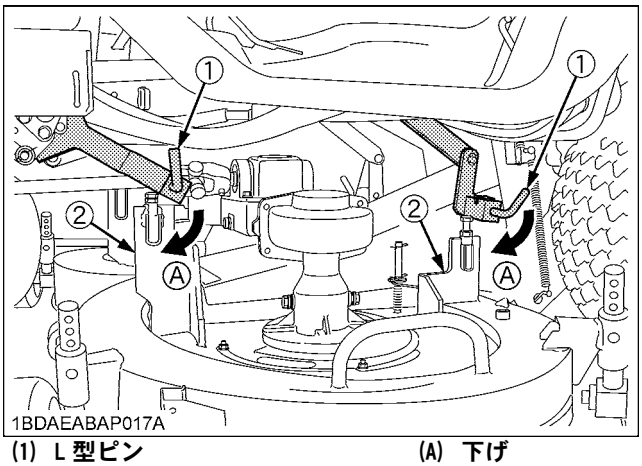


(1) L 型ピン
(2) ピン
(3) 切り欠き
(A) 引く
(B) ロック

10. 刈高さ調整ダイヤルを０の位置に回してください。
    モーア昇降レバーを**“下げ”**の位置にセットしてください。リンクアームを押下げてモーアブラケットと一致させてください。

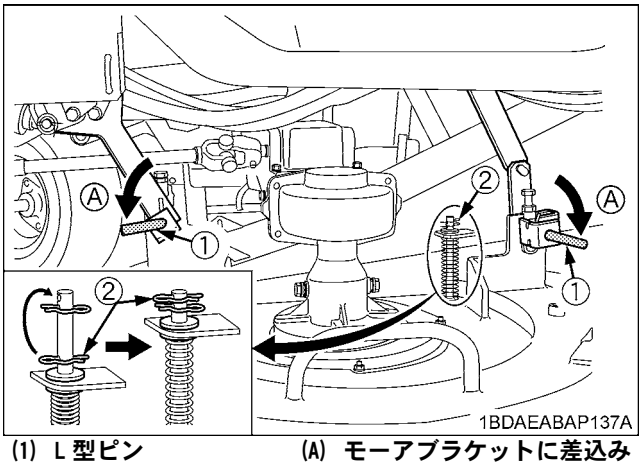


(1) モーア昇降レバー　　“下げ”



(1) Ｌ型ピン　　(A) 下げ
(2) モーアブラケット

11. ４個のＬ型ピンを全てモーアブラケットに差込み，モーアデッキをロックしてください。下側のスナップピンを上の位置に移動してください。



(1) Ｌ型ピン　　(A) モーアブラケットに差込み
(2) スナップピン

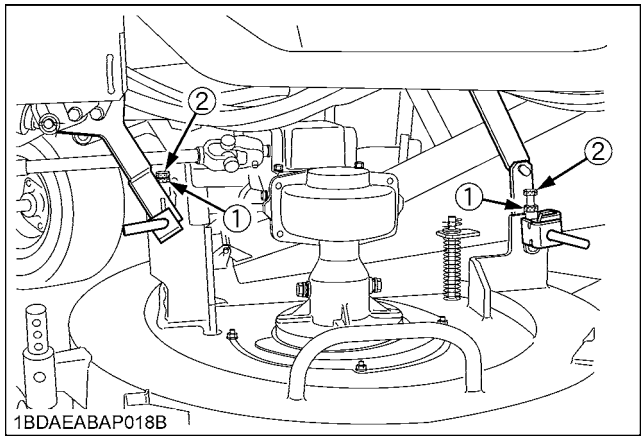
12. エンジンを始動し，刈高さ調整ダイヤルをTOPの位置（12.7cm，５インチ）にして，モーアをセットしてください。
13. エンジンを停止させてください。

モーアデッキの調節（前後）

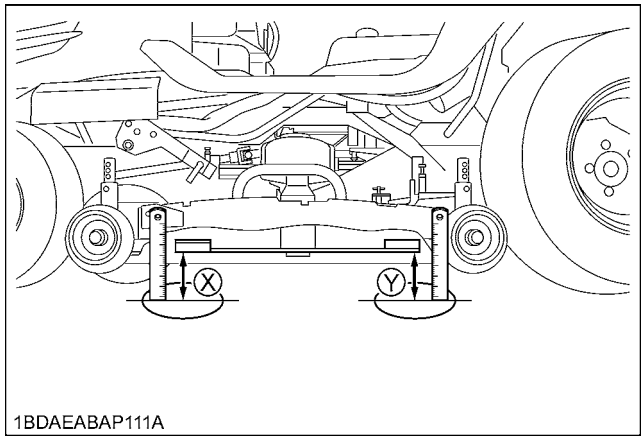
注　意

＊ エンジンを停止しキーを抜いてください。
＊ 駐車ブレーキを掛けてください。
＊ 刈刃が停止してから調整してください。
＊ 刈刃は非常に鋭いので，刈刃を触るときには厚手の手袋をするか，刈刃の先端を布でカバーしてください。

1. 機械を水平に駐車してください。
2. タイヤの空気圧は規定圧力にセットしてください。
   (**“タイヤおよび車輪”**の章を参照してください。)
3. モーア昇降レバーを上の位置に移動してください。
   刈高さ調整ダイヤルを希望の高さに調整してください。
4. モーア昇降レバーを前方に押して，モーアデッキを下げてください。
5. 機械の方向と平行になるように左の刈刃を回してください。
6. 刈刃が水平であることを確認してください。ロックナットをしっかりと締めてください。
   Ａが０～５ mm になるようにロックナット付きボルトを調整してください。
   A = (Y) - (X)



(1) ロックナット
(2) 調整ボルト

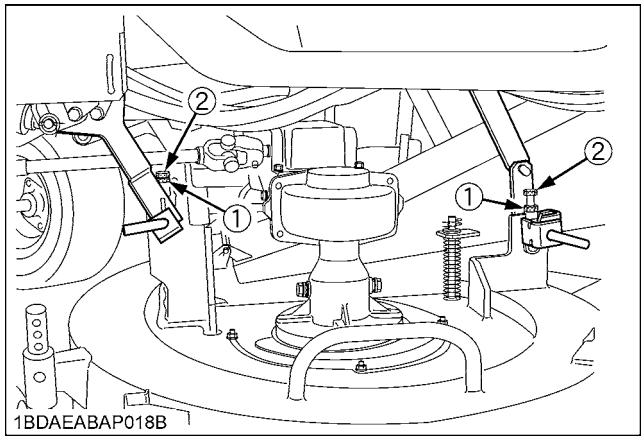


モーアデッキの調節（左右）

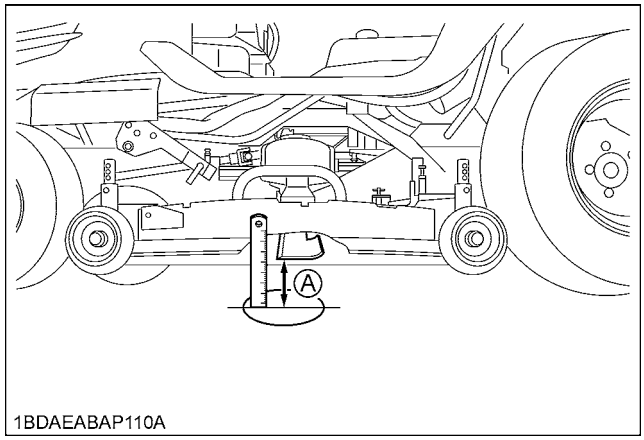
注 意

＊ エンジンを停止しキーを抜いてください。
＊ 駐車ブレーキを掛けてください。
＊ 刈刃が停止してから調整してください。
＊ 刈刃は非常に鋭いので，刈刃を触るときには厚手の手袋をするか，刈刃の先端を布でカバーしてください。

1. 機械を水平に駐車してください。
2. タイヤの空気圧は規定圧力にセットしてください。
   (**“タイヤおよび車輪”**の章を参照してください。)
3. モーア昇降レバーを上の位置に移動してください。
   刈高さ調整ダイヤルを希望の高さに調整してください。
4. モーア昇降レバーを前方に押して，モーアデッキを下げてください。
5. 後車軸と平行になるように左の刈刃を回してください。
6. 左の刈刃の外端から平らな地面までの高さ(A)を測定してください。次に後車軸と平行になるように右の刈刃を回してください。左と同様に，右の刈刃の外端から平らな地面までの高さ(A)を測定してください。



(1) ロックナット
(2) 調整ボルト



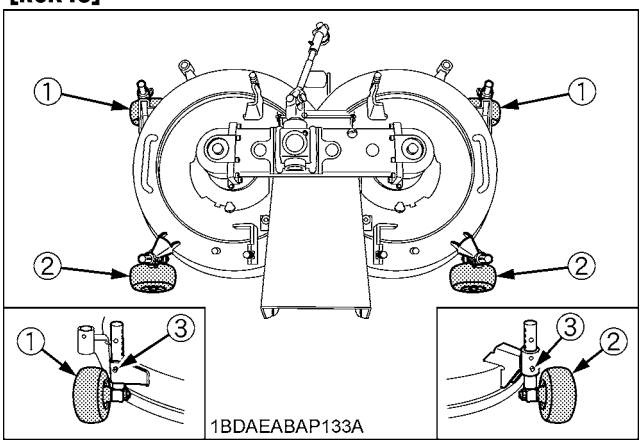
(A) “刈刃の外端から平らな地面までの高さ”

7. モーアステーのロックナット付きボルトを調整して，左の刈刃と右の刈刃の外端から平らな地面までの高さ(A)の違いが3 mmになるようにしてください。

モーアデッキの取外し

1. モーアデッキを上げ位置にしてください。
   取付けおよび取外しの際，下図のように補助輪（前輪）をセットしてください。必ず，頭付きピンは前輪の補助輪の下の穴にセットしてください。
   RCK48 : 2箇所
2. 刈高さを3.5インチ（8.9cm）以下にセットしてください。
   取付けおよび取外しの際，下図のように補助輪（後輪）をセットしてください。必ず，頭付きピンは後輪の補助輪の下の穴にセットしてください。
   RCK48 : 2箇所

[RCK48]



(1) 補助輪（前輪）
(2) 補助輪（後輪）
(3) 頭付きピン

3. モーア昇降レバーを**“下げ”**の位置にセットしてください。
4. モーアデッキの取付け手順を逆に行なってください。

集草機の着脱のしかた

集草機の取付け

注 意

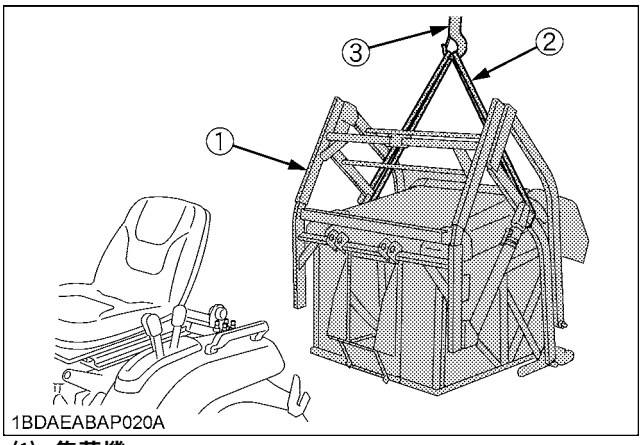
＊ 集草機を取付ける前に，エンジンを停止しキーを抜いてください。
＊ 駐車ブレーキを掛けてください。

補 足

＊ ハイダンプ式集草機には，フロントウェイトキットを必ず取付けてください。

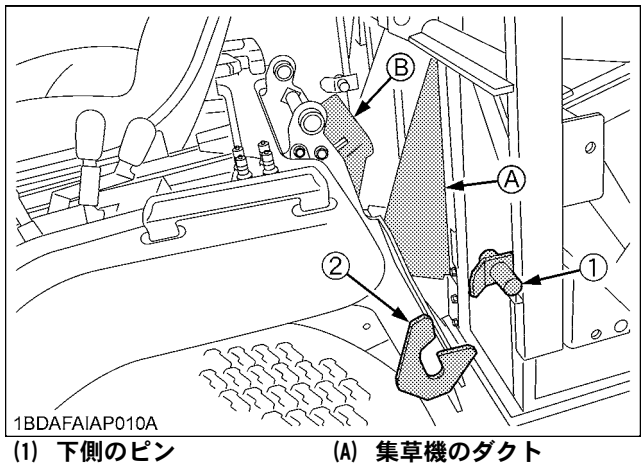
■集草機の装着

1. 機械を平たん地に停車し，エンジンを停止しキーを抜いてください。
2. 集草機を図のようにフックでつなぎます。



(1) 集草機
(2) ナイロンスリング
(3) ウィンチ

3. 下側のピンをフックにはめます。

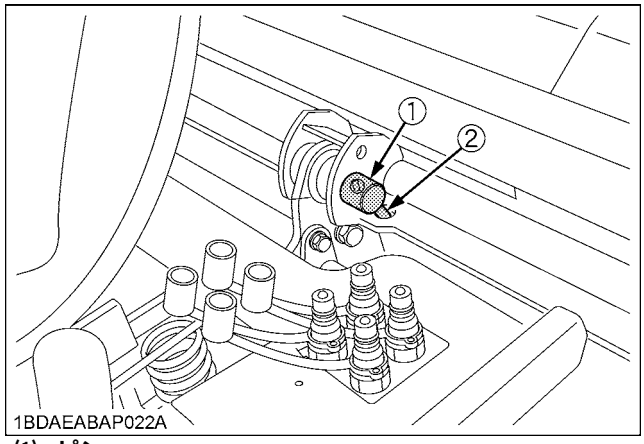


(1) 下側のピン
(2) フック
(A) 集草機のダクト
(B) トラクタのダクト

補 足

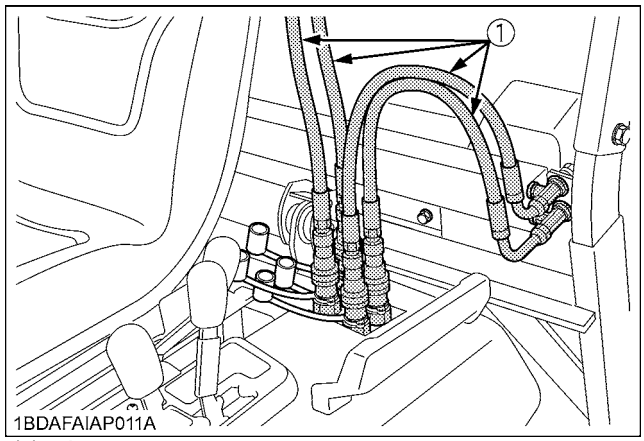
＊ 集草機のダクトがトラクタのダクトに差込まれていることを確認します。
＊ 油圧ホースがフェンダと集草機の間にはさまれていないことを確認します。

4. ピンをボスに差込みます。
   ロッドが穴に差込まれていることを確認します。



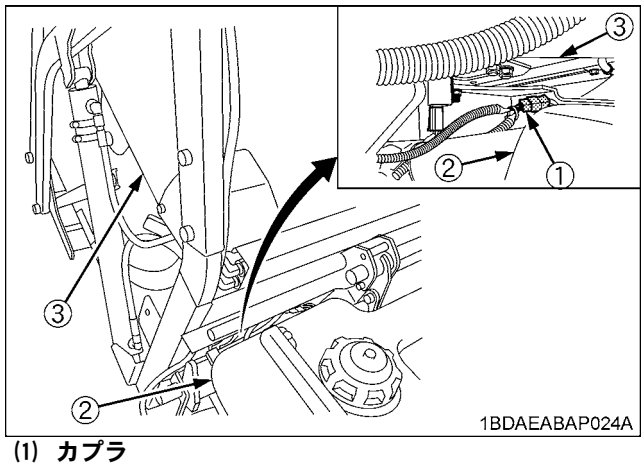
(1) ピン
(2) ロッド

5. 油圧ホースを同じ色のタグが付けられた油圧カプラに取付けます。



(1) 油圧ホース

6. ワイヤハーネス（配線）をカプラに接続します。



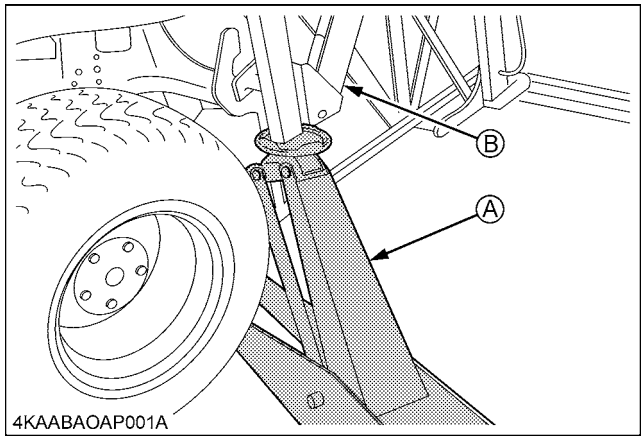
(1) カプラ
(2) トラクタ
(3) 集草機

■集草機の取り外し

集草機を取外すには上記の手順を逆に行なってください。

補　足

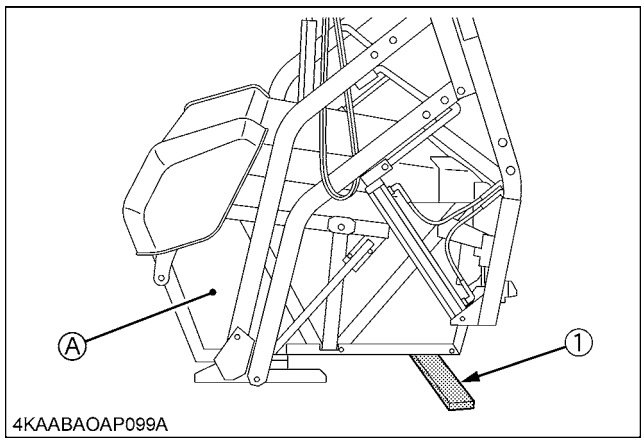
＊ 集草機のピンを外しやすくするために，ガレージジャッキで集草機を支えてください。



(A) ガレージジャッキ
(B) 集草機

重　要

＊ センサーの破損を防ぐために，集草機の前側の下部に，木材をセットしてください。



(1) 木材　　(A) 集草機

エンジンの始動と停止

注 意

＊ この取扱説明書の“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊ 本機に貼ってある表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊ 有害な排気ガス中毒の危険を避けるため，換気が不十分な屋内でエンジンをかけないでください。
＊ 地上に立ってエンジンを始動しないでください。必ずシートに座ってエンジンを始動してください。
＊ エンジンを始動する前に，すべてのシフトレバーが“中立”にあり，PTO レバーが“切”の位置になっていることを必ず確認してください。

重 要

＊ 始動液やエーテルを使用しないでください。
＊ バッテリおよびスタータを保護するために，スタータを連続して30秒以上回さないでください。

エンジンの始動

1. 駐車ブレーキが掛かっていることを確認してください。

■駐車ブレーキ

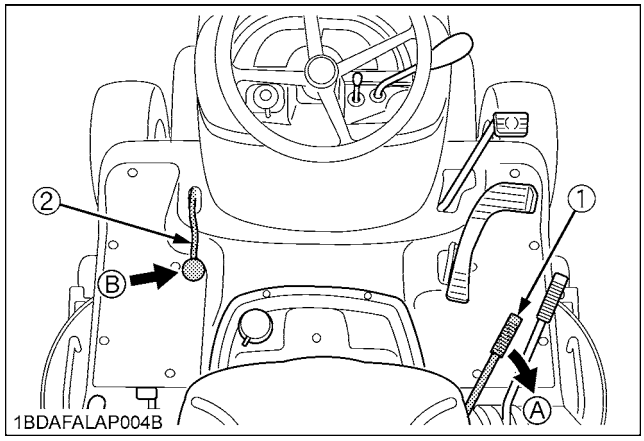
注 意

＊ 機械のシートを離れる前には，必ず駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止し，キーを抜いてください。

1. 駐車時には，必ず駐車ブレーキを掛けてください。

駐車ブレーキを掛けるには

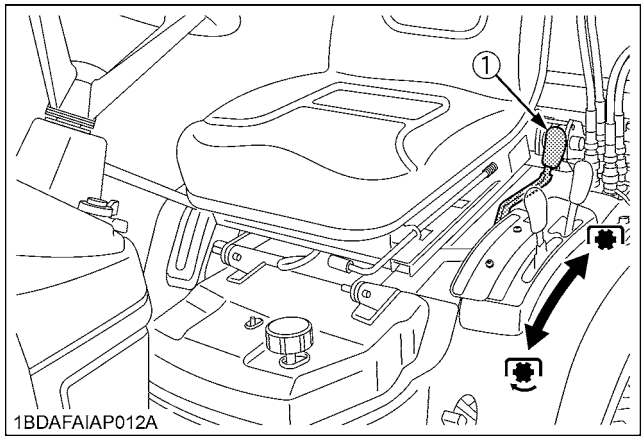
(1) 駐車ブレーキレバーを引いてください。
(2) 駐車ブレーキロックペダルを踏み込んでください。



(1) 駐車ブレーキレバー
(2) 駐車ブレーキロックペダル
(A) “引く”
(B) “(1) を引いた状態で踏込む”

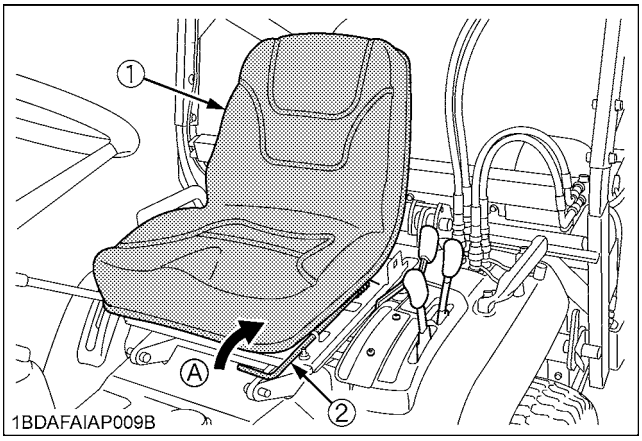
2. 機械から降りる前に，PTO を止め，すべての作業機を地面に降ろし，すべてのコントロールレバーを**“中立”**の位置にして，駐車ブレーキを掛け，エンジンを止め，キーを抜いてください。
3. やむをえず坂道で駐車する場合は，誤って機械が動かないようにタイヤに車止めをしてください。

2. PTO が確実に“切”の位置になっているかを確認してください。



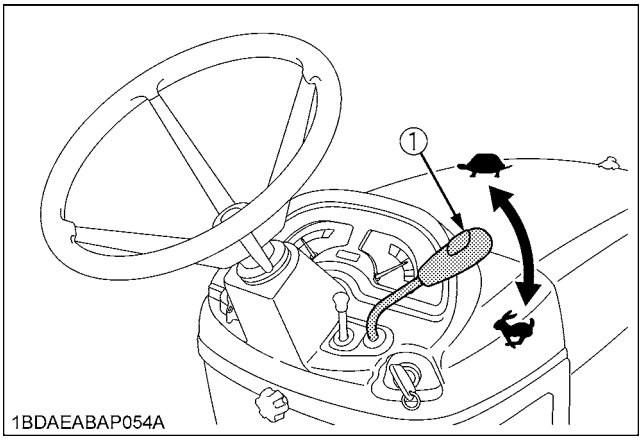
(1) PTO レバー
：“入”
：“切”

3. シートに座り，シートの位置を調節してください。



(1) シート　　**(A) 引き上げ**
(2) 位置調整レバー

4. スロットルレバーを中速の位置に合わせてください。

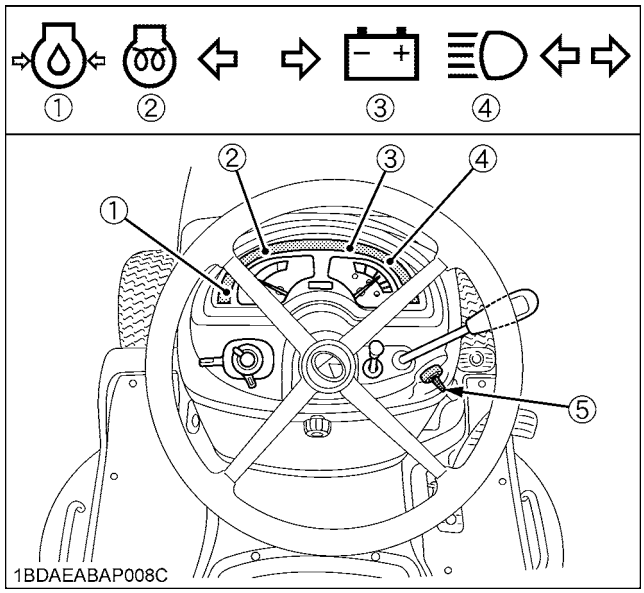


(1) スロットルレバー　　**: “高速”**
: “低速”

5. キーをキースイッチに差込み，“入”にしてください。

◆ イージーチェッカランプを確認してください。

キーを**“入”**にすると，ランプ（1）（4）のみが点灯します。エンジンが作動中にいずれかの場所でトラブルが発生した場合，その場所に対応する警告ランプが点灯します。



(1) エンジンオイル圧力
(2) 予熱
(3) 充電
(4) ハイビームインジケータ
(5) キースイッチ

重　要

＊ イージーチェッカでの日常点検のみでは不十分です。日常点検の項を参照して，必ず注意深く日常点検を実施してください。
（**“定期点検”**の章の**“日常点検”**を参照してください。）

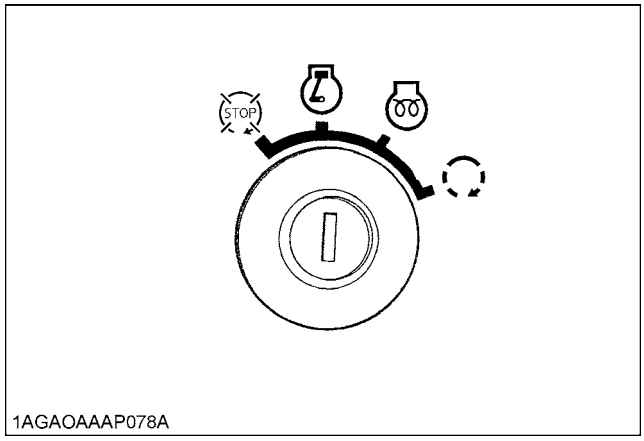
■キースイッチ

切 ..... エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。

入 ..... エンジン回転中の位置。

予熱 ..... 燃焼室内を予熱する位置。

始動 ..... ブレーキペダルをいっぱい踏込み，PTO レバーを**“切”**の位置に引き，キースイッチをこの位置に回してエンジンを始動します。



:“切” **:“予熱”**
:“入” **:“始動”**

6. キースイッチを“予熱”の位置まで時計方向に回して，２～３秒ほど保持してください。

適切な予熱時間に関しては下の表を参考にしてください。

温度	予熱時間
0℃以上	２～３秒
-5℃ ～ 0℃	5 秒
-15℃ ～ -5℃	10 秒

重 要

＊ エンジンの予熱中，グロープラグインジケータ（2）が点灯します。

7. キースイッチを“始動”の位置まで回し，エンジンが始動したら手を離してください。

重 要

＊ 安全装置のため，速度調整ペダルとPTOクラッチレバーがそれぞれ**“中立”**の位置と**“切”**の位置になければ，エンジンは始動しません。

■寒冷時の始動

周囲温度が -5 ℃以下でエンジンが非常に冷えている場合，10 秒経ってもエンジンが始動しない場合は 30 秒間キーを切ります。次に，手順６および７を繰り返します。バッテリおよびスタータを保護するために，スタータを連続して 30 秒以上回さないでください。

■ブロックヒーター（オプション）

ブロックヒーターは，購入先からオプションとしてお求めいただけます。周囲温度が -15 ℃以下の場合，機械の始動に役立ちます。

8. イージーチェッカのすべてのランプが“切”になっていることを確認してくだ

ランプが**“入”**のままの場合，直ちにエンジンを停止し，原因を特定してください。

エンジンの停止

1. アイドリング状態にエンジン速度を落としてから，キースイッチを**“切”**の位置に回します。
2. キーを抜きます。
3. エンジンが作動していないときにバッテリが放電するため，キースイッチを**“入”**（キーが**“入”**の位置）のままにしないでください。
4. 駐車ブレーキを掛けてください。

暖機運転

注　意

＊ 暖機運転中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。これにより，エンジンの各部にオイルが十分行き渡ります。始動してからすぐ負荷をかけると，焼付き，破損，早期摩耗など故障の原因になりますのでご注意ください。

■低温度領域での暖機運転とトランスミッションオイル

油圧オイルは，トランスミッションオイルとしても使われます。寒冷地では，オイルの温度が下がり，粘度が大きくなります。
そのためエンジン始動後，しばらくの間オイルの循環速度が遅くなり，油圧が異常に低くなる可能性があります。これにより油圧システムのトラブルや油圧クラッチの損傷につながる可能性があります。
上記のことを避けるために以下のことに注意してください。
下の表により，スロットルレバーを中速の位置にしてエンジンを温めてください。

周囲温度	必要な暖機運転時間
0℃以上	約５分
-10 ～ 0℃	5 ～ 10 分
-20 ～ -10℃	10 ～ 15 分
-20℃以下	15 分以上

重　要

＊ 十分に暖機運転するまで操作しないでください。エンジンが冷えているときに，操作しようとすると，油圧機構が適切に機能せず，寿命が縮まります。
＊ 油圧コントロールレバー（モーア昇降レバー，集草機コントロールレバー）を入れ，作業機が上がった後で異常音が聞こえる場合，油圧機構が適切に調整されていません。補修しなければ機械が損傷します。購入先に調整を依頼してください。

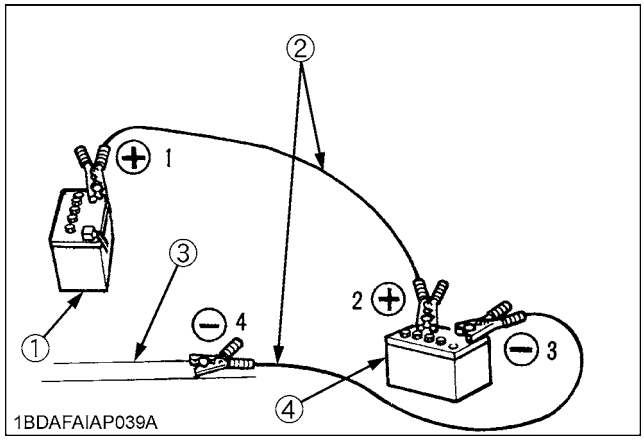
バッテリあがりの処置

警　告

＊ バッテリのガスは爆発することがあります。バッテリからタバコ，火花，その他の火気を遠ざけておいてください。
＊ バッテリが凍っている場合にはこの処置はしないでください。
＊ ブースタケーブルのマイナス⊖端子を機械のバッテリのマイナス⊖端子に接続しないでください。

エンジンをブースタケーブルを使って始動するときは，以下の指示に従い，安全にエンジンを始動してください。

1. トラブル車とバッテリの電圧が同じ救援車をケーブルが余裕を持って届く場所に移動します。（車両同士が触れないようにしてください。）
2. 両方の車両の駐車ブレーキを掛け，シフトレバーを中立に入れます。エンジンを停止させてください。
3. 保護めがねおよびゴム手袋を着用します。
4. ベントキャップが所定の位置に固定されていることを確認してください。(装備されている場合)
5. 赤いクランプを放電したバッテリのプラス（赤,⊕または正）端子に，同じケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリのプラス（赤,⊕または正）端子にクランプで接続します。
6. もう１本のケーブルを救援車のバッテリのマイナス（黒,⊖または負）端子にクランプで接続します。
7. もう一方の端をトラブル車のエンジンブロック，または放電したバッテリからできるだけ離れた場所のフレームにクランプで接続します。
8. 正常車を始動させ，数分エンジンを作動させてください。バッテリあがりの車を始動させてください。
9. 接続した手順と逆の順序でブースタケーブルを外します。（手順８，７，６）。



(1) 放電したバッテリ
(2) ブースタケーブル
(3) エンジンブロックまたはフレーム
(4) 救援車のバッテリ

ケーブルを数字順に接続します。
使用後は逆の順序で取外します。

重　要

＊ 本機は，12V マイナス⊖アース始動システムを備えています。
＊ 高い電圧のバッテリを使用すると，機械の電気システムに重大な損傷を招くおそれがあります。残量が少ないまたは放電したバッテリでブースタケーブルを使って始動する時は，電圧が同じバッテリ以外は使用しないでください。

運転のしかた

ならし運転（最初の約 50 時間）

本機はこの期間中の扱い方でその後の寿命が決まります。工場から出荷された直後の本機はテストされていますが各部品が充分になじんでいませんので約 50 時間のならし運転が必要です。
本機の性能を充分に発揮し，お客様に長く使っていただけるよう，ならし運転の期間中は特に次のことを厳守してください。

■新しい機械の潤滑油の交換

潤滑油は，新しい機械の場合特に重要です。さまざまな部品が十分になじんでいないため，機械の操作中に小さな金属粒が発生し，これにより部品が摩耗したり損傷したりすることがあります。そのため，通常の交換間隔よりやや早めに潤滑油を交換してください。交換間隔の時間に関する詳細については，**“メンテナンス”**の章の**“定期点検箇所一覧表”**を参照してください。

■エンジンのならし運転

最初の50時間の操作の後，エンジンオイルとフィルタを交換します。（**“定期点検”**の章の**“200 時間ごとの点検”**を参照してください。）

■機械のならし運転

最初の 200 時間の操作の後，トランスミッションオイルを交換します。最初の 50 時間の操作の後，オイルフィルタカートリッジを交換します。（**“定期点検”**の章の**“200 時間ごとの点検”**および**“400 時間ごとの点検”**を参照してください。）

警 告

- **＊ 機械に運転者以外の人を乗せないでください。**
- **＊ 溝や土手の近くなど機械の重みでくずれやすい所，特にぬかるんだ場所や湿った場所では，機械を運転しないでください。**
- **＊ 旋回する前には減速してください。**
- **＊ 転倒を避けるため，斜面では上下方向に運転し，等高線方向には運転しないでください。坂道での急発進や急停止は避けてください。坂道で方向を変えるときは減速し，特に注意してください。急な坂道で機械を使用しないでください。**
  機械は固い平たんな場所に駐車してください。
- **＊ 運転中はたえず周囲に注意し，障害物を避けてください。縁石，木やその他の障害物および隠れた危険箇所の近くでは特に注意が必要です。**
- **＊ 街路や幹線道路で機械を運転しないでください。道路の横断や道路付近で作業するときには交通に注意してください。**
- **＊ 後進するときは，後ろに注意してください。すぐ後ろに障害物や穴および小さな子供がいないことを確認してください。機械が集草機を装備しているときは，特に注意してください。**

注 意

- **＊ 作業区域から，刈刃が拾い上げて飛ばす可能性がある物は除去してください。**
- **＊ 放出ダクトの開口部を周囲の人や動物に向けないでください。放出された物がケガの原因になるおそれがあります。作業を開始する前に，草刈りを注意深く計画してください。**
- **＊ 作業区域に周囲の人，特に子供や動物を近付けないでください。**
- **＊ エンジンを始動する前に，必ず PTO レバーを“切”の位置にセットし，シートに座ってください。**

始動

本機は，道路運送車両法の保安基準に適合していませんので，法令により公道は走行できません。従って，公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

1. シートの位置を調整してください。

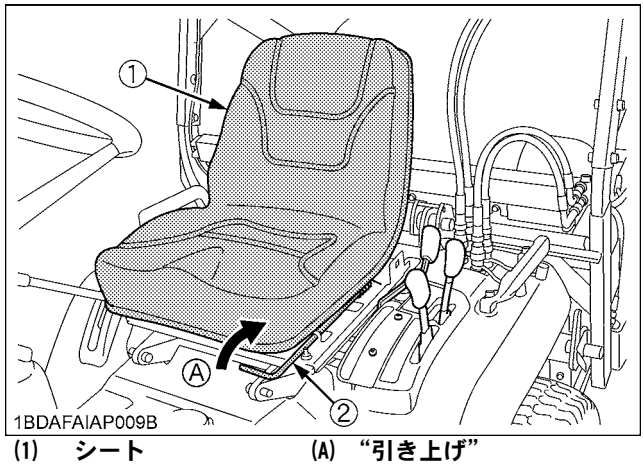
■シート

注 意

＊ シートの調整は，機械停止中のみ行ってください。
＊ 毎回の調整後，シートが完全に固定されていることを確認してください。
＊ 機械に運転者以外の人を乗せないでください。

◆ 走行時の調整

位置調整レバーを引き上げ，必要に応じて，シートを後方または前方にスライドさせます。レバーを離した位置でシートがロックします。



(1) シート　　**(A) “引き上げ”**
(2) 位置調整レバー

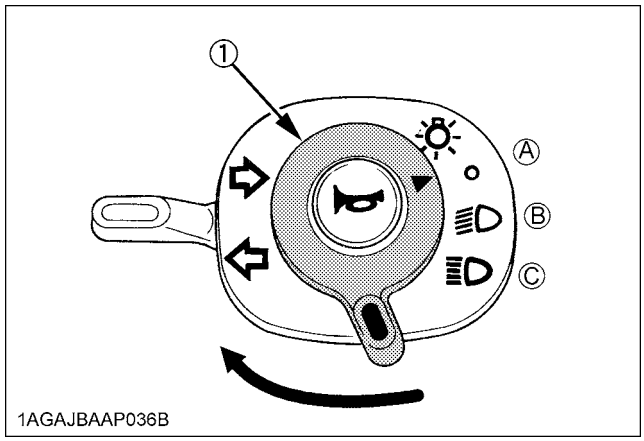
重 要

＊ シート調整後，シートが適切にロックされていることを確認してください。

2. ヘッドランプスイッチの位置を選択してください。

■ヘッドランプスイッチ

ヘッドランプスイッチを時計回りに回すと，各スイッチの位置で以下のランプが点灯します。



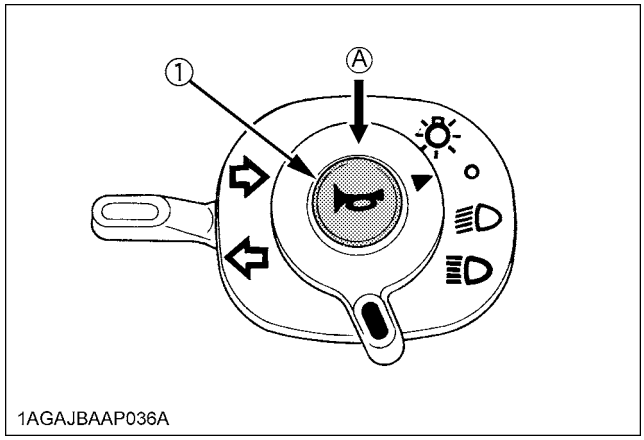
(1) ヘッドランプスイッチ

ランプの名前	スイッチの位置		
	(A)	(B)	(C)
ヘッドランプ（ロービーム）	切	入	－
ヘッドランプ（ハイビーム）	切	－	入
ハイビームインジケータ	切	切	入

補 足

＊ ヘッドライトスイッチが**“ハイビーム”**の位置にあると，ハイビームインジケータが点灯します。

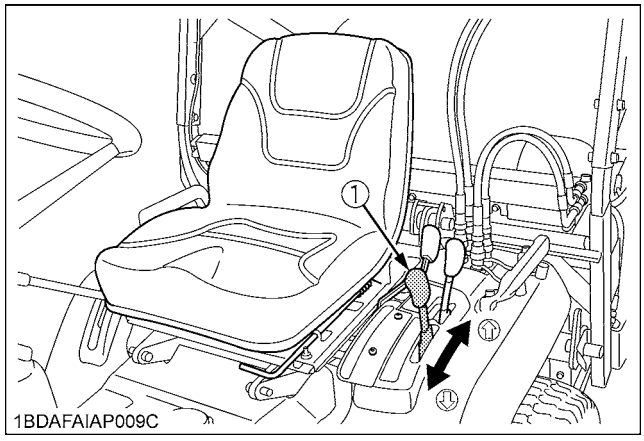
■ホーンボタン
キースイッチが**“入”**の位置にあるときに，ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。



(1) ホーンボタン　　(A) “押す”

3. モーアを上げてください。

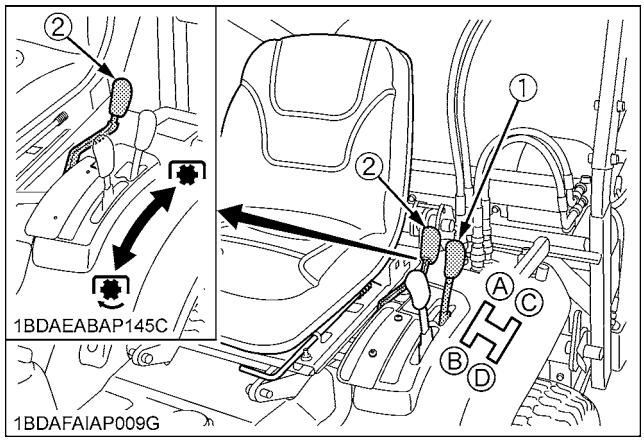
■モーア昇降レバー
モーア昇降レバーはモーアデッキを上げ下げするのに使用します。モーアデッキを下げるときにはレバーを前方に押してください。上げるときにはレバーを後方に引いてください。



(1) モーア昇降レバー　　: 下げ
: 上げ

■集草機コントロールレバー
集草機コントロールレバーは，集草機の内容物を捨てて集草機を閉じるのに使用します。
作業の前に：
PTO レバーを**“切”**の位置まで引いてください。
刈刃を停止させてください。

集草機コントロールレバーを右後方（A）に動かして集草機を持ち上げます。下げるには，右前方(B）に動かしてください。集草機を持上げた状態で，コントロールレバーを左後方（C）に動かすと，集草機が後方に傾き草を排出します。左前方(D）に動かすと，集草機が元の位置に戻ります。



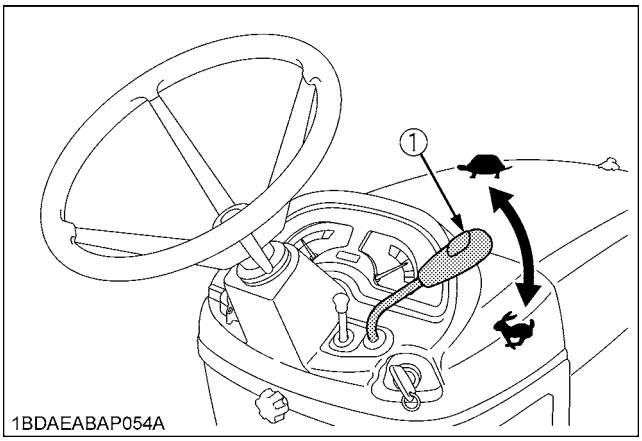
(1) 集草機コントロールレバー　　(A) 上げ
(2) PTO レバー　　(B) 下げ
(C) 後に傾く
(D) 前に傾く
: “入”
: “切”

4. エンジンを始動します。

5. エンジンを加速します。

■スロットルレバー

スロットルレバーを後側に引くとエンジンの回転数が上がり，前側に倒すとエンジンの回転数が下がります。



(1) スロットルレバー　　：高速
　　：低速

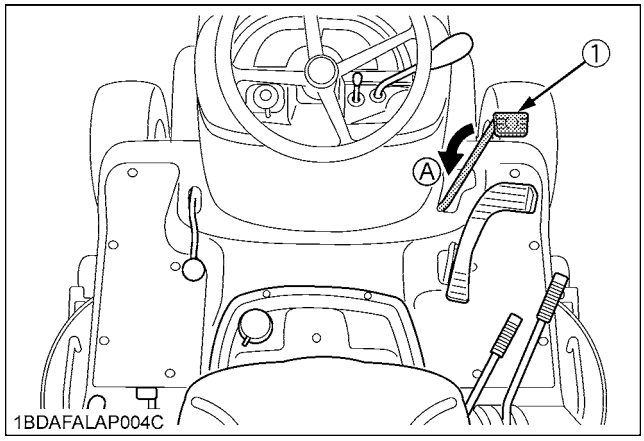
6. ブレーキペダルを確認してください。

■ブレーキペダル

注 意

＊ 急ブレーキ操作は，コントロール不能になったり，急ブレーキをかけた勢いで事故をひき起こす可能性があります。
＊ 凍結した地面，濡れたりゆるんだ地面で運転するときは，横すべりやステアリングコントロール不能を避けるため，必ず機械が正しく安定するようにしてください。スピードを減速して運転してください。

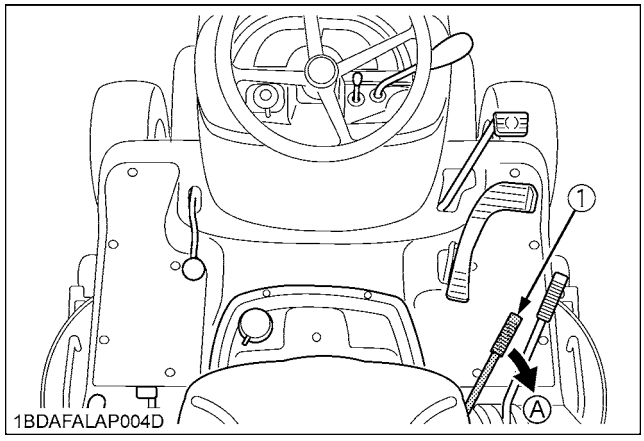
ブレーキペダルは，右側の遠い所にあるペダルです。機械を止めたり，減速する際に使用します。



(1) ブレーキペダル　　(A) “踏込む”

7. 駐車ブレーキを解除します。

駐車ブレーキレバーを引くと駐車ブレーキが解除されます。



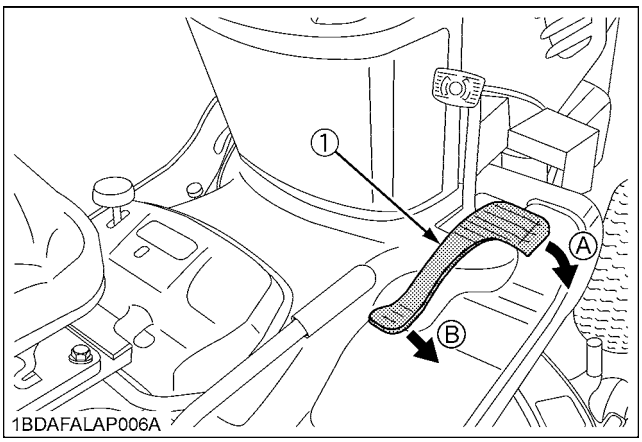
(1) 駐車ブレーキレバー　　(A) “引く”

8. 速度調整ペダルを踏込みます。

■速度調整ペダル

警 告

＊ 水平な地面で速度調整ペダルに足を乗せなくても機械が動く場合は，作業をせず，購入先にお問い合わせください。



(1) 速度調整ペダル　　(A) 前進
(B) 後進

前進ペダル（⇧）
右足のつま先でペダルを踏むと前進します。
後進ペダル（⇩）
右足のかかとでペダルを踏むと後進します。

補 足

＊ 駐車ブレーキがかかっているときは速度調整ペダルは中立位置にロックされています。
＊ 機械を後進または旋回させるときは，集草機が壁，土手，木，などにぶつからないように注意してください。

■速度設定装置

速度設定装置は，機械操作の効率と運転者の快適性のために設計されています。この装置を使用すると，速度調整ペダルを選択した位置で機械的に保持することで一定の速度で前進します。

◆ 速度設定装置の操作方法

1. 速度調整ペダルを使用して，希望の速度まで加速します。
2. 速度設定ロッドを**“入”**の位置まで押下げて保持します。
3. 速度調整ペダルを離します。
4. 速度設定ロッドを離しても希望の速度が維持されます。

◆ 速度設定装置の解除方法

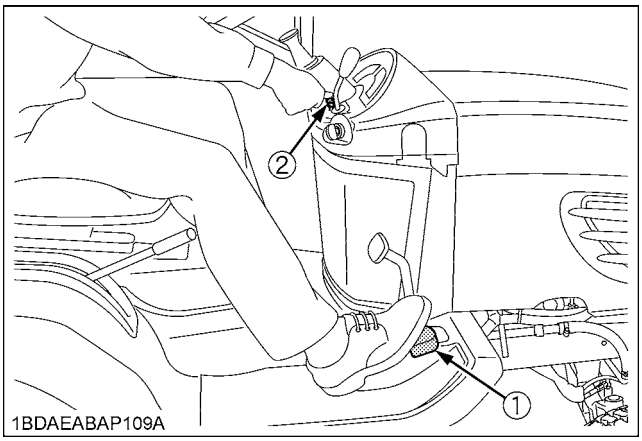
1. ブレーキペダルを踏込んでください。

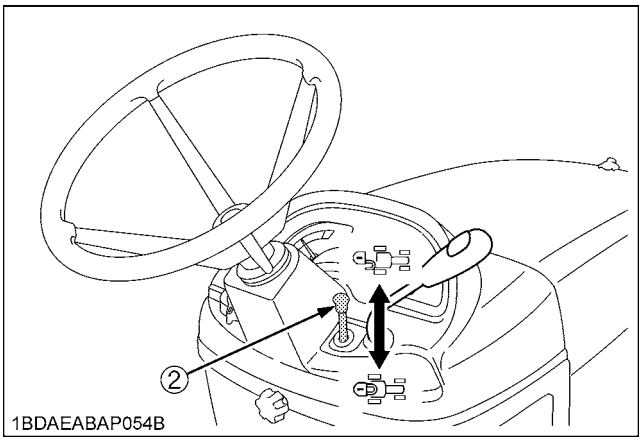
補 足

＊ 前進加速側にペダルを踏込むと，速度設定装置が解除されます。
＊ 速度設定装置は，後進時は作動しません。

重　要

＊ 速度設定装置の損傷を防止するため，速度設定装置が掛かっているときは後進ペダルを踏込まないでください。





(1) 速度調整ペダル　　：入
(2) 速度設定ロッド　　：切

停止

■停止時

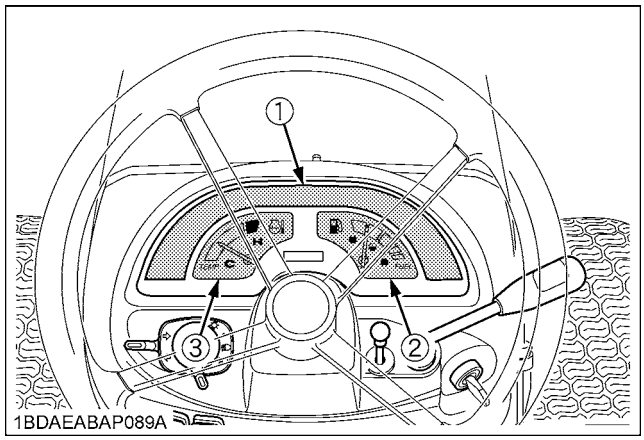
1. エンジンを減速してください。
2. ブレーキペダルを踏込んでください。
3. 機械が停止したら，PTO を止め，作業機を地面に降ろし,駐車ブレーキを掛けてください。

運転中の確認事項

■以下の場合，直ちにエンジンを停止してください

- エンジンが急に減速または加速する。
- 急に異常音が聞こえる。
- 排気ガスが急に非常に黒くなる。

運転中, すべての部品が正常に機能していることを確認するために以下を確認してください。



(1) イージーチェッカ
(2) 燃料計
(3) 水温計

■イージーチェッカ

作業中, イージーチェッカの警告ランプが点灯した場合，直ちにエンジンを停止し，下記に従って原因を特定してください。イージーチェッカのランプが**“点灯”**しているときは機械を操作しないでください。

：エンジンオイル圧力不足
エンジンのオイル圧力が規定圧力より下がると，イージーチェッカの警告ランプが点灯します。
作業中に警告ランプが点灯し，エンジンを1000rpm以上に加速しても消灯しない場合,エンジンオイルの油面を確認してください。
（**“定期点検”**の章の**“日常点検”**にある**“エンジンオイルの量の点検”**を参照してください。）

: バッテリ充電異常
オルタネータがバッテリを充電していないと，イージーチェッカの警告ランプが点灯します。
作業中に警告ランプが点灯した場合，充電系統を点検するか，または購入先にお問い合わせください。

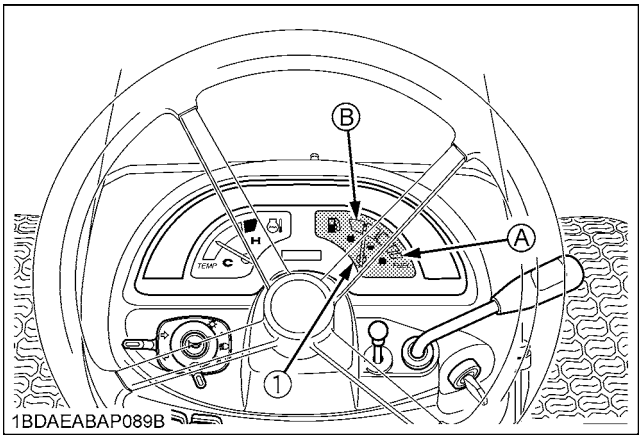
: 予熱中
キースイッチが**“予熱”**の位置にあると，グロープラグインジケータが点灯します。

補　足

＊ 機械の点検の手順については，購入先にお問い合わせください。

■燃料計

キースイッチが**“入”**のとき，燃料計が一度空に動いてから，燃料の量を示します。これはゲージが動作しているかどうかを確認するためです。燃料タンクを空にしないように注意してください。空になると，燃料系統に空気が混入する可能性があります。この場合，燃料系統の空気抜きをする必要があります（**“定期点検”**の章の**“必要に応じた点検・整備”**にある**“燃料系統の空気抜き”**を参照してください）。



(1) 燃料計　　(A) “空”
(B) “満”

■水温計

注　意

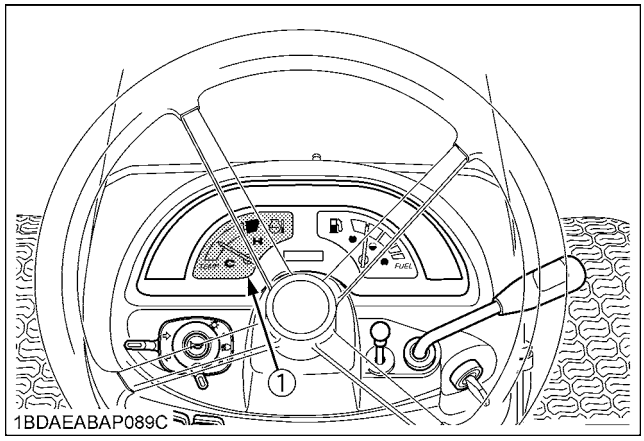
＊ ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後 30 分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

インジケータがレッドゾーンに達した場合，またはホーンが鳴った場合：

1. PTO レバーを**“切”**の位置にセットしてください。
2. 機械を水平な場所に移動し，駐車ブレーキを掛けてください。
3. スロットルレバーをエンジンアイドリング状態の位置に入れ，エンジンを数分作動させます。
4. 冷却系統を十分に冷やした後，確認してください。

以下の項目を確認してください。

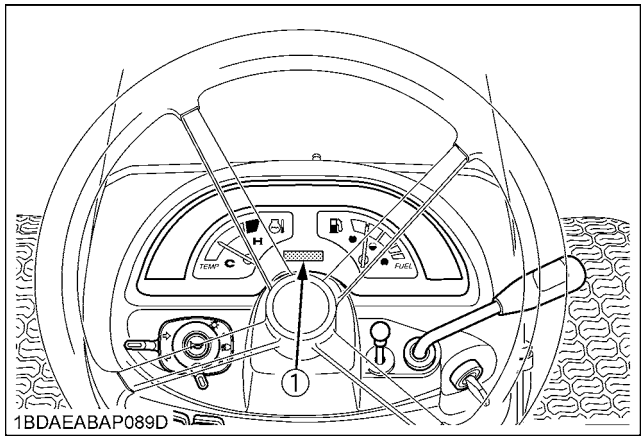
1. 冷却水の不足または漏れ。
2. ラジエータネットの異物，またはラジエータフィンの間のゴミやほこり。
3. ファンベルトの緩み。
4. ラジエータのホースの詰まり。
（**“定期点検”**の章を参照してください。）



(A) 水温計

■アワメータ / タコメータ

キースイッチが**“入”**でエンジンが**“切”**のとき，インジケータにアワメータが表示されます。アワメータは，機械の使用時間を 6 桁で表示します。最後の桁は 1/10 時間（6 倍すると**“分”**単位）を示します。キースイッチが**“入”**でエンジンが**“入”**のとき，インジケータにタコメータが表示されます。タコメータは 1 分間のエンジン回転数を示します。



(1) アワメータ / タコメータ

駐車

■駐車

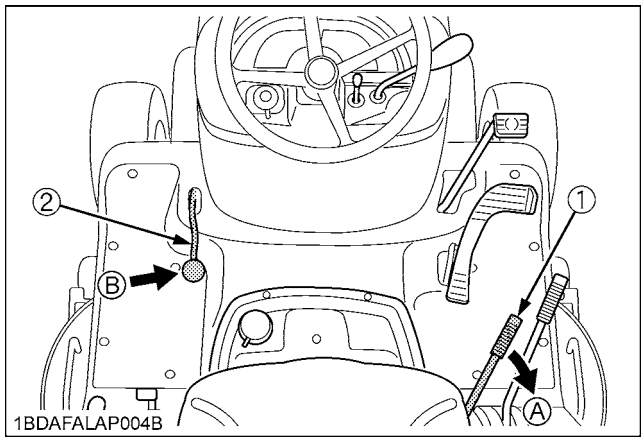
注 意

＊ シートから離れる前には，必ず駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止し，キーを抜いてください。

1. 駐車時には，必ず駐車ブレーキを掛けてください。

   駐車ブレーキを掛けるには

   (1) 駐車ブレーキレバーを引いてください。
   (2) 駐車ブレーキロックペダルを踏み込んでください。



(1) 駐車ブレーキレバー
(2) 駐車ブレーキロックペダル
(A) “引く”
(B) “(1) を引いた状態で踏込む”

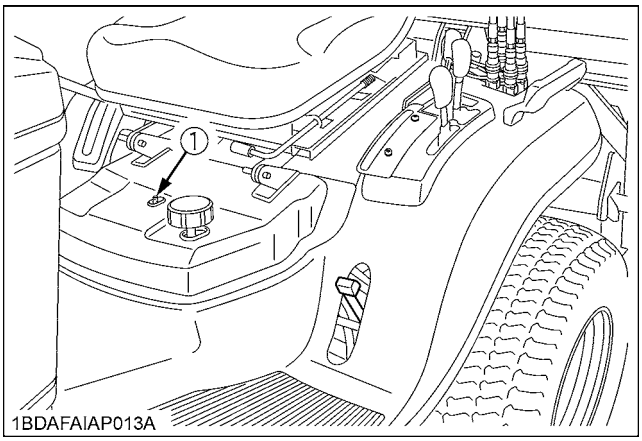
2. 機械から降りる前に，PTO を止め，すべての作業機を地面に降ろし，すべてのコントロールレバーを**“中立”**の位置にして，駐車ブレーキを掛け，エンジンを止め，キーを抜いてください。
3. やむをえず坂道で駐車する場合は，誤って機械が動かないようにタイヤに車止めをしてください。

■ HST バイパスボタン

重　要

＊ バイパスボタンを押さずに機械を押さないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。
＊ 決してエンジンが作動している状態でボタンを押さないでください。

1. 機械を押すには，HST バイパスボタンを押してください。
2. エンジンを始動した後，ボタンは自動的に通常の位置に戻ります。



(1) HST バイパスボタン

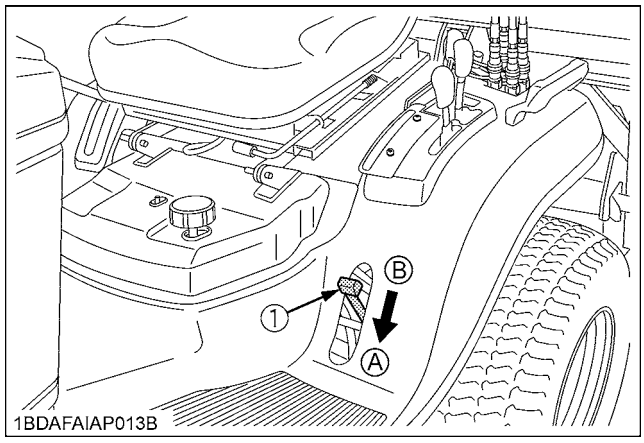
運転技術

■デフロック

警　告

＊ デフロックが掛かった状態で機械を高速で操作しないでください。
＊ デフロックが掛かった状態で旋回しようとしないでください。
＊ 旋回する前に必ずデフロックを解除してください。

後輪のどちらかがスリップした場合，デフロックペダルを踏込みます。両方の車輪が同時に回転し，スリップを緩和します。
デフロックは，ペダルを踏込んでいる間のみ維持されます。



(1) デフロックペダル　(A) 押すと“ロックがかかる”
(B) 離すと“ロックがかからない”

重　要

＊ デフロックを使用する場合，必ずエンジンの速度を落としてください。
＊ 伝動機構の損傷を防止するため，片方の車輪が回転していて，もう片方の車輪が完全に停止しているときには，デフロックを掛けないでください。
＊ デフロックペダルを離しても，デフロックを解除できない場合は，速度調整ペダルを交互に前後に軽く踏込んでください。

モーアの使い方

モーアの上手な使い方

1. 初めてモーアを使用するときは，平たん地を選びゆっくりと少し重複するようにまっすぐに刈ってください。
2. 適切な草刈方法は，ほ場の大きさや形で決まります。木やフェンス，建物のような障害物を考慮してください。
3. 刈取は草が 50 ～ 80mm の高さを保つように行なってください。あまり短く刈らずに，たびたび刈る方が良い仕上がりになります。緑の芝を保つために草丈の 1/3 以上もしくは一回で 25mm 以上の草刈はしないでください。
   極度に草丈の高い場合，最大刈高さで作業し，次に希望の刈高さにセットし，刈ってください。
4. 刈り跡が美しく見えるようにするには，湿気の少ない午後又は夕方に作業するのがよいでしょう。

危　険

＊ 集草機なしでモーアを操作しないでください。

注　意

＊ 刈刃が拾い上げて飛ばす可能性がある物は作業区域から除去してください。
＊ 作業区域に周囲の人や動物を近付けないでください。
＊ エンジンを始動する前に必ず PTO レバーを“切”の位置にセットし，シートに座ってください。

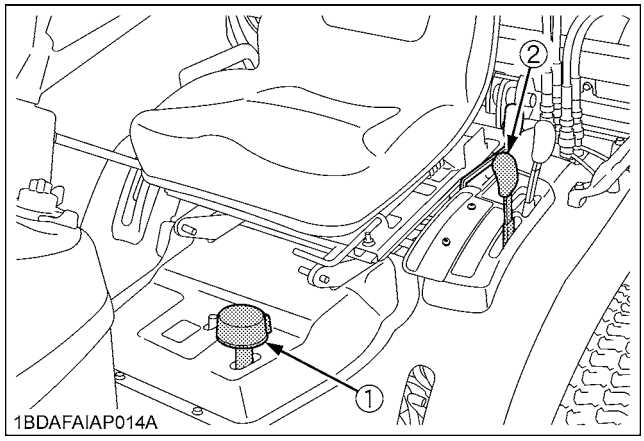
刈高さ調整方法

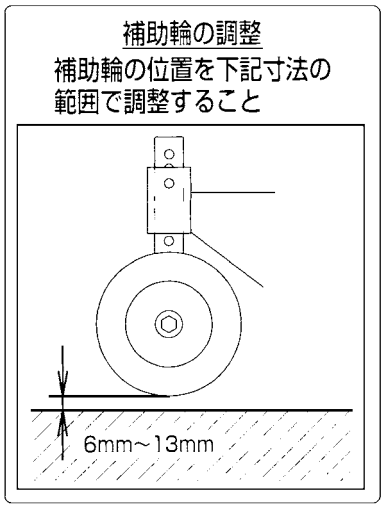
危　険

＊ 一番上まで上げた位置でモーアを操作しないでください。

■刈高さ調整ダイヤル

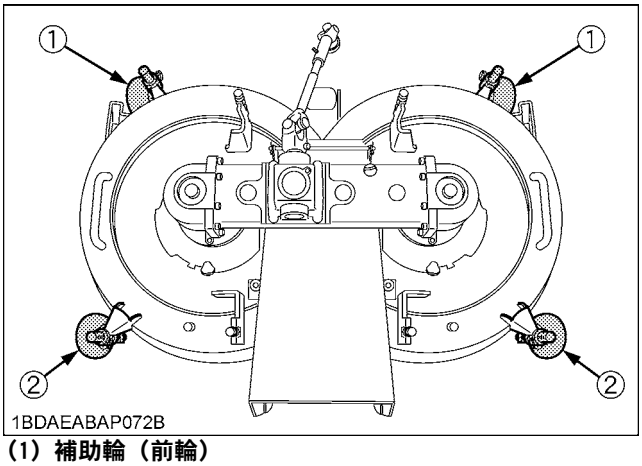
モーア昇降レバーを後方に引いてモーアデッキを一番上まで持上げてください（21 ページの**“モーア昇降レバー”**を参照してください）。希望の刈高さに刈高さ調整ダイヤルを回してください。ただし，草刈りに 0 の位置は使用しないでください。
モーア昇降レバーを前方に押して，モーアデッキを下げてください。
モーアデッキは希望の刈高さにセットされます。



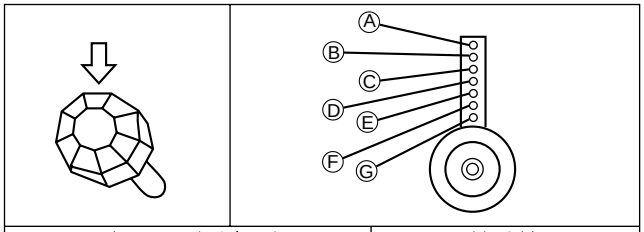


(1) 刈高さ調整ダイヤル
(2) モーア昇降レバー

1. 刈高さをセットするには，モーア昇降レバーを後方に引いてモーアデッキを**“一番上まで上げた位置”**まで持上げてください。刈高さ調整ダイヤルを回して高さを調整してください。
2. 補助輪と地面の間の隙間が６㎜以上を維持するように，図のように補助輪の高さをセットします。下の表を参照してください。
3. モーア昇降レバーを下方に押して，モーアデッキを下げてください。これによりモーアデッキが**“一番上まで上げた位置”**から**“セットした刈高さ位置”**に下がります。
4. 起伏のある区域で草刈り作業を行なう場合，または高い草を刈る場合は，高めの刈高さを使用します。低い刈高さは，短い草が望ましい平たんな芝生でのみ使用します。



(1) 補助輪（前輪）
(2) 補助輪（後輪）



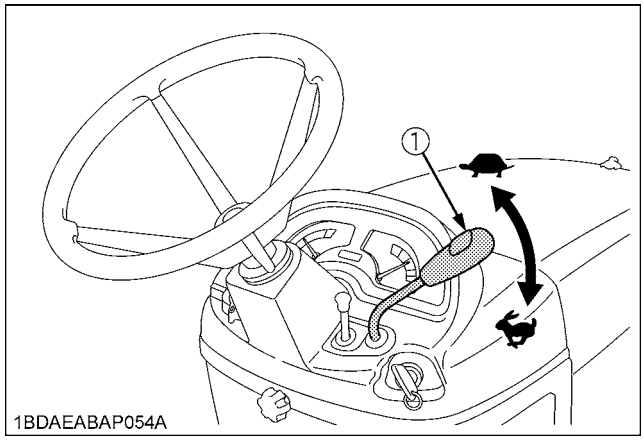
ダイヤル (刈高さ)	補助輪
1.0 (25mm), 1.25 (32mm)	G
1.5 (38mm), 1.75 (45mm)	F
2.0 (51mm), 2.25 (57mm)	E
2.5 (64mm), 2.75 (70mm)	D
3.0 (76mm), 3.25 (83mm)	C
3.5 (89mm), 3.75 (95mm)	B
4.0 (102mm)	A

1BDACAMAP028F

モーアの操作方法

1. エンジンを始動します。

2. スロットルレバーを“高速”の位置にセットしてください。

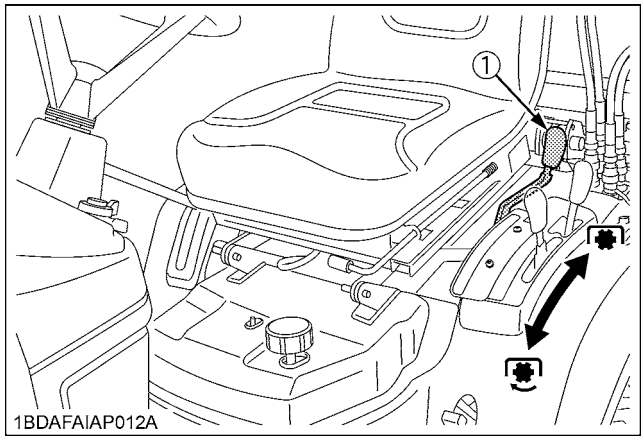


(1) スロットルレバー　　**：高速**
：低速

3. PTO レバーを“入”の位置まで押してください。

■ PTO レバー

1. 刈刃を回すには，PTO レバーを**“入”**の位置まで動かしてください。刈刃を止めるには，PTO レバーを**“切”**の位置まで動かしてください。



(1) PTO レバー　　**：“入”**
：“切”

重　要

＊ PTO への負荷の衝撃を防ぐため，エンジンスロットルを高速から中速にしてから PTO レバーを入れ，その後，もう一度エンジンを高速に入れます。

＊ PTOクラッチおよび作業機の損傷を防ぐため，PTOクラッチを入れるときはPTOレバーをゆっくり動かしてください。PTO レバーを途中に止めておかないでください。

補　足

本機は安全装置を装備しています。

＊ PTO が作動中にシートから降りると，エンジンが自動的に停止します。
(運転者感知コントロール)

＊ エンジンを始動する前に，PTO レバーを**“切”**の位置に引き，ブレーキペダルを踏込んでください。この操作を行わなければ，スタータは作動しません。

＊ PTO が作動中または**“入”**になっている状態で集草機を排出すると，エンジンが自動的に停止します。

＊ 集草機または後部放出部安全カバーを取付けずに PTO レバーを入れると，エンジンが自動的に停止します。

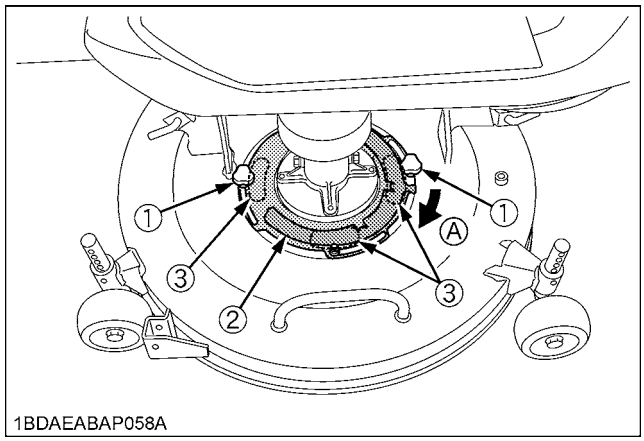
＊ 最も良い刈り性能を発揮するためには常にスロットルレバーを**“高速”**の位置で刈ってください。

速度調整ペダルを使用して，希望の草刈り速度にしてください。

(1) 負荷が大きい場合，機械を低速で運転するか，その場所を２度刈りしてください。最初は最も高い刈高さで，その後，目的の刈高さで刈ってください。

(2) 車速が速すぎたり，過負荷により刈刃の速度が落ちた場合にはきれいに刈れません。

(3) 低い位置で刈るときに高い集草性能が必要な場合，カバーを時計回りに動かしてスロットを開いてください。



(1) ノブボルト　　**(A)“開”(カバーを時計回りに移動)**
(2) カバー
(3) スロット

補　足

＊ 通常の草刈・集草作業ではスロットを閉じる必要があります。

4. 速度調整ペダルで車速をコントロールしてください。

補　足

＊ モーアが回転していないときは，モーアデッキを一番上に持上げてください。

警　告

＊ エンジンの部品は操作により非常に高温になっている場合があります。重度のヤケドを防止するため，エンジン作動中や停止直後は，これらの部分に触れないでください。遮熱材や保護装置を取外した状態でエンジンを操作しないでください。

集草機の使い方

危　険

＊ 集草機なしでモーアを操作しないでください。

性能を発揮するには

1. 集草性能は，刈刃からダクトを通り集草機に至る空気の流れに依存します。
2. 草が乾燥していて，伸びすぎていないときに草刈りおよび集草を行ってください。
   草が湿っているときまたは露で重い状態のときには決して草を刈らないでください。集草機のダクトが急速に詰まるおそれがあります。
3. 草丈が非常に高い場合は，目的の刈高さよりも高い刈高さで刈り，集草してください。
   高い草に対して低い刈高さで草を刈ろうとすると，必要な吸入空気が不足して，優れた集草性能を発揮できません。
   高い草を刈取った場合も集草機がいっぱいになる前にダクトが詰まるおそれがあります。
   高めに刈った後にモーアを目的の刈高さにセットし直して，もう一度刈ってください。
4. 常にエンジン回転を高速にして草を刈ってください。エンジンが刈取中に止まりそうになった場合には，トラクタの速度を落としてください。

◆ 満タンお知らせブザー

草が集草機センサをセットした位置まで溜まると，ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったら，集草機の内側の草を排出してください。

5. 刈取作業中，刈草の塊が刈り跡に落ち始めたら，放出ダクト内が詰まっており，集草機がいっぱいになっていることを示しています。このような場合には,集草機を空にし,クイッククリーンレバーを操作して，ダクト内を除去し，草を完全に放出してください。
6. 草を刈った後にはモーアデッキ，放出ダクト内面と集草機を十分に掃除してください。溜まった草を取除かないでおき，乾燥すると，取除くのが非常に困難になり,取除かないと，以後の刈り性能，集草性能に悪影響を及ぼします。

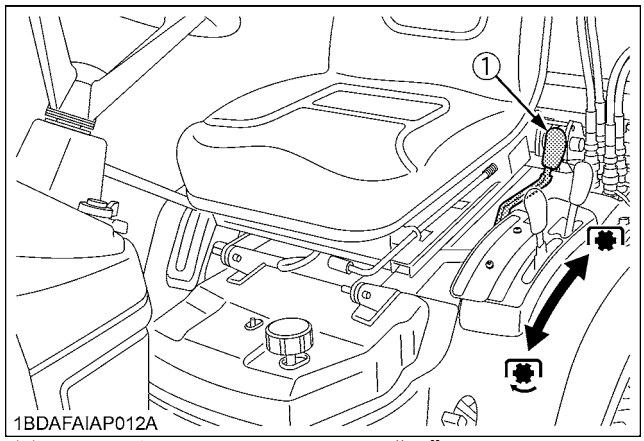
集草機の草を排出する方法

注　意

＊ 必ずシートに座っている状態で，集草機を持上げて排出してください。
＊ モーアを止め，堅くて水平な場所で機械を停車した状態でのみ集草機の草の排出を行なってください。軟らかい所や傾いた場所で集草機の草を排出すると，機械は前輪が上がり転倒するおそれがあり，重大な障害や装備の多大な損害を引起こすおそれがあります。
＊ 集草機から刈取った草や葉を排出する前に，捨てる場所の周囲に人やペットなどがいないことを確認してください。

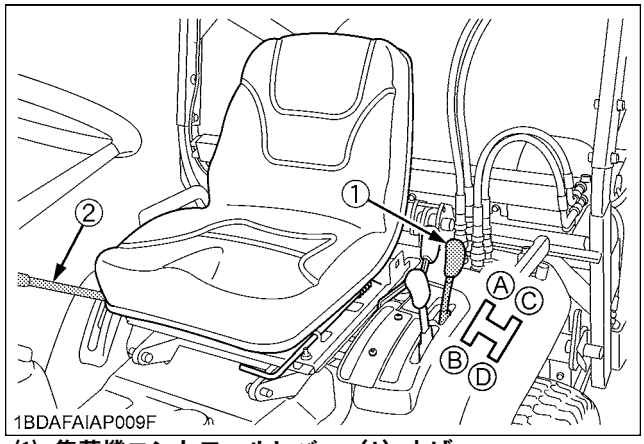
◆ 刈取った草を排出するには

1. PTO レバーを**“切”**にしてください。



(1) PTO レバー　　：“入”
　　：“切”

2. 集草機コントロールレバーを右後方に動かして集草機を持ち上げてください。
3. 集草機コントロールレバーを左後方に動かして，集草機を後ろに傾け，草を放出してください。
4. クイッククリーンレバーを数回操作してください。
5. 集草機コントロールレバーを左前方に動かして，集草機を前に傾け，元の位置に戻してください。
6. 集草機コントロールレバーを右前方に動かして集草機を下げてください。



(1) 集草機コントロールレバー　(A) 上げ
(2) クイッククリーンレバー　(B) 下げ
(C) 後に傾く
(D) 前に傾く

重　要

＊ 集草機が完全に下がっていることを確認してください。

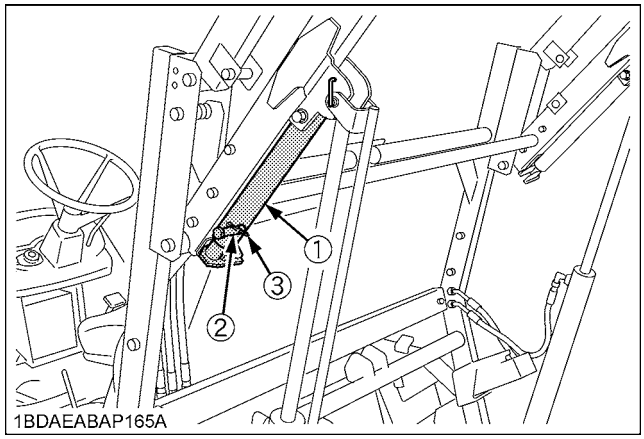
落下防止ストッパ

警　告

＊ 機械は堅くて水平な場所に駐車してください。
＊ 駐車ブレーキを掛けてください。
＊ 集草機を空にしてください。

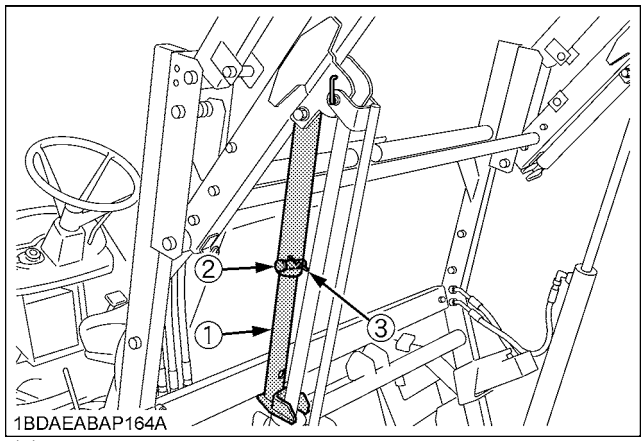
■ストッパのロック

1. 集草機を持ち上げてください。
2. スナップピンと頭付きピンを取外してください。



(1) ストッパ
(2) 頭付きピン
(3) スナップピン

3. ストッパを伸ばし，頭付きピンとスナップピンを差込んでください。
4. ストッパをシリンダにセットします。



(1) ストッパ
(2) 頭付きピン
(3) スナップピン

■ストッパの解除

1. ストッパを解除するには上記の手順の逆を行なってください。

補　足

＊ ストッパを解除しづらい場合，集草機を持ち上げてください。その後で，ストッパを解除してください。

2. 集草機を下げてください。

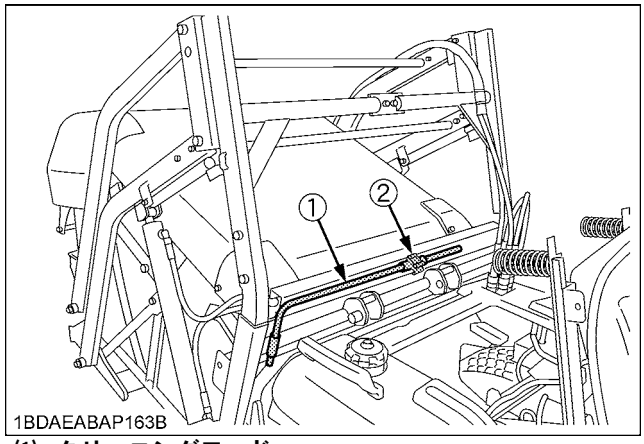
重　要

＊ 集草機が完全に下がっていることを確認してください。

クリーニングロッド

危　険

＊ 機械は堅くて水平な場所に駐車してください。
＊ 駐車ブレーキを掛けてください。
＊ 集草機を空にしてください。

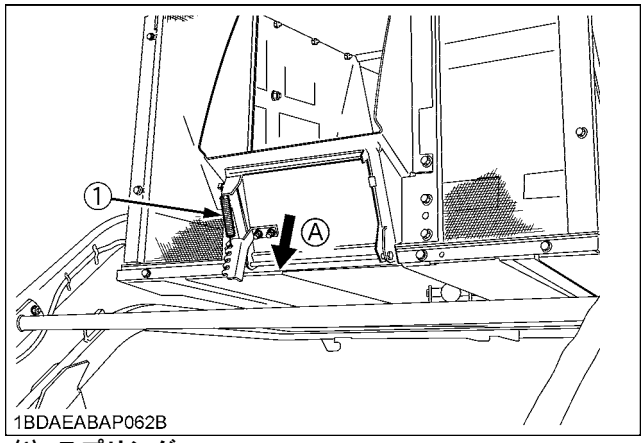


(1) クリーニングロッド
(2) ブラケット

1. 機械は堅くて水平な場所に駐車してください。
2. 駐車ブレーキを掛けてください。
3. 集草機を最も高い位置に持上げてください。
4. ストッパをロックしてください。(**“集草機の使い方”**の**“落下防止ストッパ”**を参照してください。)
5. エンジンを停止させてください。
6. クリーニングロッドを使用して，モーアデッキに詰まっている刈取った草を引っ掛けてください。

集草機センサの調整

草刈りをする前に，草および現場条件に応じて集草機センサの位置を調整してください。
より高い集草性能が必要な場合，スプリングを(A) の方向に掛ける位置を変更します。



(1) スプリング

補　足

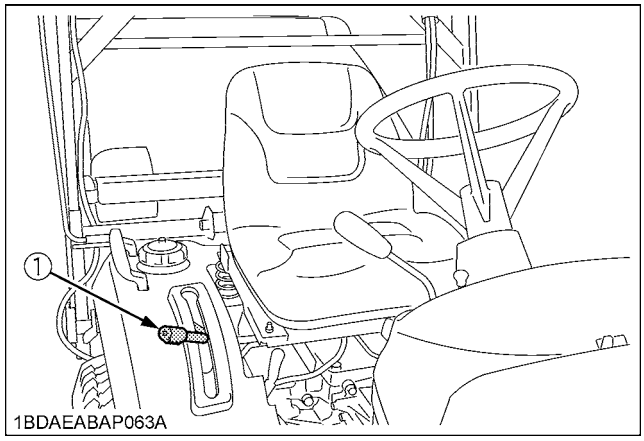
＊ センサを調整するときは，必ず機械を平らな場所に駐車し，エンジンを停止してください。

クイッククリーンレバー

クイッククリーンレバーはダクト後方に詰まった草を放出するためのレバーです。

◆操作方法

1. PTO レバーを**“切”**の位置まで引いてください。レバーを操作する前に刈刃を停止させてください。
2. レバーを数回引き上げてください。



(1) クイッククリーンレバー

補　足

＊ ダクトから草をキチンと排出するために，レバーを数回操作してください。

清掃

注　意

＊ エンジンが作動している状態で機械を清掃しないでください。
＊ 清掃中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

廃棄物の処理について

警　告

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは
＊ 機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。
＊ 地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。
＊ 廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，又は焼却するときは，購入先，又は産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

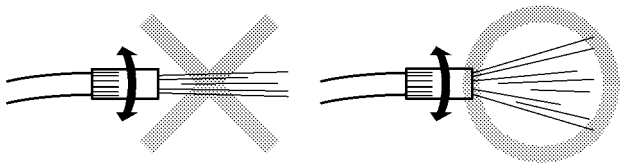
洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損・損傷・故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。

注　意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，２ｍ以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1. 電気配線部被覆の損傷・断線により，火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により，高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）(1) シール・ラベルの剥がれ
(2) 電装部品，エンジン・ラジエータ室内等への浸入による故障
(3) タイヤ，オイルシール等のゴム類，樹脂部品，ガラス等の破損
(4) 塗装，メッキ面の皮膜剥がれ

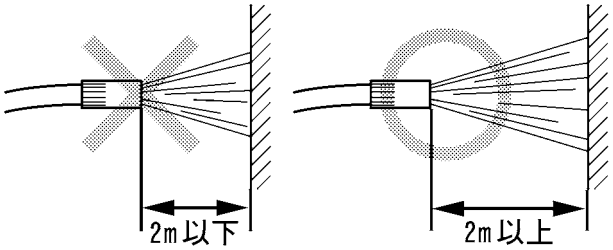
直射洗車厳禁



直射　　拡散

1AGACBRAP067A

近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

集草機の清掃

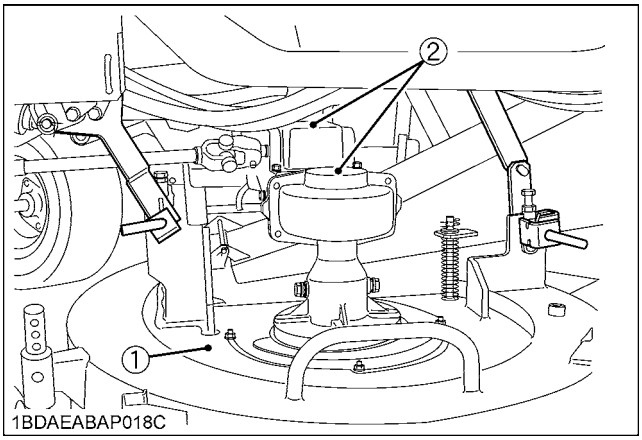
空気の排出を最適にするために，集草機は毎回の使用後に清掃する必要があります。これは，水の噴流で行います。
集草機が適切に清掃されていると，効果的な草刈りと集草が可能です。

モーアの清掃

図のように，モーアデッキおよびギヤケースの上に溜まった草を清掃してください。
毎回の使用後，モーアデッキの特に内側は注意深く清掃してください。モーアを清掃する前にエンジンを停止してください。
モーアデッキの内側は放出ダクトからも水で清掃できます。
放出ダクトから清掃するには，集草機を取外してください。清掃後，数分間モーアを作動させてください。

補　足

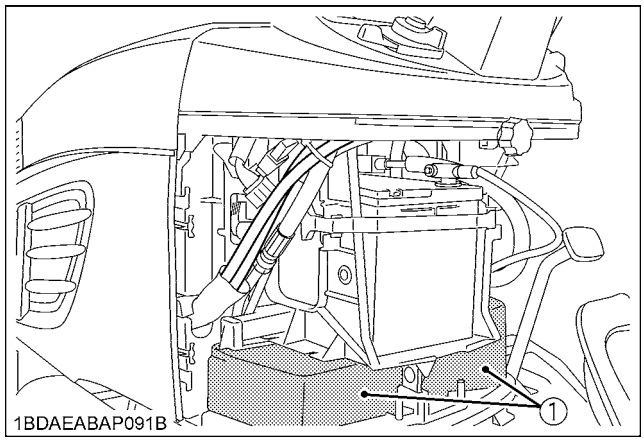
＊ モーアを非常に困難な状態（非常に湿った草，非常に低い位置での草刈り）で使用した場合，清掃するには，モーアデッキを取外す必要がある場合があります。同時に，その機会を利用して刈刃，ベルトおよびボルトの状態を確認し必要に応じて交換してください。



(1) モーアデッキの上
(2) ギヤケースの上

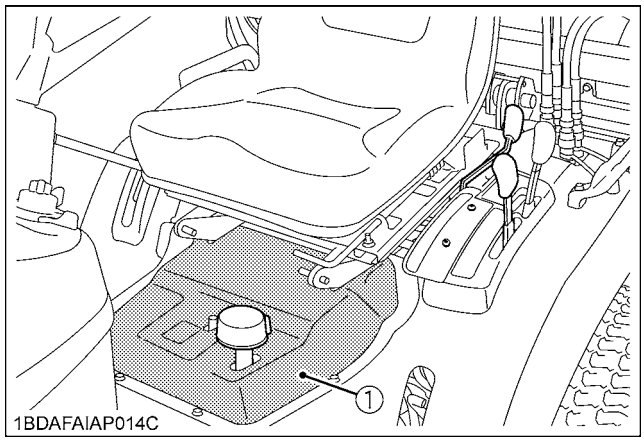
トラクタの清掃

1. バルブカバーの内側にあるバッテリの下に溜まった草を清掃してください。



(1) バルブカバー

2. HST ファンカバー下側の HST ファン付近に溜まった草を清掃してください。



(1) HST ファンカバー

危　険

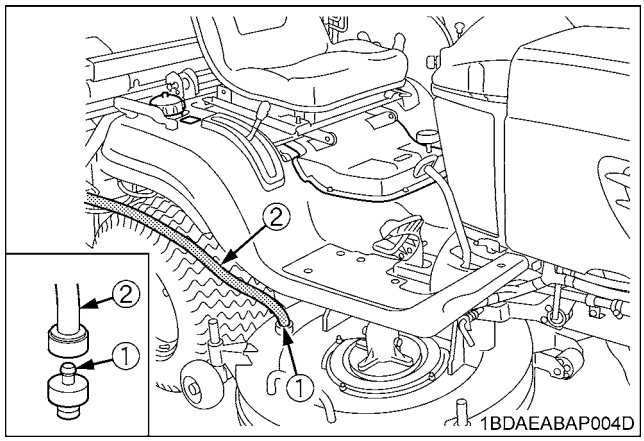
＊ 集草機を取付けていない状態でモーアデッキを清掃しないでください。

注　意

＊ 刈刃が拾い上げて飛ばす可能性がある物は作業区域から除去してください。
＊ モーアデッキに周囲の人や動物を近付けないでください。
＊ エンジンを始動する前に，必ず PTO を止め，シートに座ってください。
＊ 清掃中は必ず駐車ブレーキを掛けてください。

ホースによるモーアの清掃

1. ホースをモーアジョイントにつなぎ，水を出してください。



(1) ジョイント（装備されている場合）
(2) ホース

補　足

＊ モーアのジョイント用ボスは，G1/2 のネジ山です。

2. エンジンを始動します。
3. スロットルレバーを**“高速”**の位置にセットしてください。
4. PTO レバーを**“入”**の位置まで動かし，数分間刈刃を回してください。
5. PTO レバーを**“切”**の位置まで引いて，刈刃の回転を止めてください。
6. エンジンを停止させてください。
7. 水を止め，ホースを取外してください。
8. ホースを反対側のモーアジョイントにつなぎ，水を出してください。
   手順の２から７を繰返してください。

タイヤおよび車輪

タイヤ

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

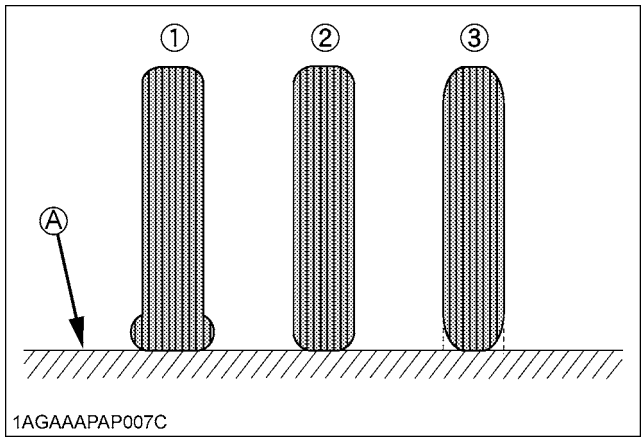
注　意

リム，車輪，または車軸がゆるんでいる機械は絶対に運転しないでください。
＊ ボルトがゆるんでいる場合には規定のトルクで締付けてください。
＊ 全てのボルトをこまめに確認し，締付けてください。

■空気圧

空気圧は規定圧力に工場でセットしておりますが，時間とともに自然とゆっくり減ってきます。点検して，必要に応じて空気を入れてください。

	タイヤサイズ	標準最大空気圧
前輪	16 × 7.50 - 8, Turf	120 kPa (1.2 kgf/cm²)
後輪	24 × 12.00 - 12, Turf	100 kPa (1.0 kgf/cm²)



(1) 空気が不足
(2) 標準
(3) 空気が多い
(A) 地面

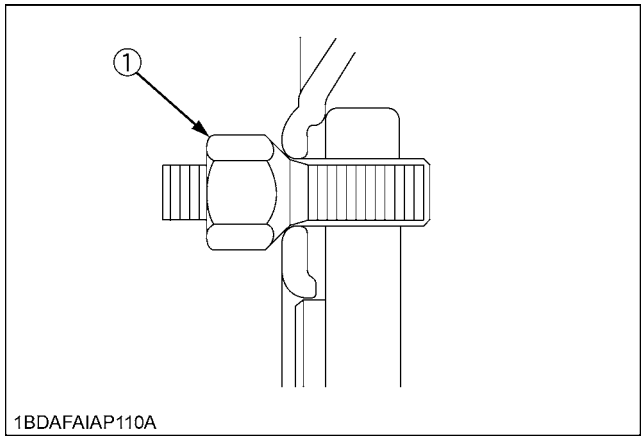
車輪

重　要

＊ 車輪を取付け直した場合，または調整した場合は，ナットを以下のトルクで締め，機械を200m 運転した後，そして，１日（８時間）運転した後再点検し，その後は 50 時間ごとに再点検します（定期点検箇所一覧表参照）。

補　足

＊ ホイールには，クボタ純正の専用テーパーナットを使用します。



(1) テーパーナット

後輪 108.5 ～ 130.2 N-m (11.1 ～ 13.3 kgf-m)

メンテナンス

定期点検箇所一覧表

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	点検項目		アワメータ表示時間												点検間隔	参照ページ	
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600			
1	エンジンオイル	交換	◎			○				○				○	200時間ごと	66	
2	エンジンオイルフィルタ	交換	◎			○				○				○	200時間ごと	67	
3	トランスミッションオイル	交換								○					400時間ごと	73	
4	トランスミッションオイルフィルタ	交換	◎			○				○				○	200時間ごと	68	
5	トランスミッションストレーナ	清掃								○					400時間ごと	74	
6	前車軸支点	調整				○				○				○	200時間ごと	72	*2
7	安全装置	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	52	
8	注油	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	60	
9	グリースの注入	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	55	
10	モーアギヤボックスオイル	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	54	
		交換	◎		○			○			○			○	150時間ごと	65	
11	エアクリーナエレメント	清掃	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	53	*1
		交換													1年ごと	75	
12	バッテリ	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	61	
13	バッテリの充電	点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	61	
14	フロントPTOベルトテンション	調整	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	62	*5
15	ファンベルト	点検		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	64	*2

No.	点検項目		アワメータ表示時間												点検間隔	参照ページ	
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600			
16	HST ニュートラルスプリング	調整		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	65	
17	駐車ブレーキレバー	点検	◎			○				○				○	200時間ごと	66	*3
18	燃料フィルタエレメント	点検		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	63	
		交換								○					400時間ごと	74	*2
19	燃料ホース	点検		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	63	
		交換													２年ごと	76	*2
20	油圧ホース	点検				○				○				○	200時間ごと	69	
		交換													２年ごと	76	*2
21	ラジエータホースと締付けバンド	点検				○				○				○	200時間ごと	68	
		交換													２年ごと	76	*2
22	吸気ホース	点検				○				○				○	200時間ごと	72	
		交換													２年ごと	76	*4
23	ブレーキペダル	点検	◎			○				○				○	200時間ごと	70	*3
24	ブレーキホースとブレーキパイプ	点検	◎			○				○				○	200時間ごと	70	
		交換													４年ごと	77	*3
25	ブレーキ液	交換													２年ごと	76	*3
26	ブレーキマスターシリンダ	交換													２年ごと	76	*3
27	トーイン	調整				○				○				○	200時間ごと	73	
28	燃料噴射ノズル（噴射圧）	点検													1500時間ごと	74	*3

No.	点検項目		アワメータ表示時間												点検間隔	参照ページ	
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600			
29	噴射ポンプ	点検													3000時間ごと	75	*3
30	ラジエータ	清掃													２年ごと	75	
31	冷却水	交換													２年ごと	75	
32	不凍液	－													２年ごと	75	
33	モーアギヤボックスオイルシール	交換													２年ごと	76	*2
34	エンジンブリーザーホース	交換													２年ごと	77	*3
35	ブレーキパッドの摩耗	点検													必要に応じた点検・整備	77	*3
36	燃料系統の空気抜き	－														81	
37	ヒューズ	交換														78	
38	刈刃	交換														79	
39	ランプ	交換														79	

重　要

＊ ◎はならし運転の 50 時間後に必ず行なってください。

*1 この定期点検は通常の状態よりもほこりの多い場所で使用した場合には早めに行なってください。
推奨清掃間隔は，通常の条件で 100 時間ごとです。

*2 これらの項目は，購入先にサービスを受ける必要があります。
ただし，所有者に適切な工具があり，機械に熟練している場合を除きます。

*3 このサービスについては，購入先にお問い合わせください。

*4 必要な場合のみ交換してください。

*5 フロント PTO ベルトの最初の伸びは，25 時間より前に発生するおそれがあります。　必要に応じてテンションスプリングの長さを調整して，ベルトのテンションを維持してください。

＊ 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。

給油（水）一覧表

■給油（水）

場所	容量 (L)	備考
燃料タンク	20.5	ディーゼル軽油
冷却水 (リザーブタンク含)	3.1	不凍液を添加した清浄な淡水
エンジン クランクケース	3.1*	クボタ純オイル（ディーゼルエンジン用） スーパー CD D10W-30 又は スーパー CF D10W-30 25 ℃以上 .....SAE30, SAE10W-30 または 15W-40 0 ～ 25 ℃ .....SAE20, SAE10W-30 または 15W-40 0 ℃以下 .....SAE10W, SAE10W-30 または 15W-40
トランスミッションケース	11	クボタ純オイル　スーパー UDT2
モーアギヤボックス	1.9	クボタ純オイル　スーパー UDT2
ブレーキ液 (リザーブタンクとライン含)	0.2	ブレーキ液 DOT3

* 油面が油面ゲージ上面の場合のオイル量。

補　足

＊ 冷却水と油の容量は，製品出荷時の値（参考値）です。
＊ モーアを上げ，集草機を下げた状態でトランスミッションケースの油面を確認してください。

重　要

＊ 油圧システムの重大な損傷を防ぐため，クボタ純正オイルまたは同等品以外は使用しないでください。
＊ ブレーキシステムの重大な損傷を防ぐため，ブレーキ液 DOT3 以外は使用しないでください。

■グリースの注入と注油

場所	箇所数	容量	備考
前車軸（キングピン）	2	グリースがあふれるまで	• 極圧（万能）グリース
前車軸（センタピン）	1		
ブレーキペダルリンク	9		
HST 速度変更ペダルダンパ	2		
HST ペダルボス	1		
PTO テンションアーム	1		
PTO（スプライン）	1		
駐車ロックペダルリンク	2		
駐車ブレーキレバーリンク	1		
速度調整リンク	2		
デフロックペダルリンク	4		
ダクト下支点	4		
センサシステム支点	2		
ダクト清掃システムリンク	4		
シート調整装置	2		
シート支点	2		
スロットルケーブル	1	適度な量	• オイル
モーアユニバーサルジョイント	3	グリースがあふれるまで	• 極圧（万能）グリース
モーアユニバーサルジョイント（グリースニップル）	2		
モーア昇降シリンダ	5		
モーア昇降フロントアーム（右）	1		
モーア昇降フロントリンク	3		
モーア昇降リアアーム（左，右）	4		
モーア昇降フロントピン（左，右）	2		
モーア昇降リアリンク（左，右）	4		
集草機支点（グリースニップル）（左，右）	10		
集草機昇降シリンダ（左，右）	4		
ダンプ支点（左，右）	2		

■推奨グリース

極圧（万能）グリース	クボタ純グリース No. 2 ※入手できない場合は下記メーカ製品または JCMAS GK 規格品をご使用ください。 • JX 日鉱日石エネルギー：エピノックグリース AP 2， リゾニックス EP 2 • コスモ石油ルブリカンツ：ダイナマックス No. 2 • 出光興産：ダフニーエポネックス SR 2 • 昭和シェル石油：アルバニヤ EP グリース 2 • モービル：モービラックス EP 2
ホーン接点用グリース	協同油脂　マルテンプ PS 2

注 意

＊ 油圧で支えられた装置の下で作業しないでください。沈み込んだり，急に下がる可能性があります。点検または調整のため，機械の下で作業する必要がある場合，前もってスタンドまたは適切なブロックで確実に支えてください。

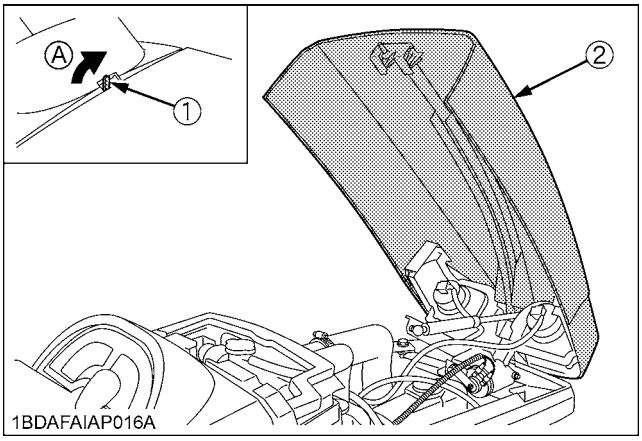
ボンネットの開け方

注 意

＊ ボンネットやエンジン周囲のカバーを開けるときは必ずエンジンを停止してください。
＊ マフラと排気パイプが熱いうちは触らないでください。重度のヤケドを負うことがあります。

■ボンネット

ボンネットを開くには，ノブを回してラッチを解除し，ボンネットを開きます。



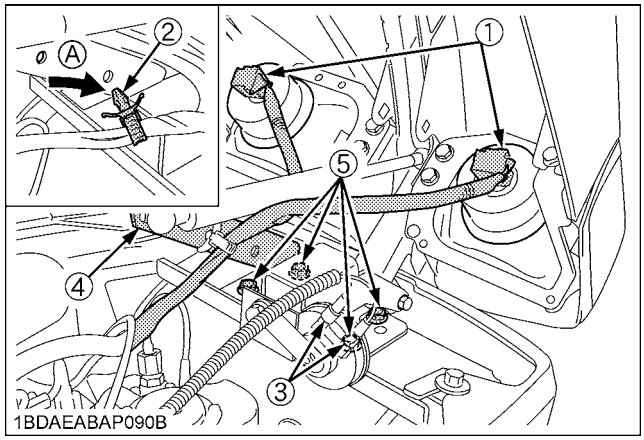
(1) ノブ　　(A) 回転させる
(2) ボンネット

■エンジンカバー

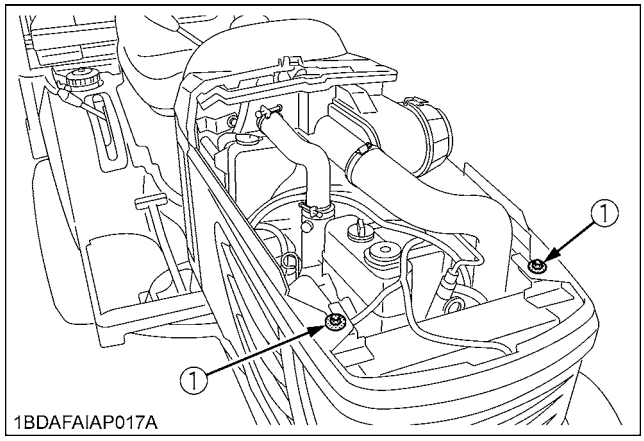
1. ボンネットを取外すには，ヘッドライトコネクタとホーンのカプラを外し，ボンネットポストの穴からコードクランプを引出します。
2. 4 個のナットを取外すと，ボンネットポストといっしょにボンネットを取外せます。
3. エンジンカバーを取外すには，ボルトを緩めます。

補 足

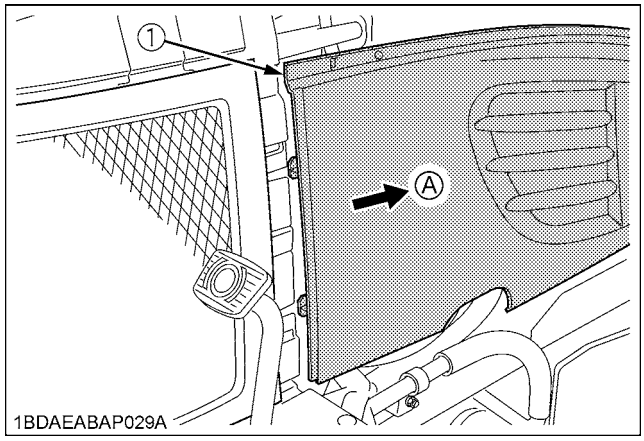
＊ 日常点検のためにエンジンカバーを取外す必要はありません。



(1) コネクタ　　(A) 引抜く
(2) コードクランプ
(3) カプラ
(4) ボンネットポスト
(5) ナット



(1) ボルト



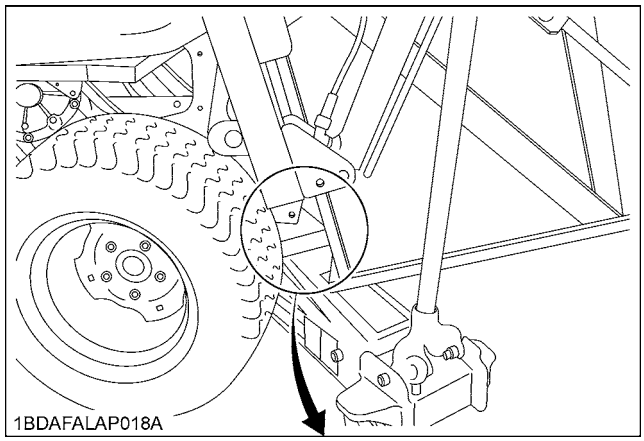
(1) エンジンカバー　　(A) 引く

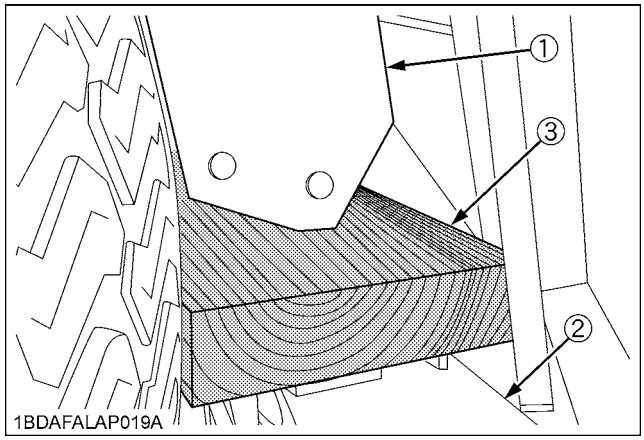
ジャッキポイント

警 告

＊ 安全なスタンドや適切なブロックで支えていないときは，機械の下で作業しないでください。

リアブラケットの下をジャッキアップしてください。





(1) リアブラケット
(2) ジャッキ
(3) 木材

日常点検

トラブルの発生を防ぐには，機械の状態を知ることが重要です。始動前に点検してください。

注 意

＊ 機械の点検およびサービスは，必ず水平な場所でエンジンを停止し，キーを抜き，駐車ブレーキをしっかりと掛けて行ってください。

	No.	点検項目	参照ページ
機械の周囲を歩いて	1	タイヤの空気圧，摩耗および損傷	38, 49
	2	オイルと水の漏れ	–
	3	エンジンオイルの量	47
	4	トランスミッションオイルの量	50
	5	リザーブタンクでの冷却水の量	52
	6	ブレーキ液の量	50
	7	機械本体への損傷，すべてのボルトおよびナットの締付け	–
	8	ラジエータネット	48
	9	パネルスクリーン	48
	10	ブレーキの遊び	51
	11	燃料の量	48
	12	エアクリーナの点検	53
モーア	1	オイル漏れ	54
	2	刈刃ボルトが締まっていることを確認	79
	3	刈刃の摩耗または破損	79
	4	すべての装置部品類を点検	–
	5	すべてのピンがはまっていることを確認	–
	6	モーアデッキの清掃	–

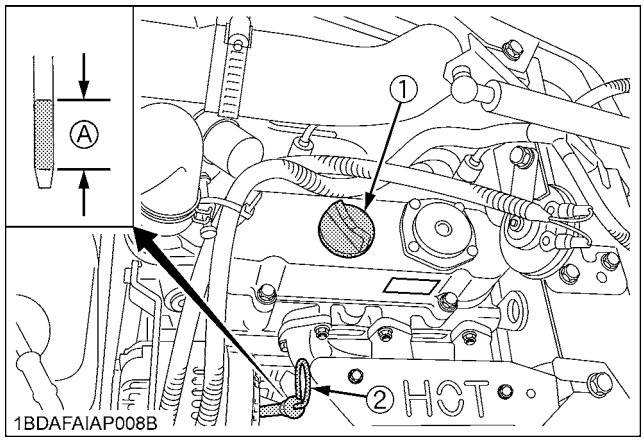
	No.	点検項目	参照ページ
シートに座って	1	速度調整ペダル ブレーキペダル	–
	2	ブレーキロック	–
キーを“入”にして	1	イージーチェッカランプの動作	16
エンジンを始動して	1	排気ガスの色	–
	2	安全始動スイッチ，シート安全コントロールおよびその他の安全装置。これらのいずれかが適切に作動しない場合，ただちに購入先にお問い合わせください。	52
	3	異常音および振動の点検	–
その他	1	以前にトラブルが発生したことがある箇所を点検	–

■エンジンオイルの量の点検

注 意

＊ オイルの量を点検する前に必ずエンジンを止めてください。

1. 機械を平らな場所に駐車してください。
2. エンジンオイルの点検は，油面が安定するエンジン始動前か，またはエンジン停止後５分以降に行なってください。
3. オイルの量を点検するには，オイルゲージを抜いて，先端をきれいに拭いて差込み，再び抜いてください。オイルの線が上下限の間にあることを確認してください。
   不足の場合は給油口から新しいオイルを規定油面まで入れてください。
   (**“メンテナンス”**の章の**“給油（水）一覧表”**を参照してください。)



(1) 給油口　　**(A) オイルの量の許容範囲**
(2) オイルゲージ

重 要

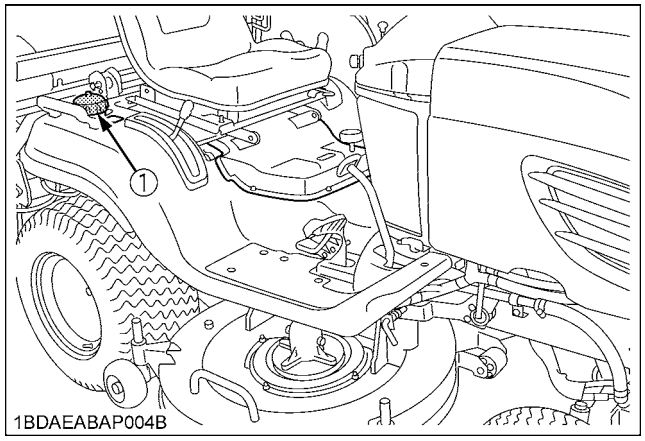
＊ 今まで使用していたオイルと異なるメーカや粘度のものを使用する場合，古いオイルを全部排出し，古いフィルタを取外してください。異なる２種類のオイルを決して混ぜないでください。
＊ オイルの量が少ない場合は，エンジンを作動させないでください。

■燃料の量の点検と給油

注　意

＊ 給油中はタバコを吸わないでください。
＊ 給油する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。
＊ 燃料は慎重に取扱ってください。エンジンが作動している場合は，給油しないでください。エンジンが熱い場合には燃料を加える前にエンジンを数分冷やしてください。給油中または燃料系統を点検しているときはタバコを吸わないでください。給油口の下部より上まで給油しないでください。
＊ 皮膚のアレルギー反応を防ぐため，ディーゼル燃料に接したら直ちに手を洗ってください。

1. 燃料には，**“ディーゼル軽油”**を使用してください。
2. キースイッチを**“入”**に回し，燃料計で燃料の量を点検してください。
3. 燃料計の表示でタンク内の燃料が 1/4 以下になったら，給油してください。



(1) 燃料タンクキャップ

燃料タンク容量	20.5 L

重　要

＊ ほこりやゴミが燃料系統に入らないようにしてください。
＊ 燃料タンクを空にしないように注意してください。空になると，燃料系統に空気が混入し，次にエンジンを始動する前に燃料系統の空気抜きをする必要が生じます。
＊ 給油中に燃料をこぼさないように注意してください。こぼれたらすぐ拭き取ってください。火災の原因になるおそれがあります。
＊ 燃料タンクに結露（水）が蓄積するのを防ぐには，夜間に駐車する前に給油してください。

補　足

＊ ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　類	ディーゼル軽油の流動点（℃）
特 1 号	＋５以上
1　号	－５～０
2　号	-10
3　号	-20 ～ -15
特 3 号	-30 ～ -25

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。

■パネルスクリーンおよびラジエータネットの点検と清掃

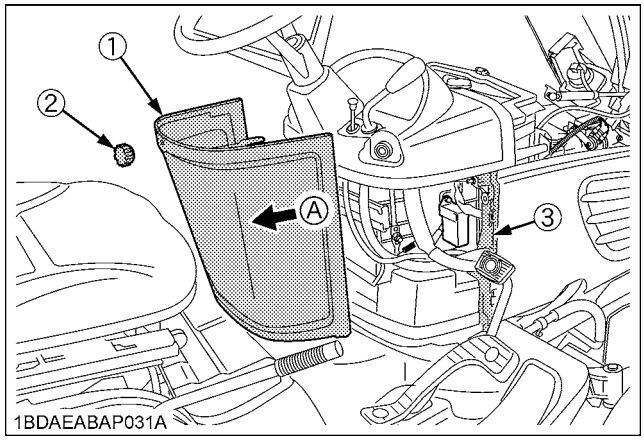
注　意

＊ スクリーンを取外す前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。

1. パネルスクリーンにゴミがたまっていないことを確認してください。
2. パネルスクリーンにゴミがたまっている場合，それを取り外して清掃してください。

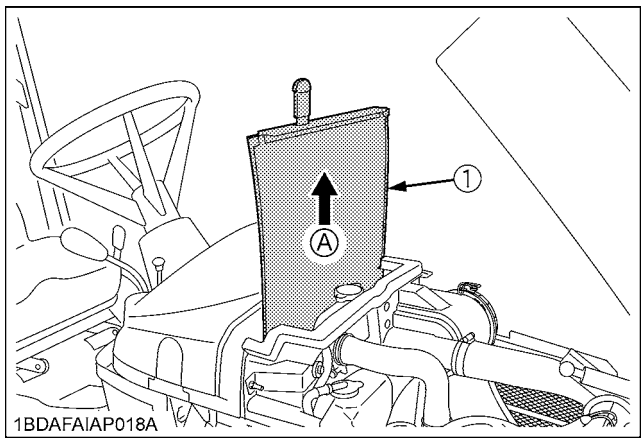
補　足

＊ ゴミまたはくずがバッテリ周辺にたまっている場合，完全に清掃してください。



(1) パネルスクリーン　　(A) 取外す
(2) ノブ
(3) センターピラー

3. ラジエータネットを外し，すべてのゴミを取除きます。



(1) ラジエータネット　　(A) 取外す

重　要

＊ パネルスクリーンおよびラジエータスクリーンは，エンジンのオーバーヒートを防ぎ，エアクリーナが十分に吸気できるように，ゴミを清掃する必要があります。
＊ ゴミの侵入を防止するため，必ずパネルスクリーンをセンターピラーに完全に取付けてください。
＊ ケガを防ぎ，エアクリーナが十分に吸気できるように，必ずエンジンを停止してください。

■タイヤの空気圧の点検

警　告

＊ タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引起こす原因になります。
＊ タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
＊ タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。（特別教育を受けた人が行なうように，法で決められています。）

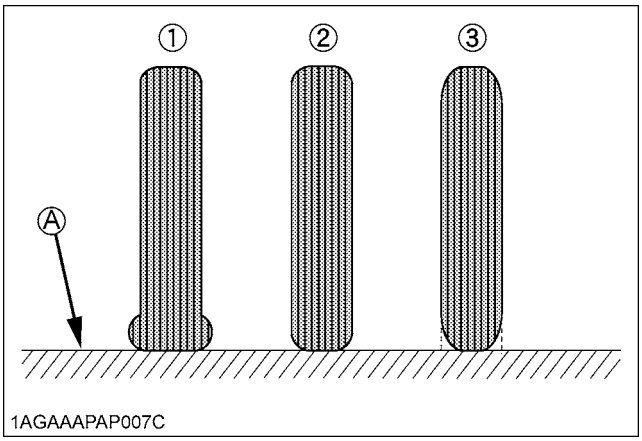
注　意

リム，車輪，または車軸がゆるんでいる機械は絶対に運転しないでください。
＊ ボルトがゆるんでいる場合には規定のトルクで締付けてください。
＊ 全てのボルトをこまめに確認し，締付けてください。

◆ 空気圧

空気圧は規定圧力に工場でセットしておりますが，時間とともに自然とゆっくり減ってきます。毎日点検して，必要に応じて空気を入れてください。

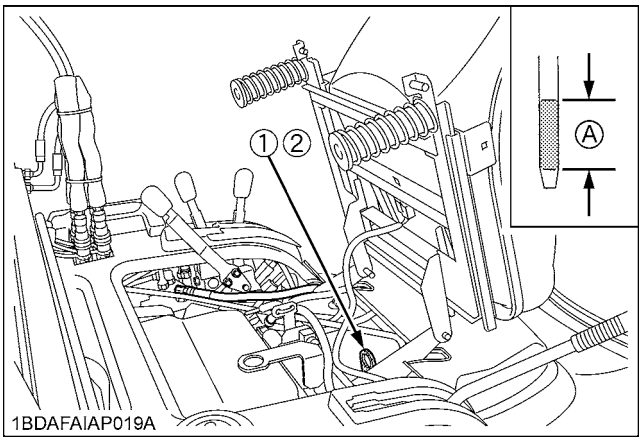
	タイヤサイズ	標準最大空気圧
前輪	16 × 7.50 - 8, Turf	120 kPa (1.2 kgf/cm²)
後輪	24 × 12.00 - 12, Turf	100 kPa (1.0 kgf/cm²)



(1) 空気が不足
(2) 標準
(3) 空気が多い
(A) 地面

■トランスミッションオイルの量の点検

1. 機械を平たん地に停車し，モーアを上げて集草機を下げ，エンジンを停止してください。
2. オイルの量を点検するには，オイルゲージを抜いて，先端をきれいに拭いて差込み，再び抜いてください。オイルの線が上下限の間にあることを確認してください。
   不足の場合は給油口から新しいオイルを規定油面まで入れてください。
   (**“メンテナンス”**の章の**“給油（水）一覧表”**を参照してください。)



(1) 給油口
(2) オイルゲージ
(A) オイルの量の許容範囲

重　要

＊ オイルの量が少ない場合は，エンジンを作動させないでください。

■ブレーキ液の量の点検

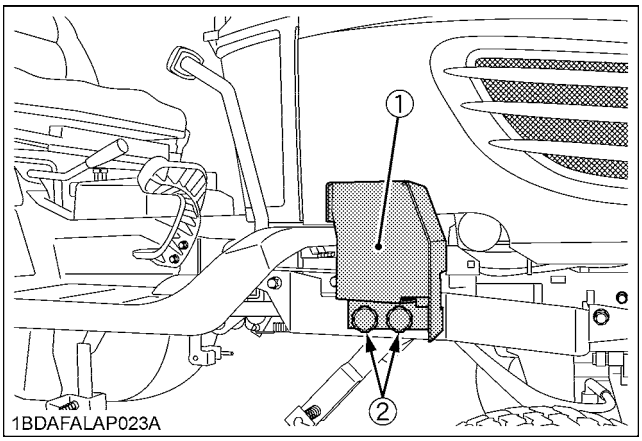
注　意

絶対に飲まないでください。また，目や皮膚に触れると炎症をおこすことがあります。
＊ 目に入れたり，皮膚に長時間触れさせたり，皮膚に繰り返し触れさせたりしないでください。
＊ 子供が触れないようにしてください。
＊ ブレーキ液に触れて炎症がおきた際は，多量の水で洗い流してください。
炎症が続く場合は，ただちに医師の診察を受けてください。

注　意

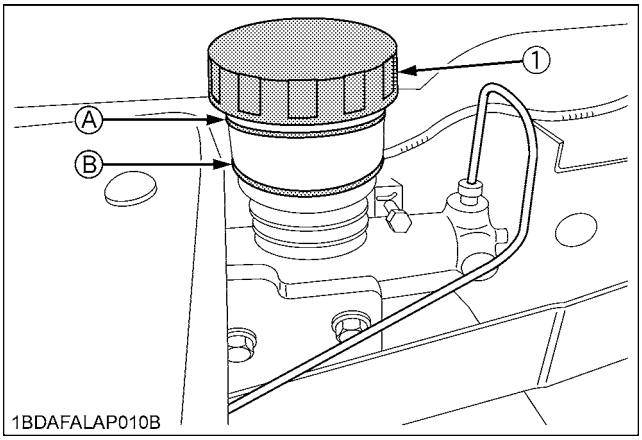
＊ ブレーキ液の量が“MIN”の位置より少ないときは，決して機械を運転しないでください。
＊ シールされた容器からのブレーキ液 DOT3 を必ず使ってください。他の種類のオイルの使用は，ブレーキシステムの部品の樹脂やゴムを侵し，ブレーキの破損を引き起こすことがあります。
＊ ブレーキ液への不純物混入は避けてください。キャップを取外す前に，キャップの周囲をよく清掃してください。必要時以外は，ブレーキ液タンクキャップを絶対に開けないでください。
＊ リザーブタンクにブレーキ液を入れるときは，特に注意してください。ブレーキ液は樹脂やゴムホースを侵しやすいので，パワーステアリングホース上にブレーキ液がこぼれたときは，すぐに水で洗い流してください。

1. ２本のノブボルトを緩め，マスターシリンダカバーを取外してください。



(1) マスターシリンダカバー
(2) ノブボルト

2. 水平な場所に機械を駐車し，ボンネットを開けてください。
3. ブレーキ液の量が**“MAX”**と**“MIN”**のマークの間にあることを確認してください。



(1) オイルタンクキャップ　　**(A) “MAX”**
(B) “MIN”

4. ブレーキ液の量が**“MIN”**の位置より少ない場合は，ブレーキ液を**“MAX”**の位置まで入れてください。
5. ２本のノブボルトでマスターシリンダカバーをプレートへ取付けてください。

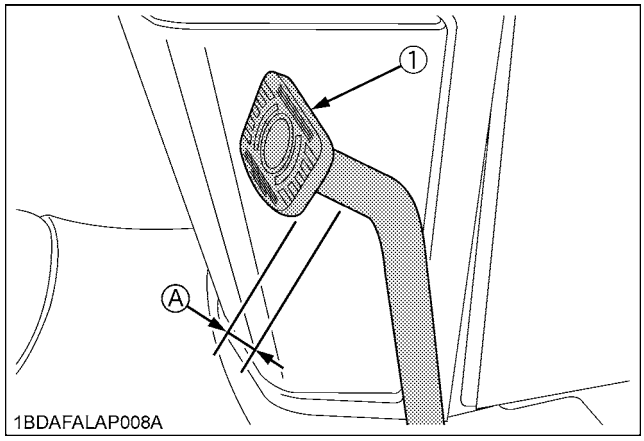
■ブレーキペダルの点検

注　意

＊ ブレーキペダルの点検前に，エンジンを停止し，タイヤに車止めをしてください。

ブレーキペダルの遊びの規定値	ペダルの上で約 30㎜

1. ブレーキペダルの遊びとスムーズな動きを点検してください。
2. 測定した結果が規定値以外のときは調節してください。（**“定期点検”**の章の**“200 時間ごとの点検”**の**“ブレーキペダルの点検”**を参照してください。）



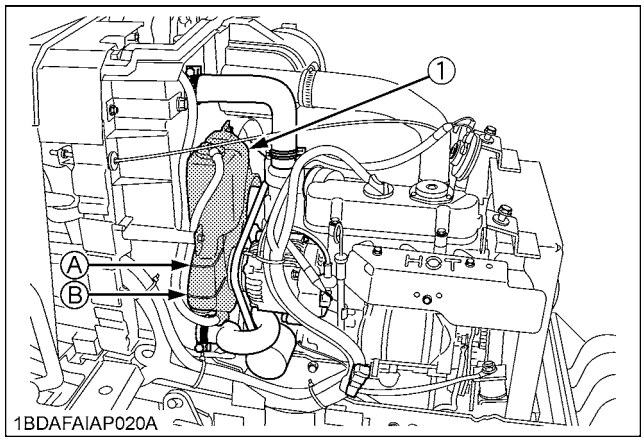
(1) ブレーキペダル　　**(A) “遊び”**

■冷却水の量の点検

注 意

＊ 冷却水の量を点検する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。
＊ 冷却水が高温なときは，ラジエータキャップを開けないでください。冷えたときに，キャップが最初に止まるまでゆっくり回し，キャップを完全に取外す前に超過圧力を開放してください。

1. 冷却水の量が，リザーブタンクの**“H”**と**“L”**のマークの間にあることを確認してください。
2. 蒸発によって減ったときには水のみを補充してください。漏れによって減少したときには，指定された比率どおりの水と不凍液の混合液を**“H”**の高さまで足してください。
（**“定期点検”**の章の**“２年ごとの点検”**にある**“ラジエータの洗浄および冷却水の交換”**を参照してください。）



(1) リザーブタンク　(A) “H”　(B) “L”

重 要

＊ ラジエータキャップを取外す必要がある場合は，上の注意に従い，キャップを再度しっかりと締めてください。
＊ 清浄な蒸留水と不凍液でラジエータを満たしてください。
＊ 冷却水が漏れる場合は，購入先にお問い合わせください。

50 時間ごとの点検

■安全装置

機械の安全装置は，運転者を保護するように設計されています。これらの安全装置は，定期的に（できれば毎日）点検して，作業の前に安全装置の機能をテストしてください。

注 意

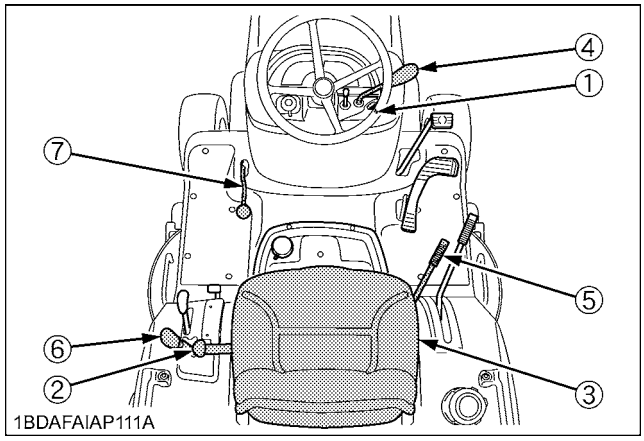
＊ 点検中は本機に人を近づけないでください。
＊ 以下のとおりに作動しない項目が一つでもある場合，本機を運転せず購入先にご相談ください。

重 要

＊ 機械を操作する前に以下のテストで確認してください。

■安全装置の点検

1. モーアを操作する前に以下のテストで確認してください。
すべてのテストは，シートに座って実施してください。
2. 機械が以下のテストのいずれかに合格しない場合，機械を操作しないでください。
購入先にお問い合わせください。



(1) キースイッチ　(5) 駐車ブレーキレバー
(2) PTO レバー　(6) 集草機コントロールレバー
(3) シート　(7) 駐車ブレーキロックペダル
(4) 手動スロットルレバー

◆ 安全始動コントロール１

1. 駐車ブレーキレバー（5）を引き，駐車ブレーキロックペダル（7）を踏んでください。
2. PTO レバー（2）を**“入”**にしてください。

3. キースイッチ（1）を**“始動”**の位置に回してください。
4. エンジンは始動しません。

◆ 安全始動コントロール２

1. PTO レバー（2）を**“切”**にしてください。
2. 駐車ブレーキレバー（5）を引き，駐車ブレーキを解除してください。
3. キー（1）を**“始動”**の位置に回してください。
4. エンジンは始動しません。

◆ シート安全コントロール１

1. エンジンを中速（4）で始動してください。
2. PTO レバー（2）を**“入”**にしてください。
3. 立ち上がってください。(機械から降りないでください。)
4. エンジンは止まります。

◆ シート安全コントロール２

1. エンジンを中速（4）で始動してください。
2. PTO レバー（2）を**“切”**にしてください。
3. 駐車ブレーキレバー（5）を引き，駐車ブレーキを解除してください。
4. 立ち上がってください。(機械から降りないでください。)
5. エンジンは止まります。

◆ PTO 安全コントロール１

1. 油圧集草機コントロールレバー（6）で集草機を後方へ傾けるかまたは持上げてください。
2. エンジンを中速（4）で始動してください。
3. PTO レバー（2）を**“入”**にしてください。
4. エンジンは止まります。

◆ PTO 安全コントロール２

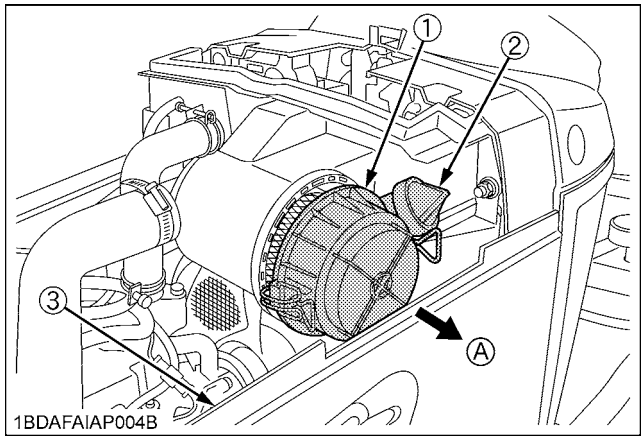
1. エンジンを中速（4）で始動してください。
2. PTO レバー（2）を**“入”**にしてください。
3. 油圧集草機コントロールレバー（6）で集草機を後方へ傾けるかまたは持上げてください。
4. エンジンは止まります。

■エアクリーナエレメントの清掃

注 意

＊ エアクリーナエレメントを清掃する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。

1. エアクリーナカバーおよびエレメントを取外してください。
   (1) フックを外してください。
   (2) カバーを時計回りに回して取外してください。
   (3) カバーを回し，エバキュエータバルブを図の位置に取付けます。
   エンジンカバー上端を前方に引きながらカバーを取外します。



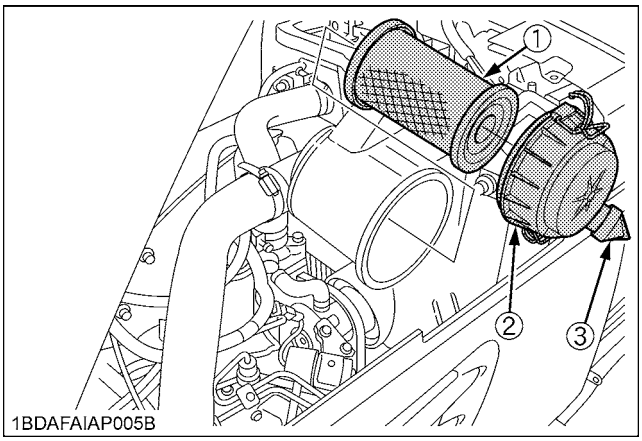
(1) エアクリーナカバー　　(A) 引く
(2) エバキュエータバルブ
(3) エンジンカバー

2. エレメントの清掃：
   (1) エレメントに乾燥したゴミが付着した場合，エレメントを回しながら，内側から圧縮空気を吹付けます。圧縮空気の圧力は，205 kPa (2.1 kgf/cm², 30 psi) を超えないようにしてください。
   (2) カーボンまたはオイルがエレメントに付着した場合は，エレメントを洗剤に 15 分間浸し，数回水洗いしてから，きれいな水ですすいで自然乾燥させます。エレメントが完全に乾燥した後，エレメントの内側をライトで点検し，損傷がないかどうかを確認してください。(ケースに添付されているラベルの指示を参照してください。)

3. 次の場合，エアクリーナエレメントを交換してください：
   年に１回または６回目の清掃後のいずれか早い方。

補　足

＊ 点検して，エバキュエータバルブがゴミで詰まっていないかどうか確認してください。



(1) エレメント
(2) カバー
(3) エバキュエータバルブ

重　要

＊ エアクリーナは乾式エレメントを使用してます。決してオイルを使用しないでください。
＊ フィルタエレメントを取外した状態でエンジンを作動させないでください。
＊ カバーを再度取付けるときは矢印を合わせてください。カバーを不適切に取付けると，ゴミがバッフルを通り抜け直接エレメントに付着します。

◆ エバキュエータバルブ

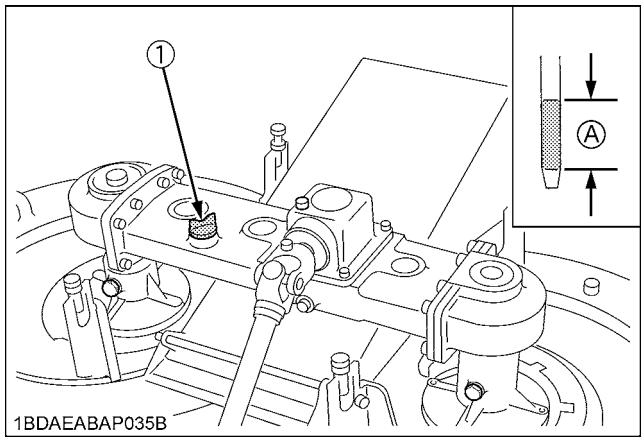
通常の状態では週１回，ほこりの多い場所では毎日，エバキュエータバルブを開き，ゴミやほこりの大きい粒子を取除いてください。

■モーアギヤボックスオイルの量の点検

注　意

＊ オイルを点検する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。

1. 機械を水平な場所に駐車して，モーアを地面に降ろしてください。
   オイルの量を点検するには，オイルゲージを抜いて，先端をきれいに拭いて，給油口へオイルゲージを最後までねじ込み，再び抜いてください。オイルの線が上下限の間にあることを確認してください。
   不足の場合は給油口から新しいオイルを規定油面まで入れてください。
   （**“定期点検”**の章の**“給油（水）一覧表”**を参照してください。）



(1) オイルゲージ　　(A) オイルの量の許容範囲

補　足

＊ モーアを上げた状態でモーアギヤケースの油面を確認してください。

重　要

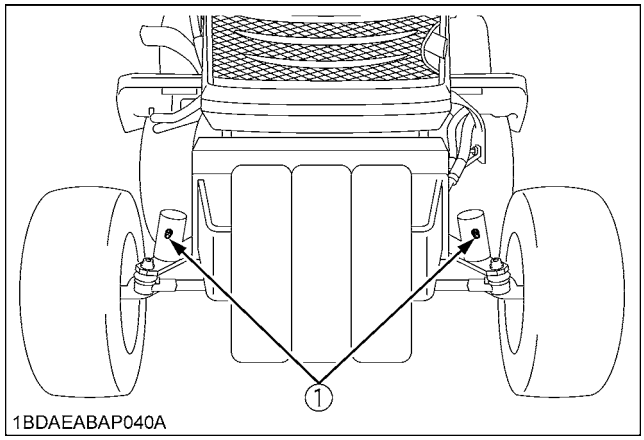
＊ オイルの量が少ない場合は，エンジンを作動させないでください。

■グリースの注入

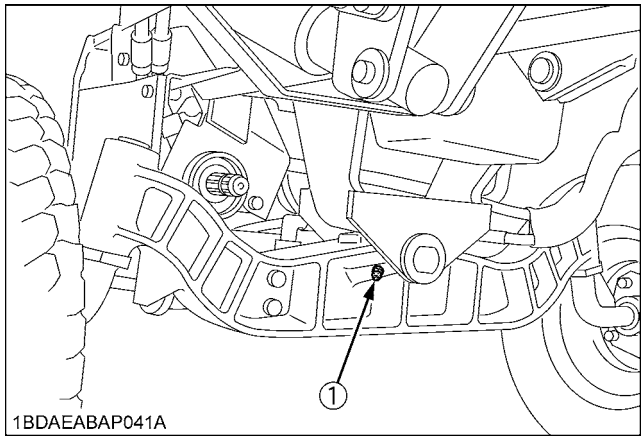
注 意

＊ グリースを注入する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。

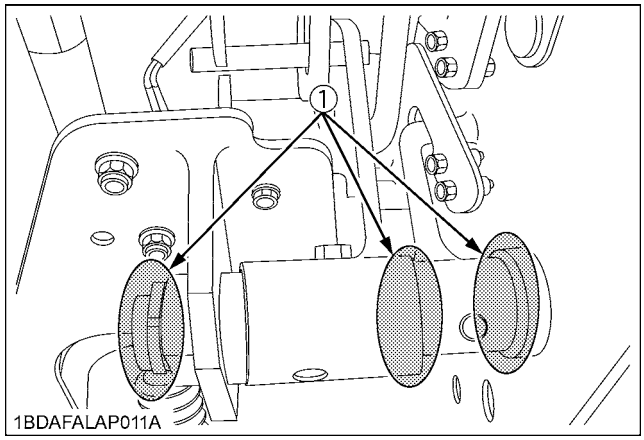
次の場所にグリースを注入してください。



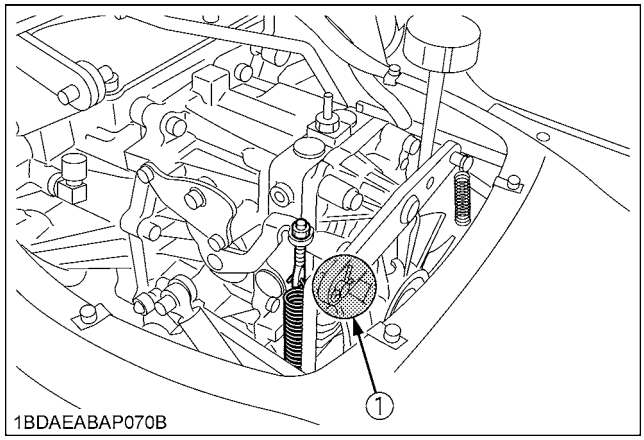
(1) 前車軸（キングピン）



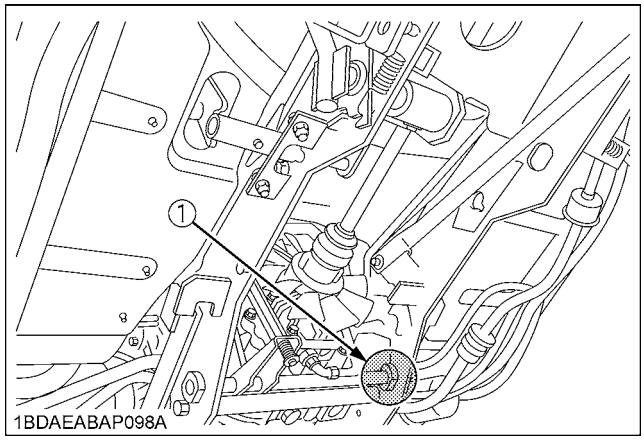
(1) 前車軸（センタピン）



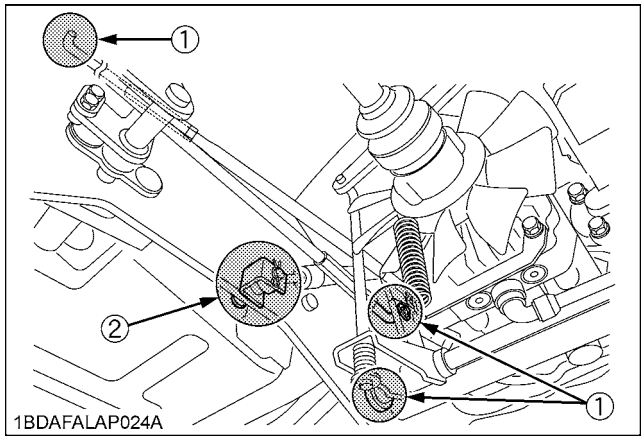
(1) ブレーキペダルリンク



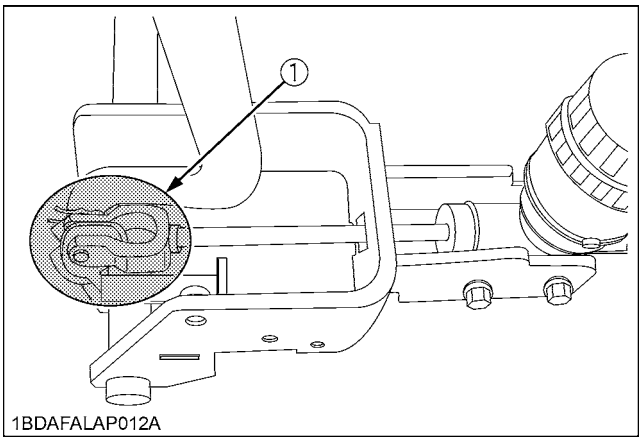
(1) ブレーキペダルリンク



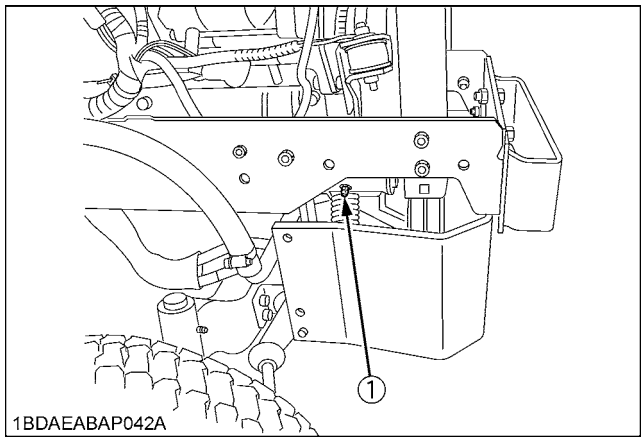
(1) ブレーキペダルリンク



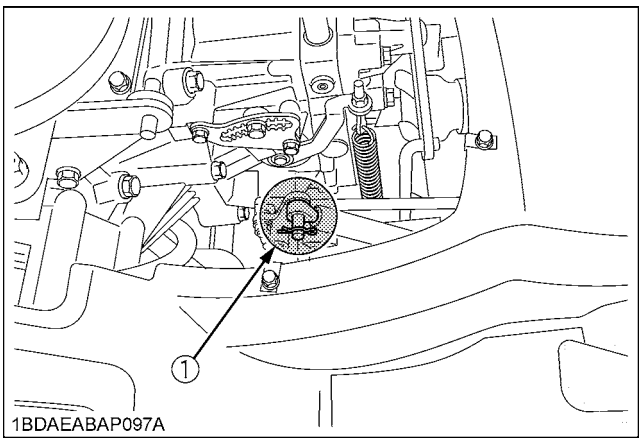
(1) ブレーキペダルリンク
(2) HST 速度変更ペダルダンパ



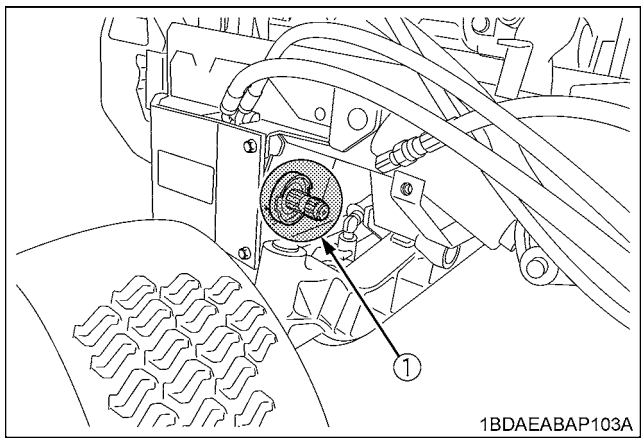
(1) ブレーキペダルリンク



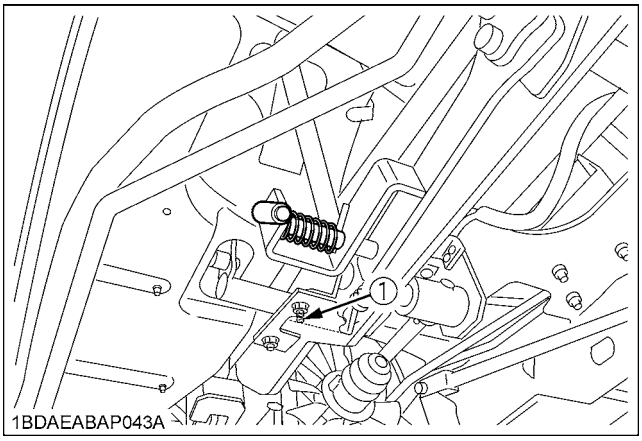
(1) PTO テンションアーム



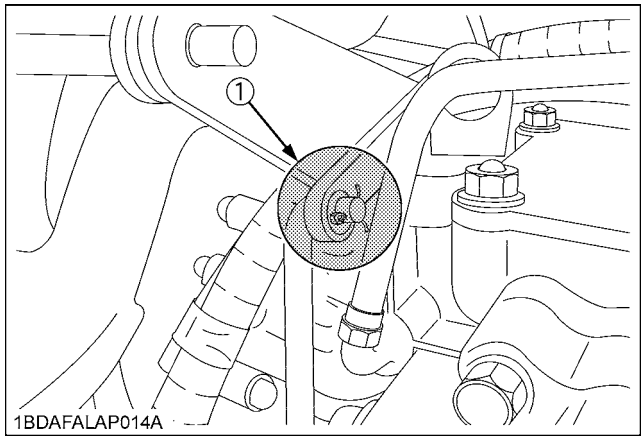
(1) HST 速度変更ペダルダンパ



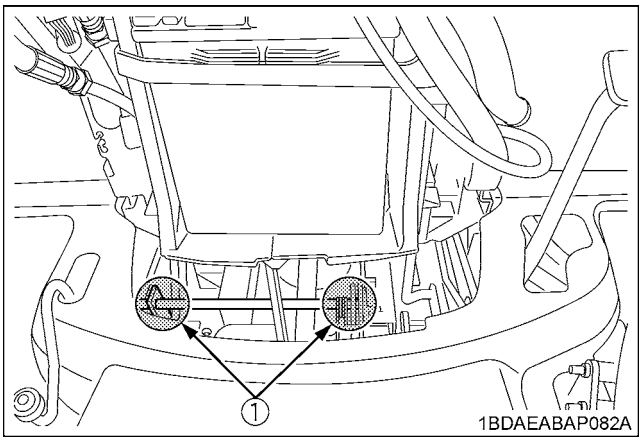
(1) PTO（スプライン）



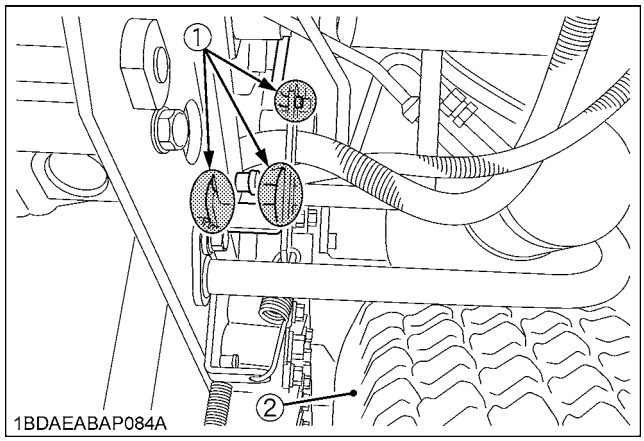
(1) HST ペダルボス



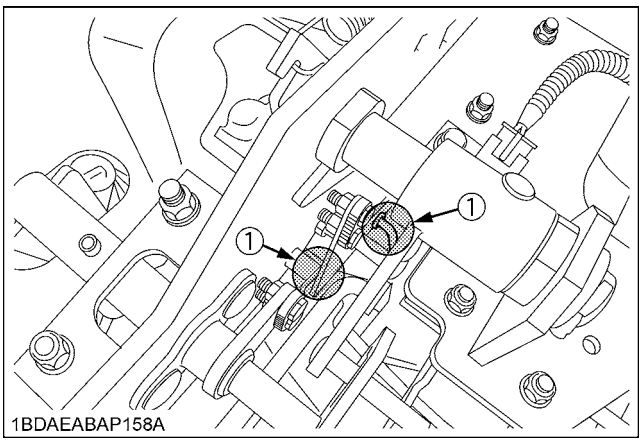
(1) 駐車ブレーキレバーリンク



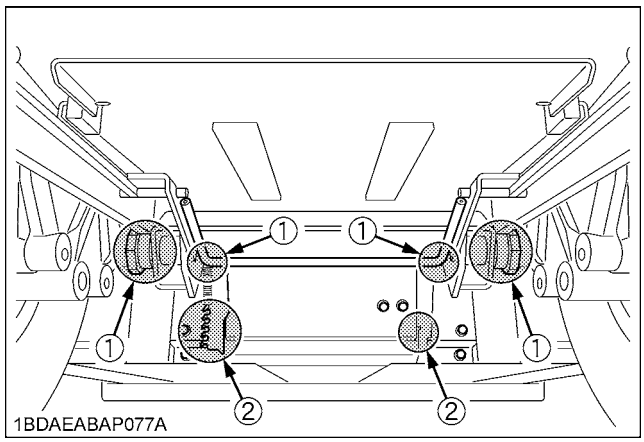
(1) 駐車ロックペダルリンク



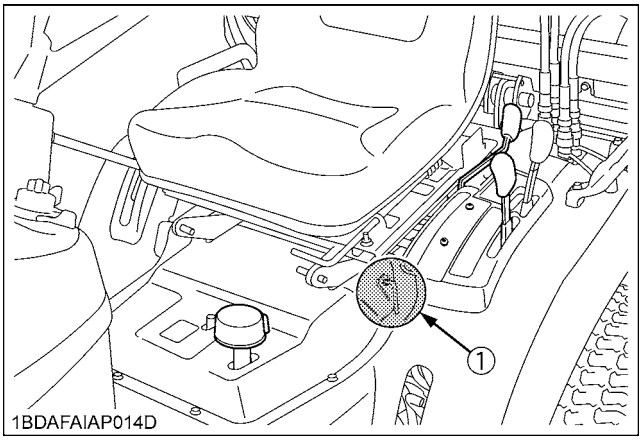
(1) デフロックペダルリンク　　(2) 後輪（左）



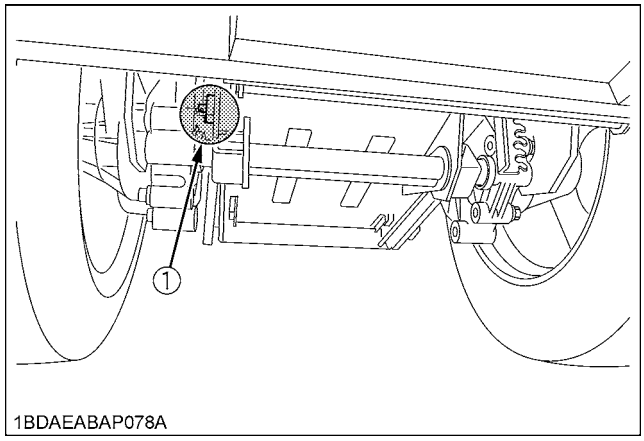
(1) 速度調整リンク



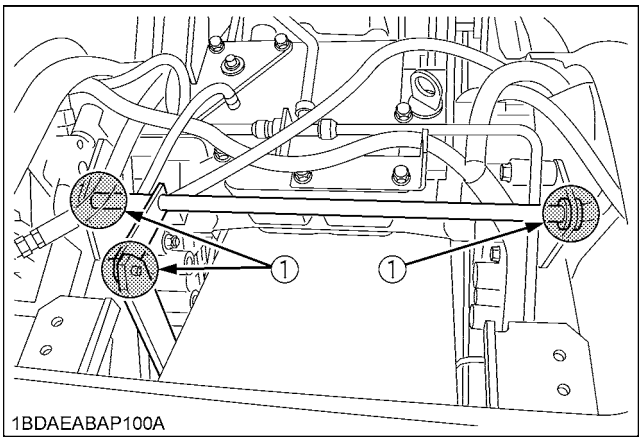
(1) ダクト下支点　　(2) センサシステム支点



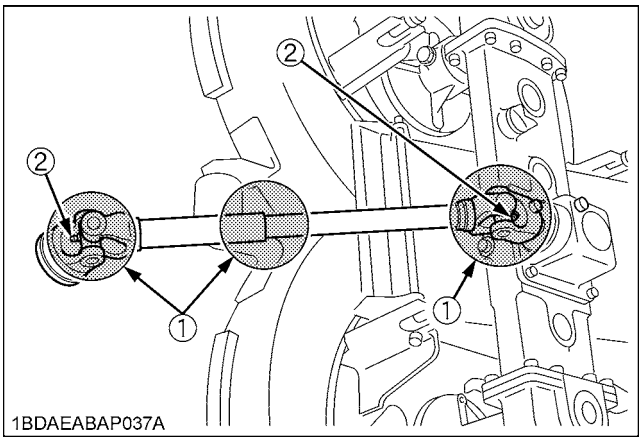
(1) デフロックペダルリンク



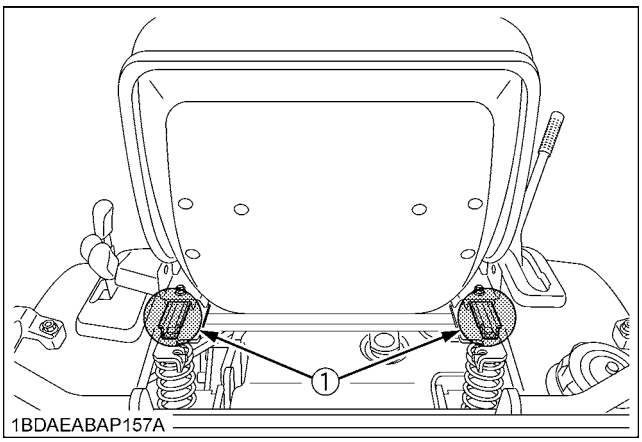
(1) ダクト清掃システムリンク



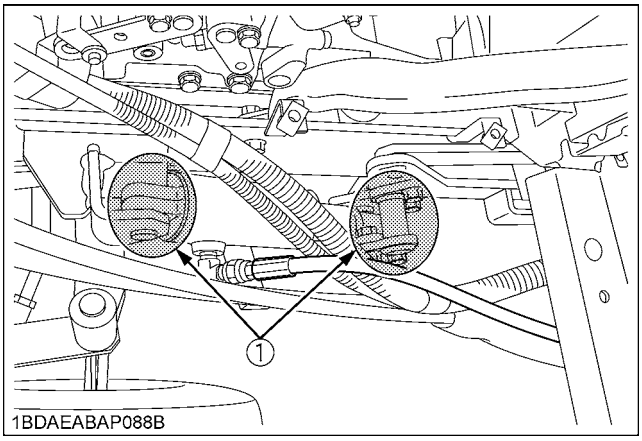
(1) ダクト清掃システムリンク



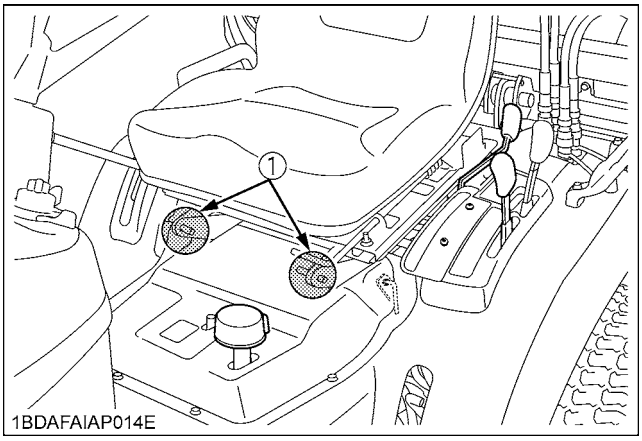
(1) モーアユニバーサルジョイント
(2) モーアユニバーサルジョイント（グリースニップル）



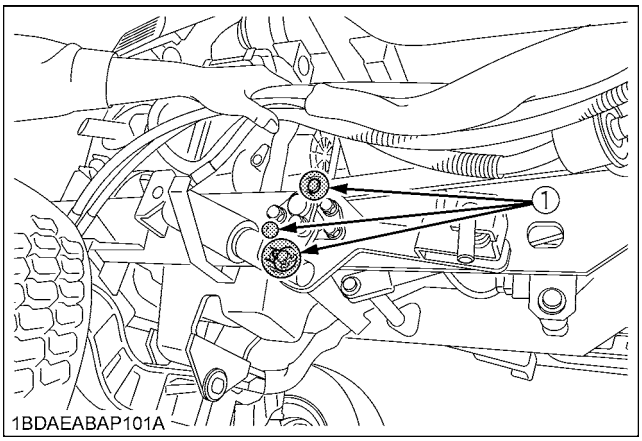
(1) シート調整装置



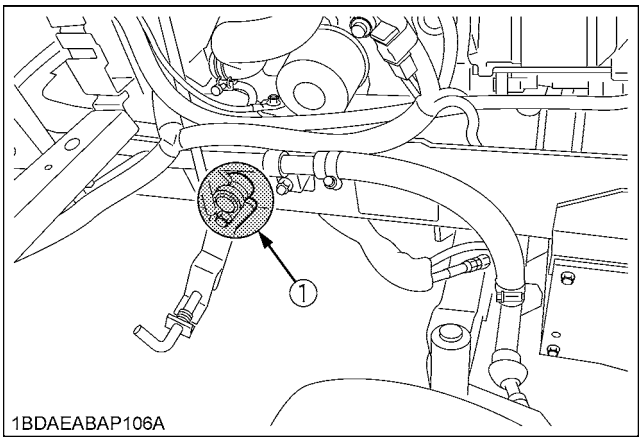
(1) モーア昇降シリンダ



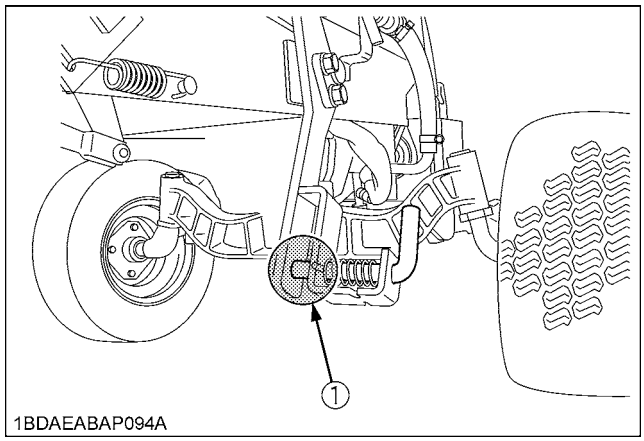
(1) シート支点



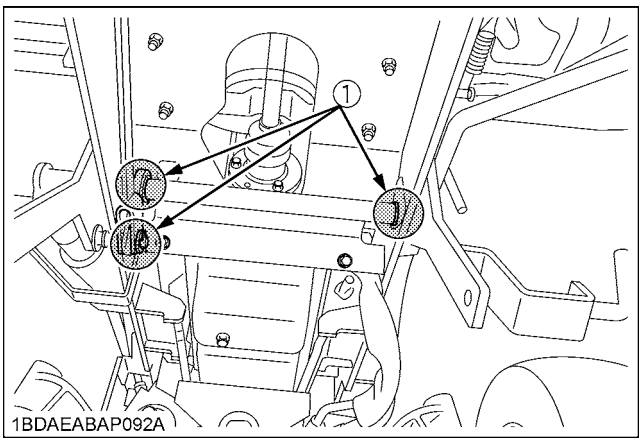
(1) モーア昇降シリンダ



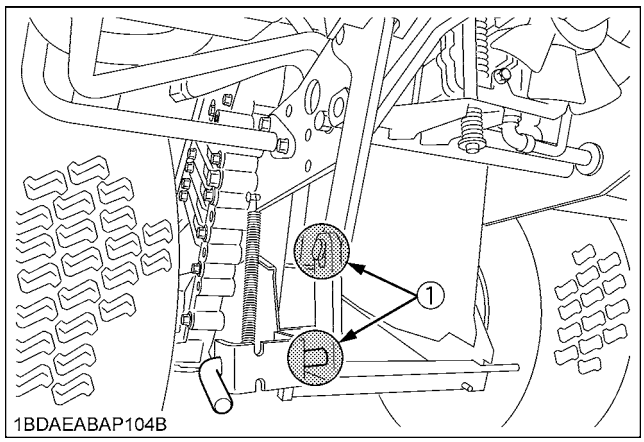
(1) モーア昇降フロントアーム（右）



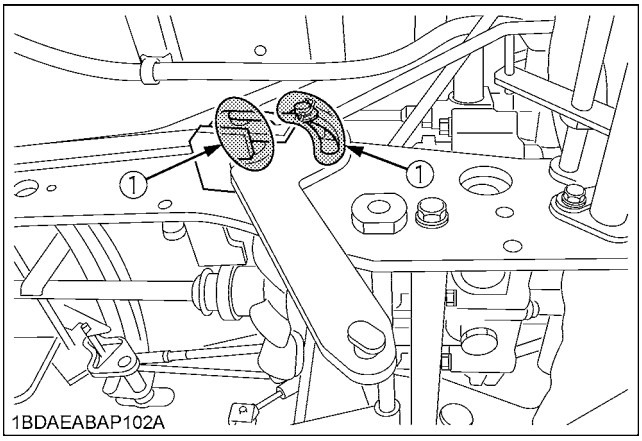
(1) モーア昇降フロントピン（左，右）



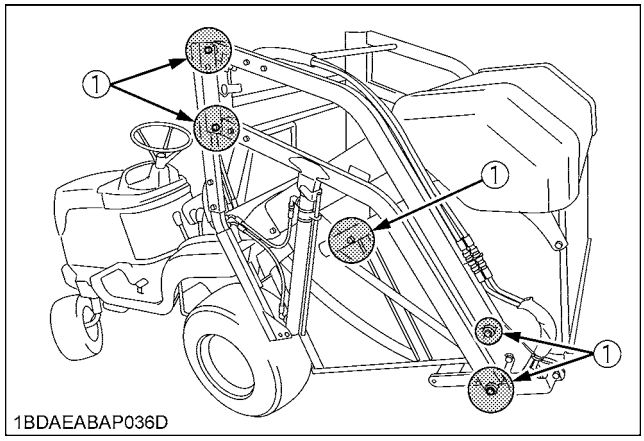
(1) モーア昇降フロントリンク



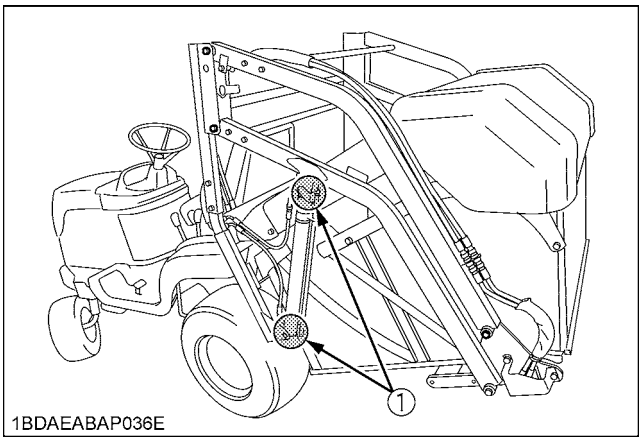
(1) モーア昇降リアリンク（左，右）



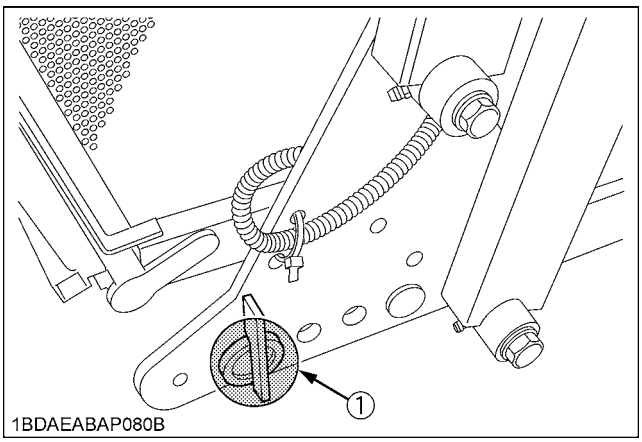
(1) モーア昇降リアアーム（左，右）



(1) 集草機支点（グリースニップル）（左，右）



(1) 集草機昇降シリンダ（左，右）



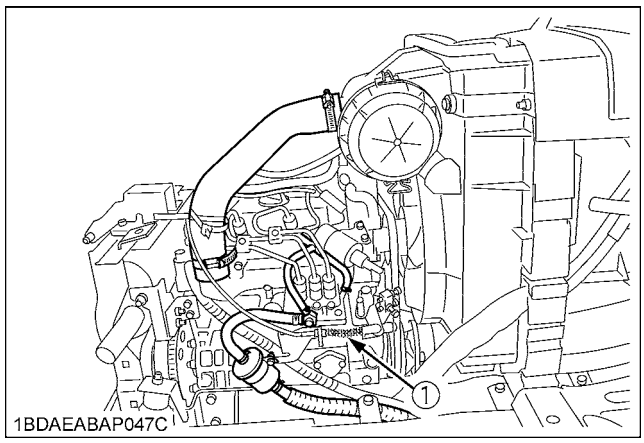
(1) ダンプ支点（左，右）

■注油

注 意

＊ 注油する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。

次の場所に注油してください。



(1) スロットルケーブル

■バッテリ

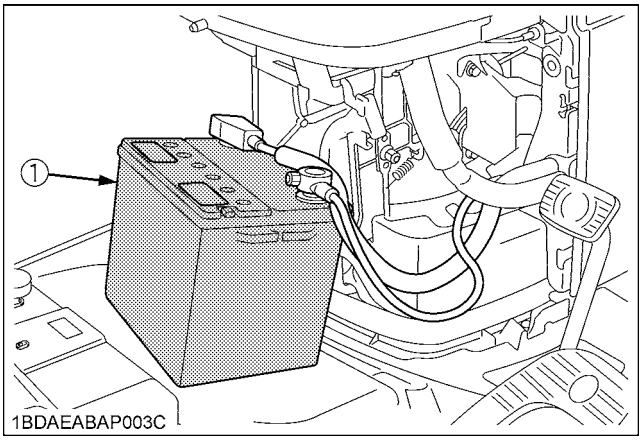
危 険

補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。
＊ バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。液の量を定期的に点検して，液量が UPPER と LOWER の間になるように必要に応じて蒸留水を足してください。

注 意

＊ 決してエンジンが作動している状態でベントキャップを取外さないでください。
＊ 電解液を目，手，衣服に付けないようにしてください。電解液が付着した場合はすぐに水で完全に洗い流して医師の診断を受けてください。
＊ バッテリ周りで作業するときには防護めがねとゴム手袋をしてください。

バッテリは取扱いを誤ると寿命が短くなり，保守コストがかさみます。
本機は出荷時には補水不要タイプのバッテリを搭載していますが，いくらかの点検は必要です。バッテリが弱ってくると，エンジンが始動しにくくなりライトが暗くなります。定期的にバッテリを点検してください。



(1) バッテリ

■バッテリの充電

危 険

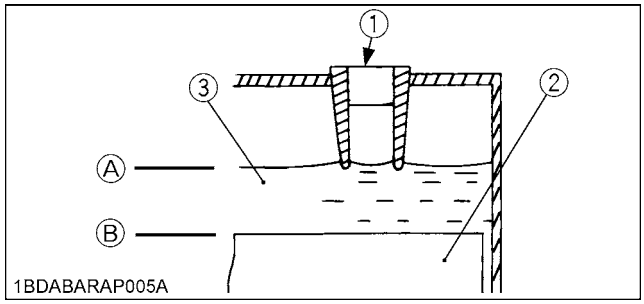
＊ バッテリ使用中はバッテリ内の水素ガスと酸素ガスが特に危険な状態になっております。どんなときにもバッテリから火花や炎を遠ざけてください。特にバッテリを充電するときには注意してください。

注 意

＊ バッテリを充電するときにはベントキャップがきっちりと閉まっていることを確認してください（キャップがある場合）。
＊ バッテリからコードを外すときにはマイナスの端子から外してください。
バッテリを接続するときにはプラスの端子から接続してください。
＊ バッテリ端子を短絡させてバッテリの充電を点検しないでください。
電圧計か，液体比重計を用いてください。

◆ ベントキャップが取外せる補水可能なタイプのバッテリを使用する場合

1. それぞれの電解液の量がベント穴の底まであることを確認してください。もし必要ならば換気が十分な所でベント穴から蒸留水を加えてください。



(1) ベント穴
(2) しきり板
(3) 電解液
(A) 上限
(B) 下限

2. 充電中は電解液の水は蒸発します。液体が少なくなるとバッテリに損傷を与えます。液体が多すぎるとこぼれて機械の車体に損傷を与えます。

3. バッテリの通常充電をするにはバッテリのプラス⊕の端子を充電器のプラス⊕の端子につなぎ，マイナス⊖の端子をマイナス⊖の端子につなぎ，通常のやり方で充電してください。
4. 急速充電法は緊急のときにのみ行います。これは短時間で放電量の幾分かを補うために大電流で充電する方法です。
   急速充電したときにはできるだけ早くバッテリを正しく補充電することが必要です。
   補充電しておかないと，バッテリの寿命が短くなります。
5. 電解液の比重が 1.27 ～ 1.29 に達したときに充電はできています。
6. 古いバッテリを新しいバッテリに交換するときには**“主要諸元”**に記載されているバッテリと仕様が等しいバッテリを使用してください。

◆ 補水不要のバッテリを使用される場合

補水不要のバッテリは水を加える必要のないように設計されています。しかし，電解液の量は実際には高温状態やレギュレーターのセッティング不良による通常とは異なる使用状態により，減少してきます。充電の状態を点検するには電圧計を使用してください。（下の参考表を見て，充電が必要かどうかを確認してください。）

バッテリ電圧	充電状態
12.6	100%（満充電）
12.4	75%
12.2	50%
12.0	25%
11.8	0%

◆ 格納時の処置

1. 機械を長期間格納する場合，バッテリを本機から外し，充電し，バッテリ液を適量補充し，直射日光の当たらない乾燥した冷暗所に保管してください。
2. バッテリは保管している状態でも放電します。
   夏季は３ヶ月ごと，冬季は６ヶ月ごとに再充電してください。

■フロント PTO ベルトテンション

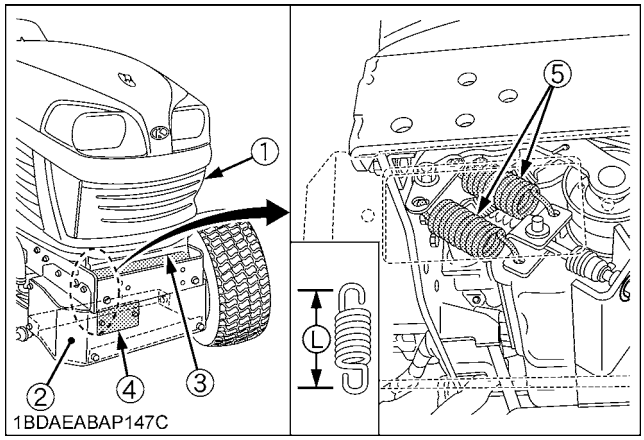
注 意

＊ フロント PTO の作業前に必ずエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけ，キーを抜き，PTO レバーを“切”にしてください。

◆ 調整

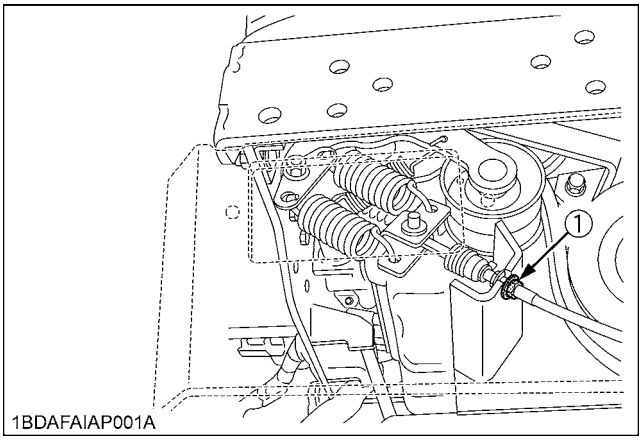
PTO に負荷がかかったときにフロント PTO ベルトが滑る場合は，下に説明しているようにテンションスプリングの長さを調整してください。

1. エンジンカバーを取外してください。（**“定期点検”**の章の**“エンジンカバー”**を参照してください。）
2. カバー２とカバー３を取外してください。
3. PTO レバーを**“入”**にしてください。
4. テンションスプリングの長さ（L）を測定してください。



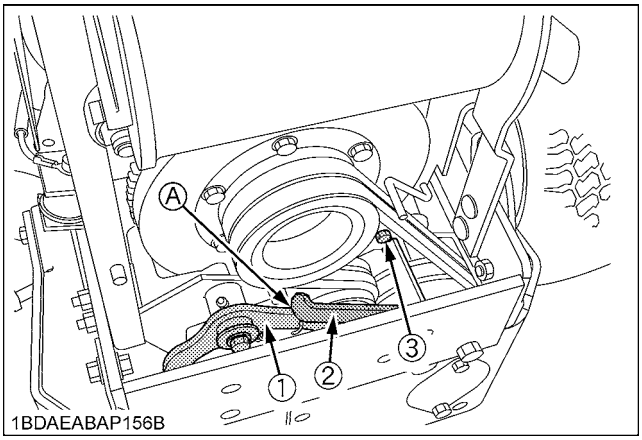
(1) エンジンカバー
(2) カバー１
(3) カバー２
(4) カバー３
(5) テンションスプリング

5. (L) が 88㎜ よりも短い場合にはカバー１を取外し，テンションクラッチケーブル調整ナットで調整してください。
   ● （L）を 88 ～ 91㎜ にしてください。



(1) 調整ナット

6. 調整後，ナットをしっかりと締めてください。
7. ステーがテンションアームに接触していることを確認してください。接触していない場合は，ボルトを緩めてステーがテンションアームに接触するようにします。その後で，もう一度ボルトを締めてください。



(1) テンションアーム　　(A) 接触点
(2) ステー
(3) ボルト

8. カバー類とエンジンカバーを取付けてください。
9. PTO レバーを“切”にしてください。

重　要

＊ フロント PTO ベルトを交換するときは，必ず２本とも交換してください。これらのベルトは２本で１組になっています。

100 時間ごとの点検

■燃料ホースと燃料フィルタの点検

注　意

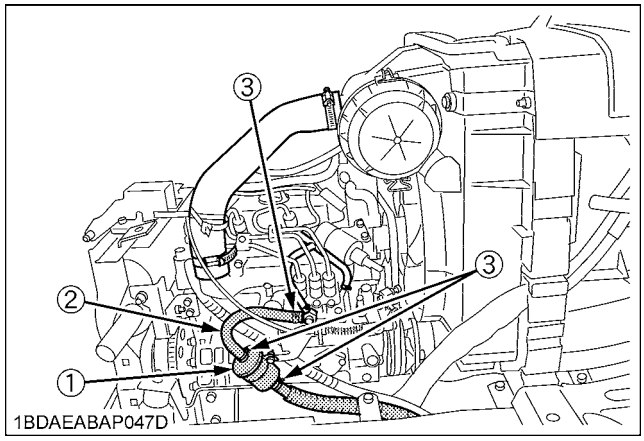
＊ 燃料ホースと燃料フィルタを点検する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。
＊ 燃料経路の点検を定期的に行なってください。燃料ホースは摩耗，劣化します。エンジンを作動させているときに燃料がもれ，火災の原因となるおそれがあります。

燃料ホースの接続部は，１年ごとまたは使用時間100時間ごとのいずれか早い方で点検する必要があります。

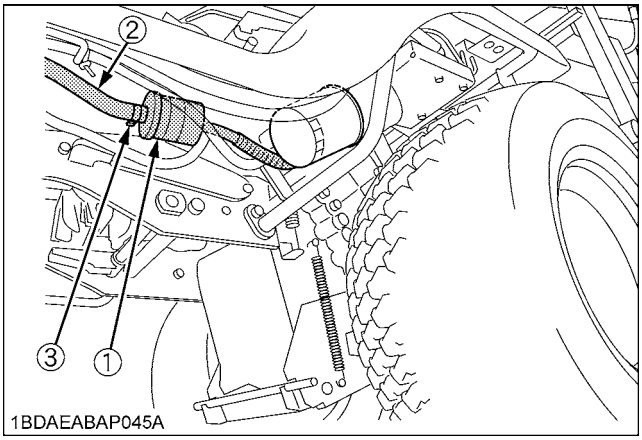
1. 燃料ホースはゴム製品で，使用時間に関係なく劣化します。
2. 燃料ホースや締付けバンドが損傷したり劣化したりしている場合には取替えてください。
3. 燃料フィルタを点検してください。ゴミが詰まっている場合や水が混入している場合は交換してください。

重　要

＊ 整備や修理のために燃料ホースを外す場合には，ほこりや土が入らないように燃料ホースの両端を適切なサイズの栓でふさいでください。燃料系統にほこりや土が入らないように特に注意してください。ほこりや土が入ると燃料ポンプが故障します。



(1) 燃料フィルタ
(2) 燃料ホース
(3) 締付けバンド



(1) 燃料ポンプとフィルタ
(2) 燃料ホース
(3) 締付けバンド

■ファンベルトテンションの調整

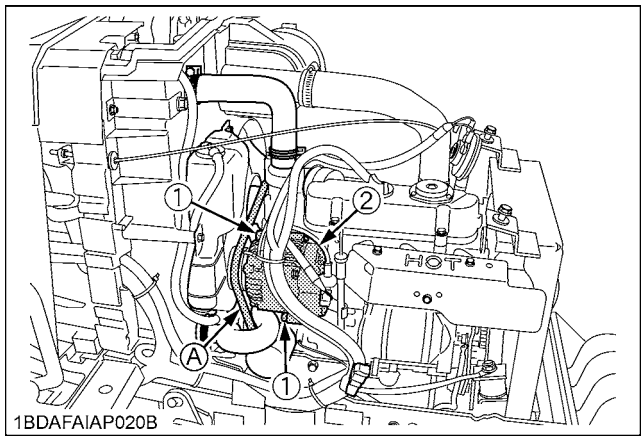
注 意

＊ ベルトテンションを点検する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。

◆ 調整

適切なファンベルトテンション	ベルトの中央部を押したときに７～９ ㎜ のたわみ。

1. エンジンを停止しキーを抜いてください。
2. プーリの間のベルトに親指で適度に圧力を掛けます。
3. テンションが正しくない場合，オルタネータの取付ボルトを緩め，オルタネータとエンジンブロックの間にあるレバーを使用して，ベルトのたわみが許容範囲内になるまでオルタネータを引出してください。
4. ファンベルトが損傷した場合は，交換してください。



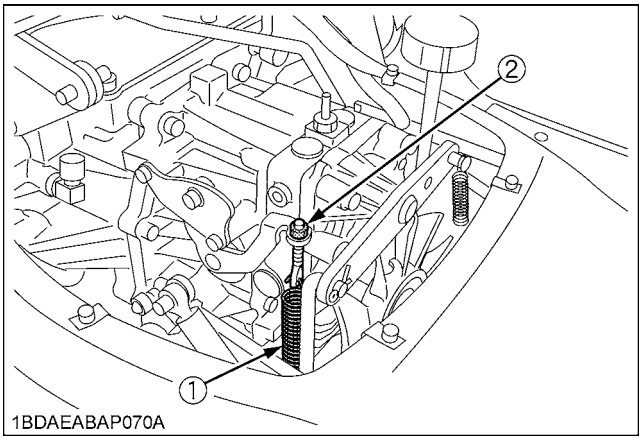
(1) ボルト
(2) オルタネータ
(A) ベルトテンションの点検位置

■ HST ニュートラルスプリングの調整（速度調整ペダル用）

警 告

＊ 水平な地面で速度調整ペダルに足を乗せなくても機械が動く場合は，運転しないでください。
＊ 水平な地面で速度調整ペダルに足を乗せなくても機械が動く場合，またはペダルから足を離したときにペダルが“中立”の位置に戻るのに時間がかかる場合は，購入先にお問い合わせください。

ステップのカバーの下にあるHSTニュートラルスプリングにより速度調整ペダルが戻る速度を調整できます。購入先に依頼してください。



(1) HST ニュートラルスプリング
(2) 調整ナット

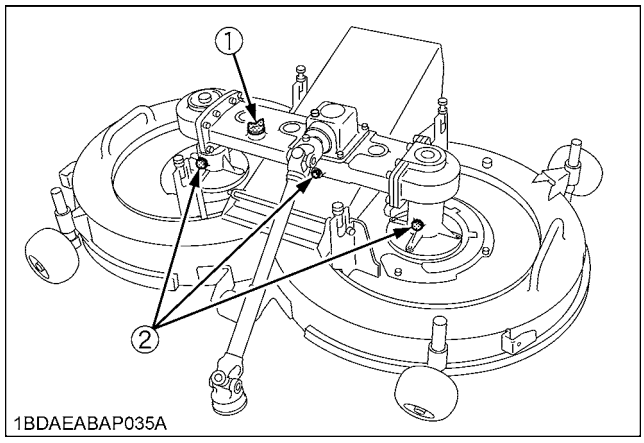
150 時間ごとの点検

■モーアギヤボックスオイルの交換

注 意

＊ オイルを交換する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。

1. 使用済みオイルを抜くには，オイルゲージを抜き，ギヤボックスのドレーンプラグを外し，モーアデッキを傾けてオイルパンにオイルを完全に抜いてください。
2. ドレーンプラグを取付けてください。
3. 新しいオイルを給油してください。
   (**“メンテナンス”**の章の**“給油（水）一覧表”**を参照してください。)
4. 給油後，オイルゲージを取付けてください。



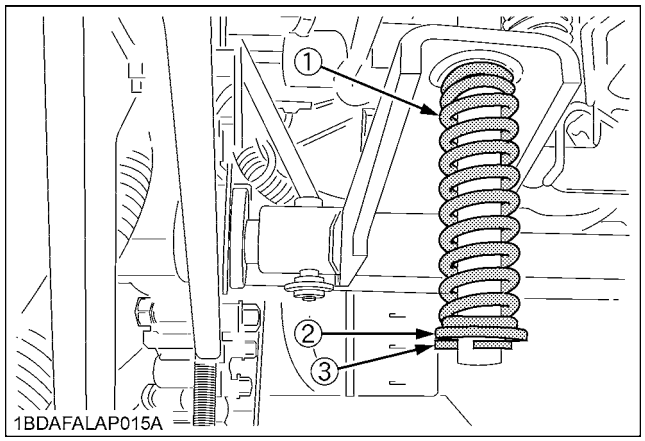
(1) オイルゲージ
(2) ドレーンプラグ

200 時間ごとの点検

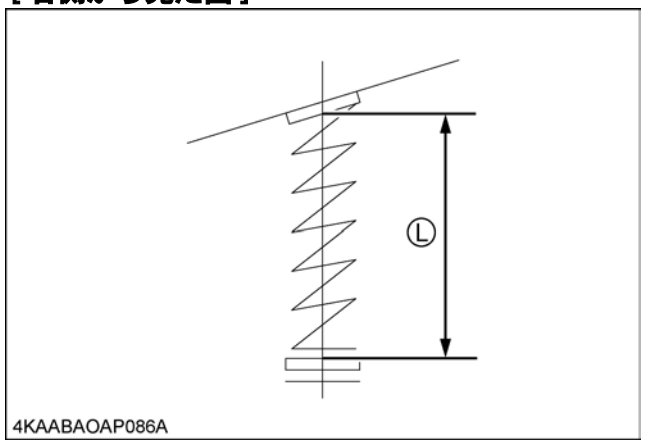
■駐車ブレーキレバーの点検

◆ 点検手順

1. 平たんな場所に機械を駐車し，エンジンを停止して，キーを抜いてください。
2. 駐車ブレーキを掛け，スプリングの長さを調べてください。
3. スプリングの長さが 41mm から 42mm の範囲にない場合，購入先にお問い合わせください。



［右側から見た図］



(1) スプリング
(2) ワッシャ
(3) 割ピン
(L) スプリングの長さ

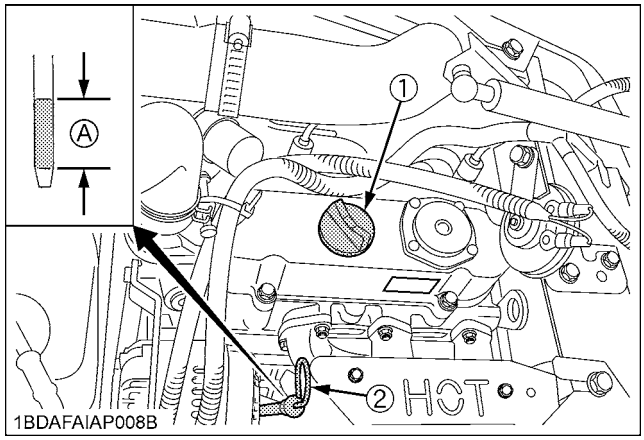
■エンジンオイルの交換

注 意

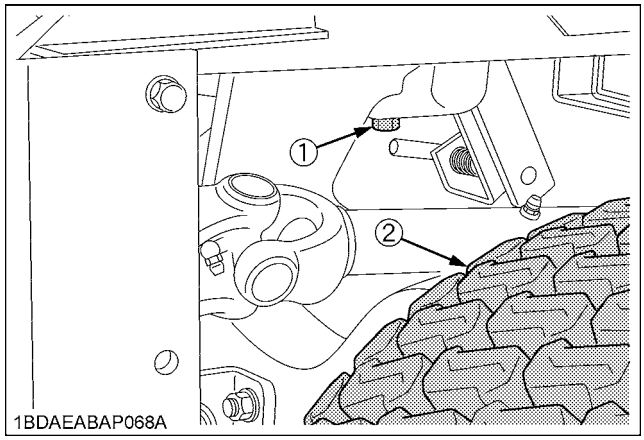
＊ オイルを交換する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。
＊ 十分エンジンを冷やしてください。オイルが熱く，ヤケドするおそれがあります。

1. 使用済みオイルを抜くには，エンジン下部のドレーンプラグを外し，オイルパンにオイルを完全に抜いてください。
   エンジンが少し暖かいうちに行なうと完全に排出できます。
2. 排出後，ドレーンプラグを取付けてください。
3. オイルゲージ上面まで新しいエンジンオイルを補充してください。
   (**“メンテナンス”**の章の**“給油（水）一覧表”**を参照してください。)
4. 使用済みオイルは適切に廃棄してください。

フィルタ装着時のオイル容量	G23	3.1 L



(1) 給油口
(2) オイルゲージ
(A) オイルの量の許容範囲



(1) ドレーンプラグ
(2) 前輪（左）

■エンジンオイルフィルタの交換

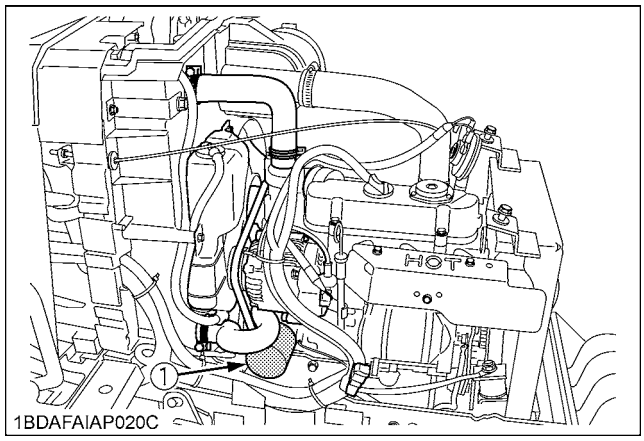
注 意

＊ オイルとオイルフィルタを交換する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。
＊ 十分エンジンを冷やしてください。オイルが熱く，ヤケドするおそれがあります。

1. オイルフィルタを取外してください。
2. 新しいフィルタのゴムのパッキンにきれいなエンジンオイルを薄く塗布してください。
3. フィルタが装着面に接触するまですばやく締めます。
   手でさらに 1/2 回転だけフィルタを締めてください。
4. 新しいフィルタを取付けた後，通常エンジンオイルが少し減ります。シール面から油漏れがないのを確認し，オイルゲージでオイルの量を必ず確認してください。次に，規定位置までエンジンオイルを補給してください。
5. 使用済みオイルは適切に廃棄してください。

重 要

＊ エンジンの故障を防ぐため，クボタ純正フィルタ以外は使用しないでください。



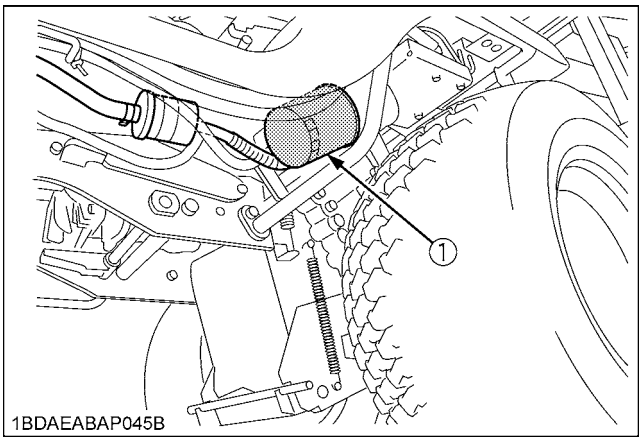
(1) エンジンオイルフィルタ

■トランスミッションオイルフィルタの交換

注　意

＊ 十分エンジンを冷やしてください。オイルが熱く，ヤケドするおそれがあります。

1. オイルフィルタを取外してください。
2. 新しいフィルタのゴムのパッキンにきれいなトランスミッションオイルを薄く塗布してください。
3. フィルタが装着面に接触するまですばやく締めます。
   手でさらに 1/2 回転だけフィルタを締めてください。
4. 新しいフィルタを取付けた後，トランスミッションオイルの量が少し減ります。シール面から油漏れがないのを確認し，オイルの量を必ず確認してください。
   必要に応じて，オイルを継ぎ足して満たしてください。
5. 使用済みオイルは適切に廃棄してください。



(1) トランスミッションオイルフィルタ

重　要

＊ 油圧システムの故障を防ぐため，クボタ純正フィルタ以外は使用しないでください。

■ラジエータホースと締付けバンドの点検

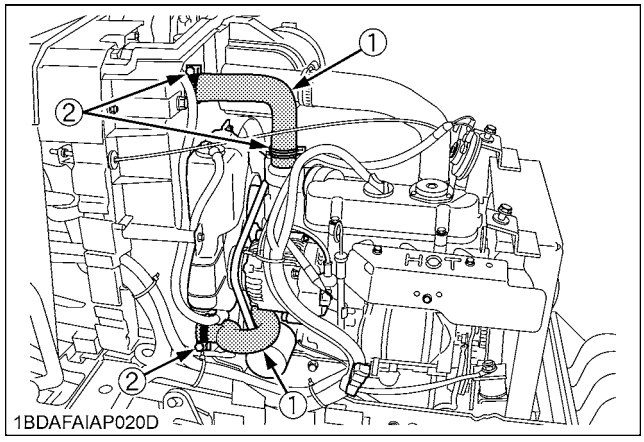
注　意

＊ ラジエータホースと締付けバンドを点検する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。

200時間使用ごとまたは６ヶ月ごとのいずれか早い方で，ラジエータホースがしっかりと固定されていることを点検してください。

1. 締付けバンドがゆるんでいたり，冷却水が漏れている場合はバンドをきっちりと締めてください。
2. ラジエータホースが膨れたり，堅くなったり，ひび割れしている場合にはホースを取替え，締付けバンドをきっちりと締めてください。
3. 使用済み冷却水は適切に廃棄してください。

２年ごとまたはそれ以前に点検してホースが膨れたり，堅くなったり，ひび割れしていることを発見した場合にはホースと締付けバンドを交換してください。



(1) ラジエータホース（２個）
(2) 締付けバンド（３個）

◆ オーバーヒート対策

冷却水の温度が沸点近くまたはそれ以上になる“オーバーヒート”が発生した場合には次の処置をしてください。

1. 安全な場所で機械の運転を停止し，負荷をかけずにエンジンをアイドリング状態にしてください。
2. エンジンをすぐには止めないでください。無負荷のアイドリングで５分くらいした後にエンジンを停止してください。
3. エンジンを止め，さらに 10 分くらいまたは湯気が消えるまで機械から十分に離れてください。

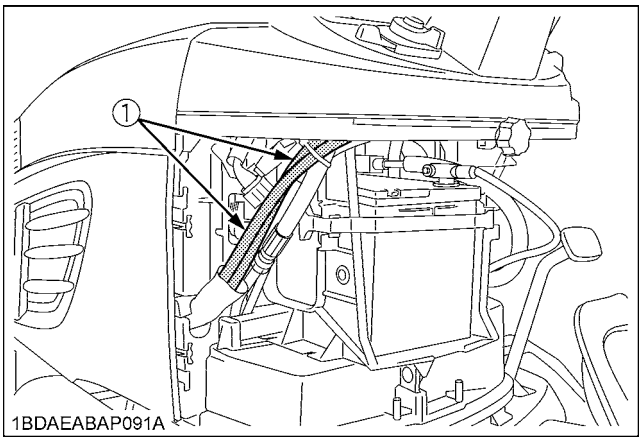
4. ヤケドのおそれがないことを確認し，**“不調と処置”**の章を参照して，取扱説明書に従ってオーバーヒートの原因を取除いてください。

■油圧ホースの点検

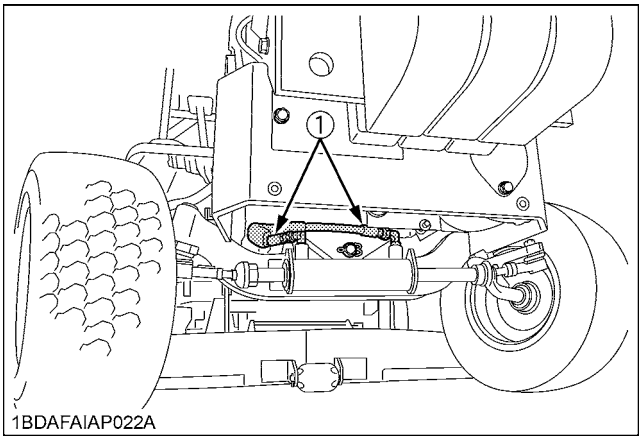
注 意

＊ パワーステアリングホースを点検する前に必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。

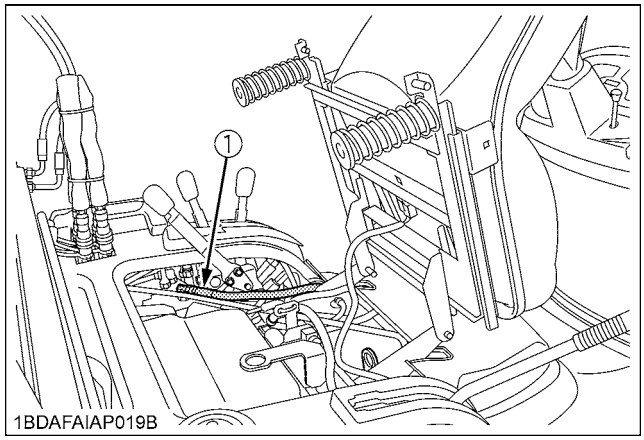
1. 点検して，すべてのラインが締まっていて，損傷していないことを確認してください。
2. 摩耗または損傷しているホースが見つかったら，すぐに交換または修理してください。



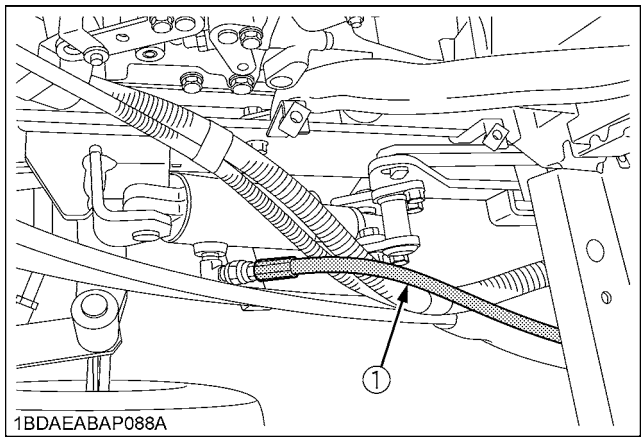
(1) パワーステアリングホース



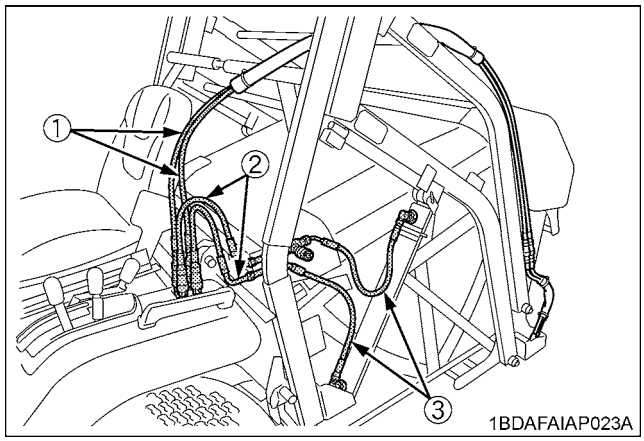
(1) パワーステアリングホース



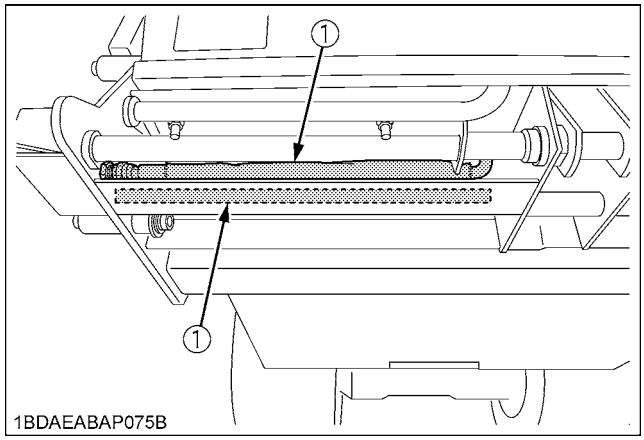
(1) コントロールバルブホース



(1) モーア昇降シリンダホース



(1) 集草機ダンプシリンダホース
(2) 集草機昇降シリンダホース
(3) 集草機昇降シリンダホース（左）



(1) 集草機ダンプシリンダホース

■ブレーキペダルの点検

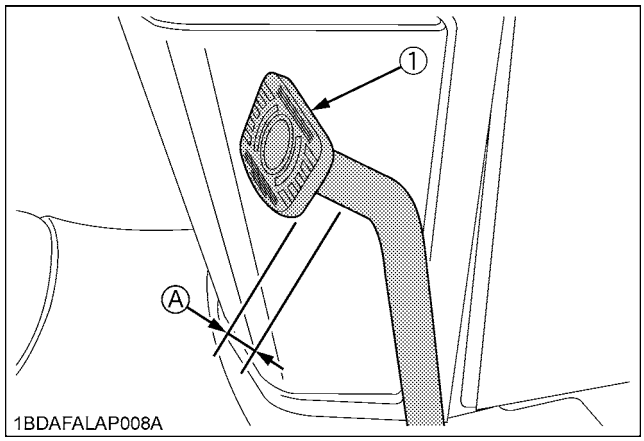
注 意

＊ ブレーキペダルの点検前に，エンジンを停止し，タイヤに車止めをしてください。
＊ 動きが規定とは異なる場合，ブレーキの調整については，購入先にお問い合わせください。

◆ ブレーキペダルの遊びを確認するには

ブレーキペダルの遊びの規定値	ペダルの上で約 30㎜

1. 駐車ブレーキを解除してください。
2. 軽くブレーキペダルを踏み，ブレーキペダルの遊びを測定してください。
3. ブレーキペダルの遊びが規定とは異なる場合，ブレーキの調整については，購入先にお問い合わせください。



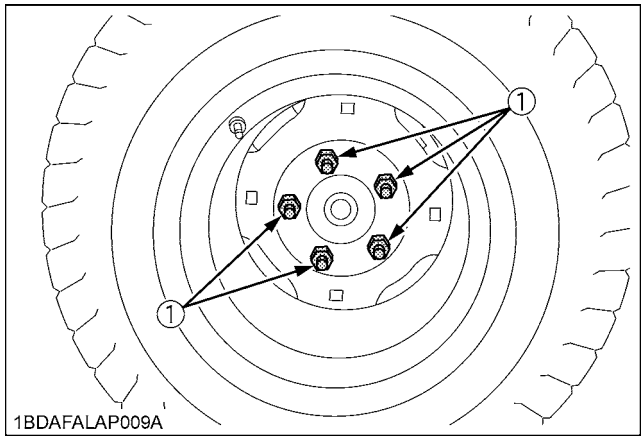
(1) ブレーキペダル　　(A) “遊び”

■ブレーキホースとブレーキパイプの点検

注 意

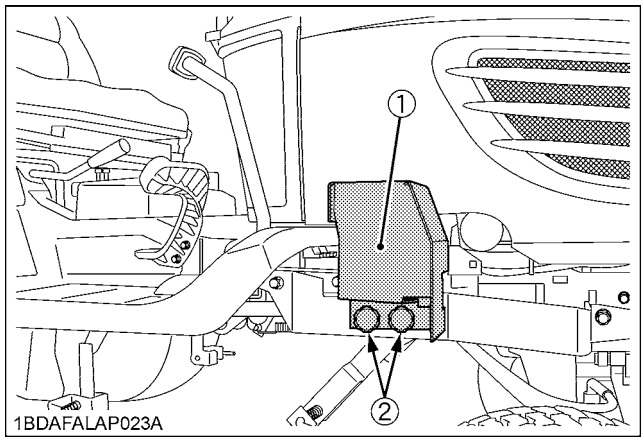
＊ 信頼できない装置や支持台を使用すると，機械が落下したり，滑ったりすることがあります。
＊ 荷重に適合した，信頼できるリフティング装置を使用してください。
＊ 整備する前に，ジャックスタンドへ機械を下ろし，車輪を止めてください。（“定期点検”の章の“ジャッキポイント”を参照してください。）

1. 平たんな場所に機械を駐車してください。
2. 信頼できる装置で機械を持ち上げ，ジャックスタンドまたは，他の適切な支持台へ機械を下ろしてください。機械が動かないように接地している車輪を止めてください。
3. ホイールナットとタイヤを取外してください。



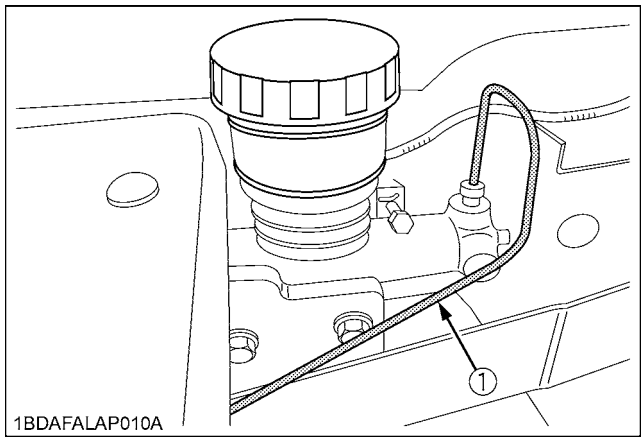
(1) ホイールナット

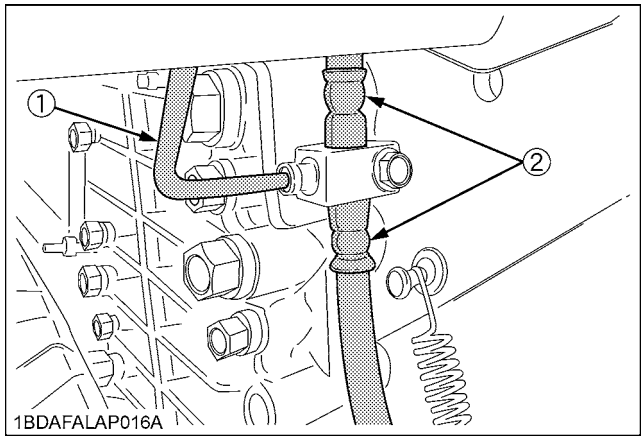
4. ２本のノブボルトを緩め，マスターシリンダカバーを取外してください。



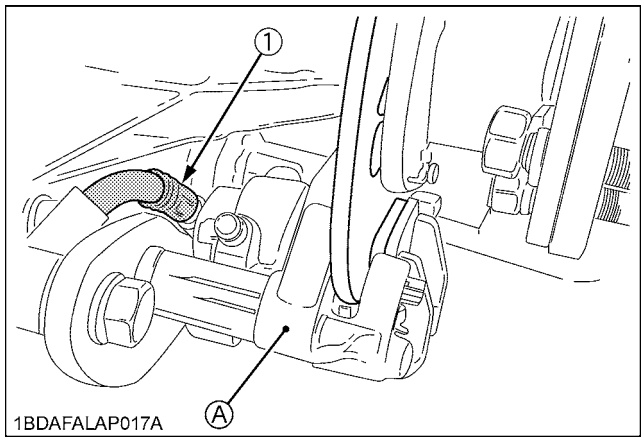
(1) マスターシリンダカバー
(2) ノブボルト

5. ブレーキホースとブレーキパイプが膨れていないか，硬化していないか，ひび割れていないかを確認してください。
6. ブレーキホースとブレーキパイプのジョイント部のオイル漏れがないことを確認してください。
7. 異常があれば，購入先にお問い合わせください。
8. ２本のノブボルトで，マスターシリンダカバーをプレートへ取付けてください。
9. バルブステムを外側へ向けて，タイヤを取付けてください。
10. しっかりと均等に締まるまで，交互にホイールナットを締付けてください。
11. 残りのタイヤも同じ手順を繰り返してください。
12. 機械を完全に地面に下ろしてください。ホイールナットは 108.4N-m から 121.9N-m の締付けトルクで締付けてください。





(1) ブレーキパイプ
(2) ブレーキホース（リア）



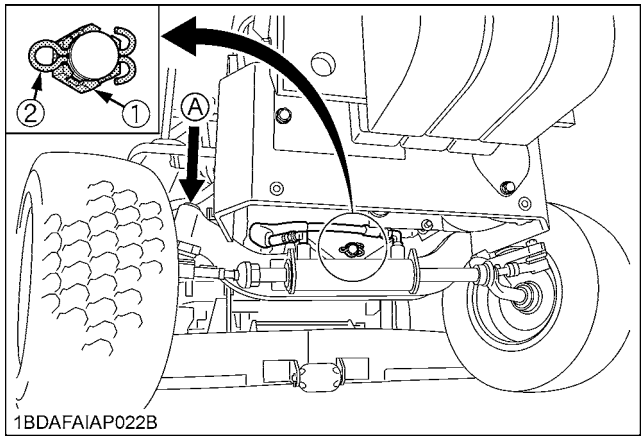
(1) ブレーキホース（リア） (A) ディスクブレーキアッシ

■前車軸支点の調整

前車軸支点ピンの調整が正しくない場合，前輪の振動が発生し，ハンドルが振動する原因となるおそれがあります。

◆ 調整手順

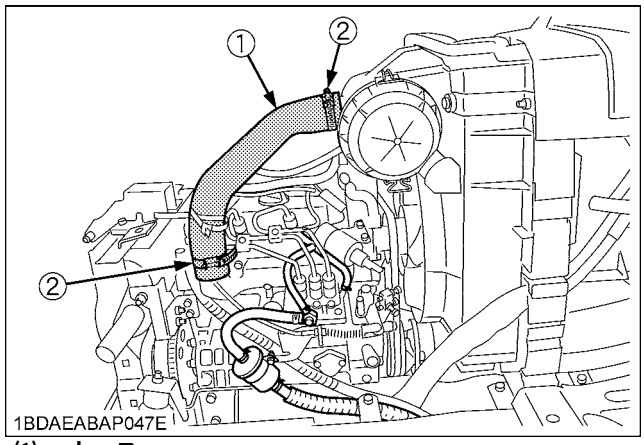
割ピンを取外し，調整ナットを締め（揺動力 20 ～ 300 N，2.0 ～ 30.6 kgf），いずれかのナットスロットが割ピン穴に合っていることを確認して，合わせる必要がある場合は，ナットを時計回りにわずかに締めてください。割ピンを交換してください。



(1) 調整ナット
(2) 割ピン
(A) 揺動力

■吸気ホースの点検

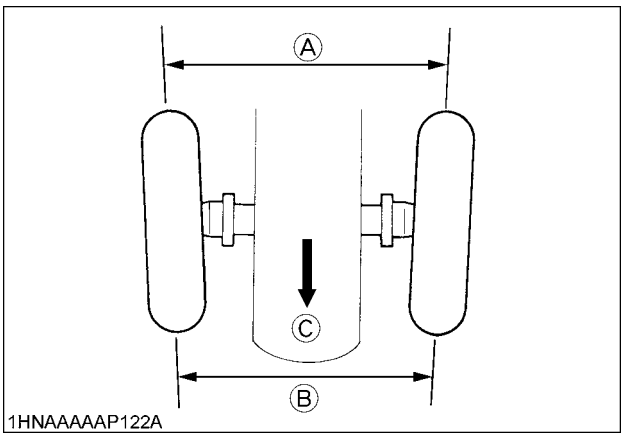
1. 点検して，ホースと締付けバンドが締まっていて，損傷していないことを確認してください。
2. 摩耗または損傷しているホースや締付けバンドが見つかったら，すぐに交換または修理してください。



(1) ホース
(2) 締付けバンド

■トーインの調整

1. 機械は堅くて水平な場所に駐車してください。
2. 前輪がまっすぐ前の位置になるようにハンドルを回してください。
3. 作業機を地面に降ろして，駐車ブレーキをかけ，エンジンを止め，キーを抜いてください。
4. タイヤの前面，ハブの高さでタイヤビード（タイヤ中心線）の間の距離を測定してください。
5. タイヤの後面，ハブの高さでタイヤビード（タイヤ中心線）の間の距離を測定してください。
6. 前面の距離は，後面の距離より０～５ ㎜ 短い必要があります。正しい距離になっていない場合は，タイロッドの長さを調整します。



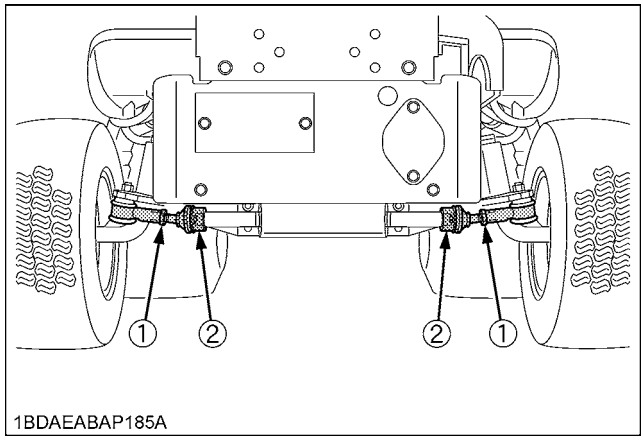
(A) 後面での車輪間の距離
(B) 前面での車輪間の距離
(C) 前

◆ 調整手順

1. ロックナットを緩め，タイロッドを回して，適切なトーイン測定値が得られるまでロッドの長さを調節してください。
2. 再びロックナットをしっかりと締めてください。

補　足

＊ 締付けトルク：74.0 ～ 84.0 N-m（7.6 ～ 8.5 kgf-m）



(1) ロックナット
(2) タイロッド

400 時間ごとの点検

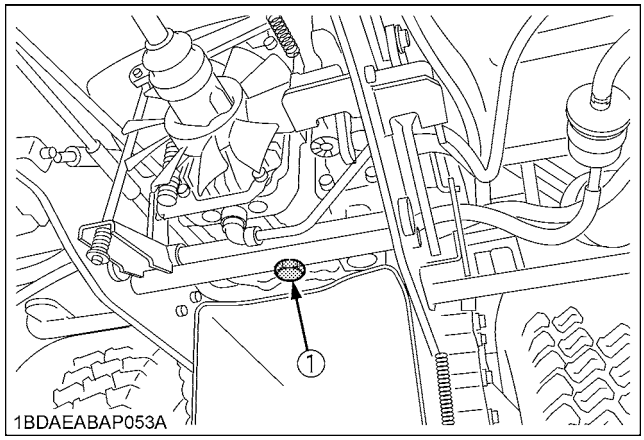
■トランスミッションオイルの交換

注　意

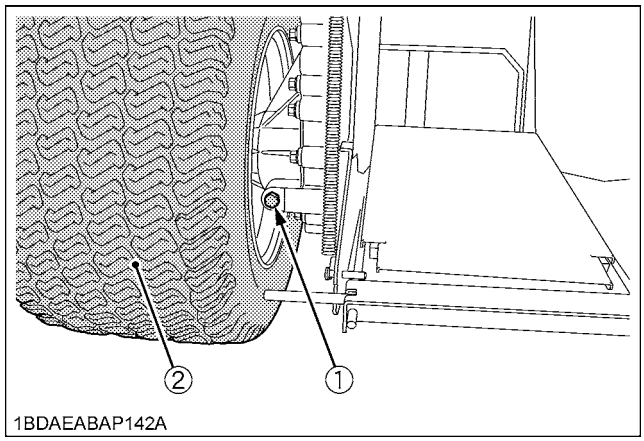
＊ 十分エンジンを冷やしてください。オイルが熱く，ヤケドするおそれがあります。

1. 使用済みオイルを抜くには，トランスミッションケース下部と後車軸ケース両側のドレーンプラグを外し，オイルパンにオイルを完全に抜いてください。
2. 排出後，ドレーンプラグを取付けてください。トランスミッションストレーナを清掃してください。オイルゲージ上面まで新しいクボタスーパー UDT オイルを補充してください。（**“メンテナンス”**の章の**“給油（水）一覧表”**および**“定期点検”**の章の**“日常点検”**を参照してください。）数分間エンジンを作動させた後，エンジンを止めてもう一度オイルの量を点検し，オイルを規定油面まで入れてください。使用済みオイルは適切に廃棄してください。

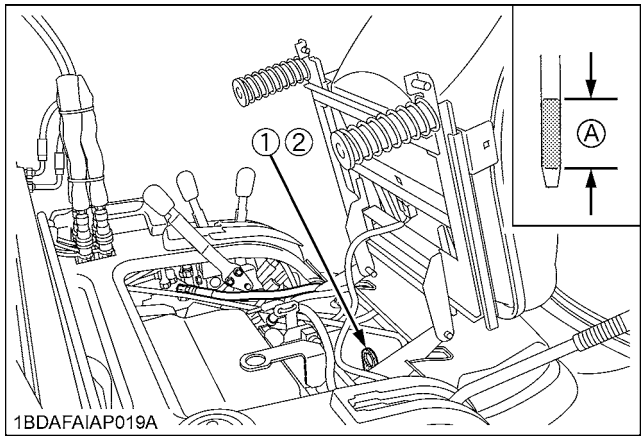
オイル容量	11 L



(1) ドレーンプラグ



(1) ドレーンプラグ
(2) 後輪（左）



(1) 給油口
(2) オイルゲージ
(A) オイルの量の許容範囲

補　足

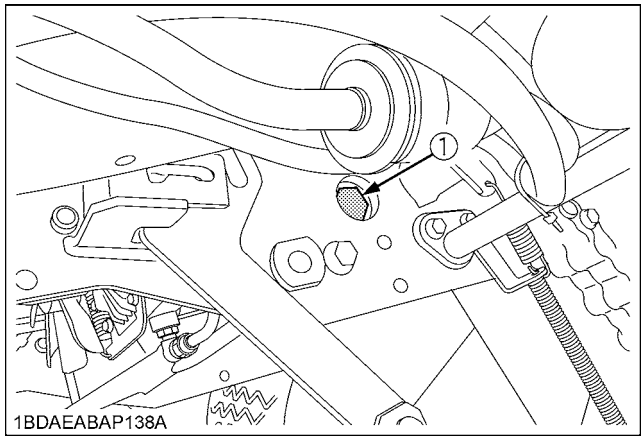
＊ オイルの量が少ない場合は，エンジンを作動させないでください。

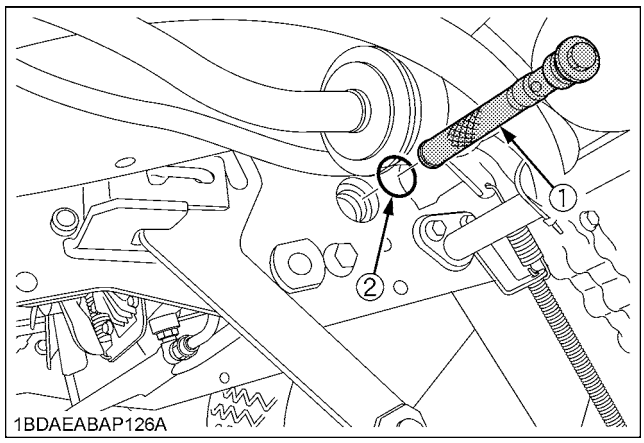
重　要

＊ トランスミッションオイル交換後，すぐに機械を操作しないでください。
トランスミッションに損傷を与えないためにエンジンを数分間中速に保ってください。

■トランスミッションストレーナの清掃

トランスミッションオイルを交換するとき，ストレーナを分解して非可燃性溶剤ですすぎ，たまっているものを完全に清掃してください。組立てるときは部品を損傷しないように注意してください。





(1) ストレーナ
(2) O リング

補　足

＊ オイル中の微細な異物は油圧システムの精密部品を損傷する可能性があるため，吸込パイプの端にはオイルストレーナが備えられています。

■燃料フィルタの交換

燃料フィルタは 400 時間ごとに交換してください。交換は購入先にご依頼ください。

1500 時間ごとの点検

■燃料噴射ノズル（噴射圧）の点検

このサービスについては，購入先にお問い合わせください。

3000 時間ごとの点検

■噴射ポンプの点検

このサービスについては，購入先にお問い合わせください。

1 年ごとの点検

■エアクリーナエレメントの交換

エレメントは 1 年に 1 回交換してください。

2 年ごとの点検

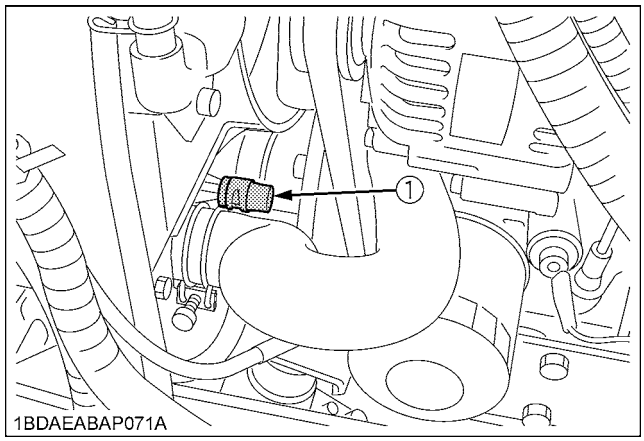
■ラジエータの洗浄および冷却水の交換

注 意

＊ 冷却水が高温なときは，ラジエータキャップを開けないでください。冷えたときに，キャップが最初に止まるまでゆっくり回し，キャップを完全に取外す前に超過圧力を開放してください。

1. エンジンを停止し，冷やしてください。
2. ラジエータホースとラジエータキャップを外して冷却水を抜いてください。ラジエータキャップは完全に冷却水をラジエータから抜き取るために外します。
3. 冷却水をすべて抜いた後，ホースをしっかりと取付けてください。
4. 清水とラジエータ洗浄剤を満たしてください。
5. 洗浄剤の指示に従ってください。
6. 洗浄後，冷却水の液面がポートのすぐ下になるまで，清水と不凍液を満たしてください。
7. リザーブタンクの上限まで清水と不凍液を満たしてください。
8. ラジエータキャップをしっかりと取付けてください。
9. エンジンを始動させ，数分作動させてください。
10. エンジンを停止させてください。冷却水の量を点検し，必要ならば冷却水を加えてください。

冷却水容量 (リザーブタンク含)	G23	3.1 L



(1) ドレーンプラグ

重 要

＊ 冷却水のない状態でエンジンを始動しないでください。
＊ きれいな淡水と不凍液でラジエータを満たしてください。
＊ 不凍液を水と混ぜる場合，不凍液の混合率は 50% 以下にする必要があります。
＊ ラジエータキャップをしっかりと締めてください。キャップが緩い場合，または取付けが不適切な場合，冷却水が漏れてエンジンがオーバーヒートするおそれがあります。

■不凍液

注 意

＊ 不凍液を使用している場合，ゴム手袋などの保護具を着用してください（不凍液は有毒です）。
＊ 不凍液を飲込んだ場合，すぐに吐かせて医師の診療を受けてください。
＊ 不凍液が皮膚または衣服に触れた場合，直ちに洗い落としてください。
＊ 異なる種類の不凍液を混ぜないでください。混ぜると化学反応を起こし，有害な物質が生成される可能性があります。
＊ 不凍液はきわめて可燃性が高く，特定の条件では爆発します。不凍液は火に近付けず，子供の手の届かないところに保管してください。
＊ エンジンから不凍液を抜くときは，エンジン本体の下側に容器を置いてください。
＊ 廃液を地面，配水管，または水源に流さないでください。
＊ 不凍液を廃棄するときは，関連する環境保護規制を順守してください。

凍結すると，冷却水はシリンダやラジエータを損傷するおそれがあります。周囲温度が０℃以下になる場合，または長期間格納する前に，冷却水を完全に抜いてください。または，淡水とロングライフクーラントを混ぜた混合液でラジエータやリザーブタンクを満たしてください。

1. ロングライフクーラント（以後，LLC）にはいくつかの種類があります。このエンジンにはエチレングリコール（EG）の種類を使用してください。
2. LLC 混合冷却水を使用する前に，ラジエータを淡水で満たしてもう一度空にしてください。この手順を２，３回繰り返して内側をきれいにしてください。
3. LLC の混合
   LLC を目標の温度に合わせた割合（%）で冷却水に入れます。混ぜるときはよくかきまぜてから，ラジエータを満たしてください。
4. 水と不凍液を混ぜる手順は，不凍液のタイプや周囲温度により異なります。SAE J1034 規格を，さらに詳しくは SAE J814c を参照してください。

重　要

＊ 不凍液を水と混ぜる場合，不凍液の混合率は 50% 以下にする必要があります。

容量％ 不凍液	氷点	沸点＊
	℃	℃
40 50	-24 -37	106 108

＊1.013 × 10^5 Pa（760 mmHg）圧力（大気）時。ラジエータキャップを使用すると，冷却システム内の圧力が上がり，沸点が上昇します。

5. LLC の添加
   (1) 蒸発によって混合液の量が減ったときには水のみを補充してください。
   (2) 漏れによって混合液が減少したときには，同じ製造元と種類の同じ割合で混合した LLC を足してください。
   ＊ 決して製造元の異なる LLC を足さないでください。(異なる銘柄では添加剤の成分が異なり，エンジンが指定どおりの性能を発揮できない可能性があります。)
6. LLC を混ぜたときは，ラジエータ洗浄剤を使用しないでください。LLC には防錆剤が含まれています。ラジエータ洗浄剤と混合すると，スラッジが堆積してエンジン部品に悪影響が出るおそれがあります。
7. クボタの純正 LLC の寿命は２年です。必ず２年ごとに冷却水を交換してください。

補　足

＊ 上記のデータは，高濃度の不凍液中に最小限のグリコール容量を必要とする工業規格を表しています。
＊ 冷却水の量が蒸発によって減ったときには，不凍液の混合率を 50% 以下に保つため，水のみを補充してください。漏れによって減少したときには，指定された混合率どおりに不凍液を水に加えてからラジエータに足してください。

■油圧ホースの交換

２年ごとまたはそれ以前に点検してホースが膨れたり，堅くなったり，ひび割れしていることを発見した場合にはホースと締付けバンドを交換してください。

このサービスについては，購入先にお問い合わせください。

■ブレーキ液の交換

このサービスについては，購入先にお問い合わせください。
（**“定期点検”**の章の**“日常点検”**の**“ブレーキ液の量の点検”**を参照してください。）

■燃料ホースの交換

交換は購入先にご依頼ください。

■ブレーキマスターシリンダの交換

このサービスについては，購入先にお問い合わせください。

■ラジエータホースの交換

２年ごとまたはそれ以前に点検してホースや締付けバンドが膨れたり，堅くなったり，ひび割れしていることを発見した場合にはホースと締付けバンドを交換してください。

■モーアギヤボックスオイルシールの交換

交換は購入先にご依頼ください。

■吸気ホースの交換

（**“200 時間ごとの点検”**の項の**“吸気ホースの点検”**を参照してください。）

■エンジンブリーザーホースの交換
このサービスについては，購入先にお問い合わせください。

4年ごとの点検

■ブレーキホースの交換
このサービスについては，購入先にお問い合わせください。

必要に応じた点検・整備

■ブレーキパッドの点検と清掃

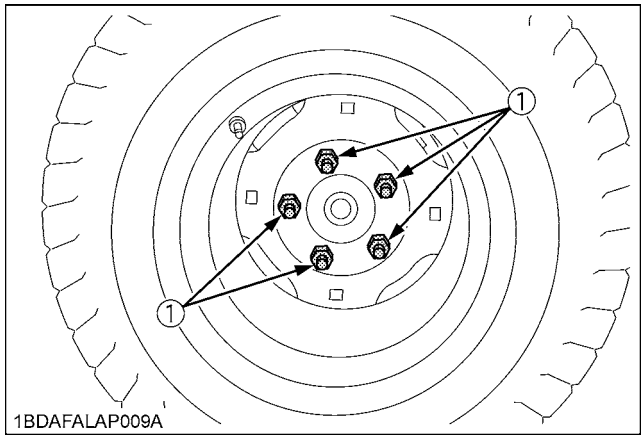
注　意

＊ 信頼できない装置や支持台を使用すると，機械が落下したり，滑ったりすることがあります。
＊ 荷重に適合した，信頼できるリフティング装置を使用してください。
＊ 整備する前に，ジャックスタンドへ機械を下ろし，車輪を止めてください。（“定期点検”の章の“ジャッキポイント”を参照してください。）
＊ シムの端で指を傷付けないように注意してください。

補　足

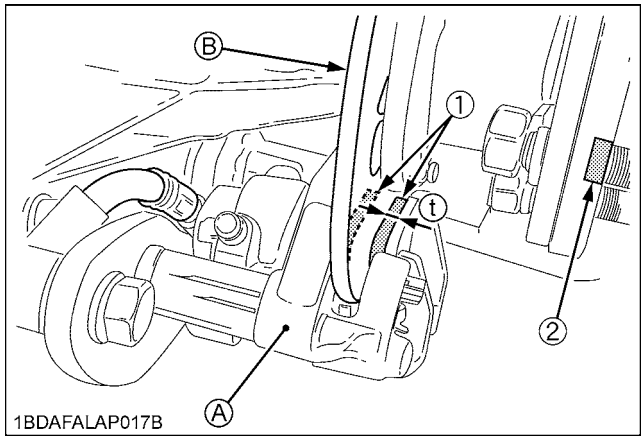
＊ ディスクブレーキアッシに，砂や草が付着している場合は，清掃してください。

1. 平たんな場所に機械を駐車してください。
2. 信頼できる装置で機械を持ち上げ，ジャックスタンドまたは，他の適切な支持台へ機械を下ろしてください。機械が動かないように接地している車輪を止めてください。
3. ホイールナットとタイヤを取外してください。



(1) ホイールナット

4. ブレーキパッドの摩耗や損傷を点検してください。パッドの厚さを点検してください。パッドの厚さ（t）が 1㎜ 以下の場合や，パッドが損傷している場合は，購入先にお問い合わせください。



(1) ブレーキパッド
(2) シム
(A) ディスクブレーキアッシ
(B) ブレーキディスク
(t) 厚さ

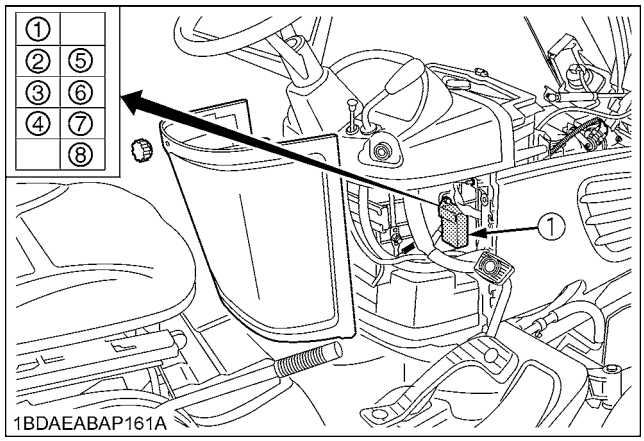
5. バルブステムを外側へ向けて，タイヤを取付けてください。
6. しっかりと均等に締まるまで，交互にホイールナットを締付けてください。
7. 残りのタイヤも同じ手順を繰り返してください。
8. 機械を完全に地面に下ろしてください。
9. ホイールナットは 108.4N-m から 121.9N-m の締付けトルクで締付けてください。

■ヒューズの交換

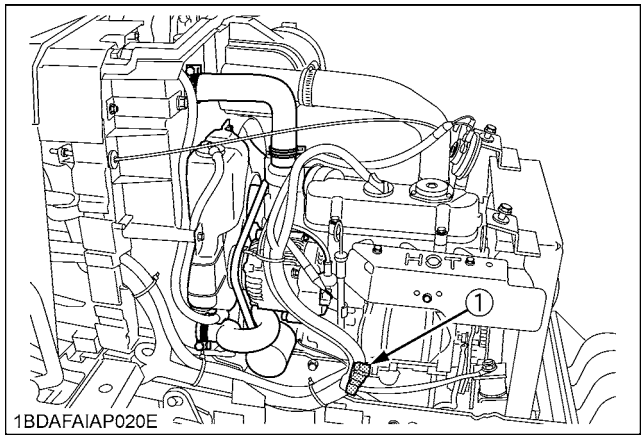
機械の電気系統は，ヒューズにより損傷の可能性から保護されています。ヒューズが切れた場合，電気系統のどこかに過負荷または短絡があることを示しています。ヒューズが切れた場合，同じ容量の新しいヒューズと交換してください。

重　要

＊ ヒューズを交換する前に，ヒューズが切れた理由を特定し，必要な修理を行ってください。この手順に従わないと，機械の電気系統に重大な損傷が発生する原因になるおそれがあります。この取扱説明書の**“不調と処置”**の章を参照するか，または購入先に電気的な問題に関する具体的な情報をお知らせください。



(1) ヒューズボックス



(1) スローブローヒューズ

◆ 保護されている回路

ヒューズ番号	容量 (A)	保護されている回路
(1)	10	パーキング
(2)	15	ソレノイド
(3)	15	ハザードライト
(4)	10	ACC
(5)	15	ホーン
(6)	15	ビーコン
(7)	15	ヘッドライト
(8)	10	ブレーキライト

容量 (A)	保護されている回路
スローブローヒューズ (50A)	バッテリ接続不良に対する点検回路

■ランプの交換

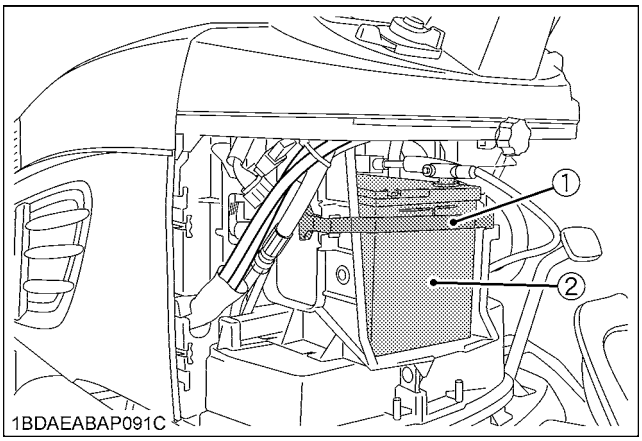
ヘッドライト：
ソケットからランプを外して新しいランプと交換してください。

ライト	容量
ヘッドライト	40W / 50W

■バッテリの交換

この製品には外国製バッテリがついております。新品の日本製バッテリと交換する場合には，必ず指定した型式のバッテリ（**75D23L**）を使用し，購入時にバッテリを固定している既存のフックベルトでしっかり固定してください。

No.	品番	品名	個数	備考
1	07908-2976-0	バッテリ	1	75D23L



(1) フックベルト
(2) バッテリ

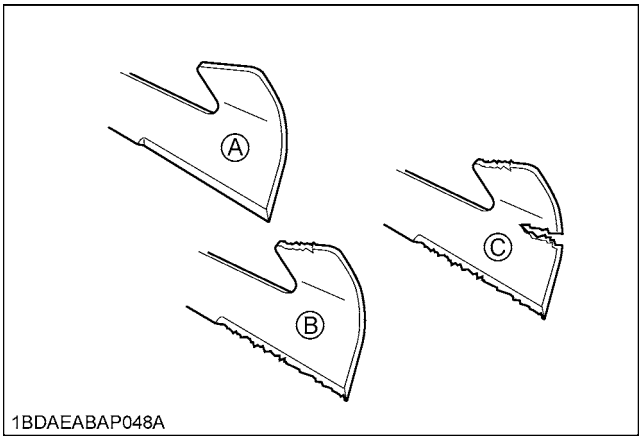
■刈刃の点検と交換

注 意

＊ 必ずエンジンを停止し，キーを抜いてください。
＊ 刈刃は鋭くなっています。刈刃に触るときには厚手の手袋をするか，刈刃の端を布で覆ってください。

◆ 点検

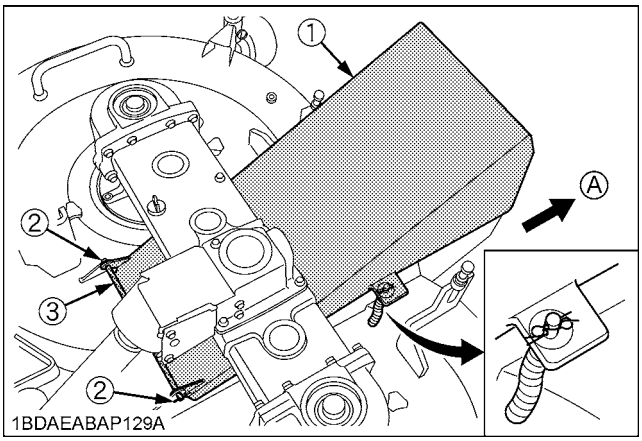
刈刃の刃先は常に鋭くしておく必要があります。刈刃が（B）の様になっている場合には刃を研磨してください。(C) のようになっている場合には刈刃を交換してください。



(A) 新しい刈刃
(B) 摩耗した刈刃
(C) 破損した刈刃

◆ 交換

1. モーアデッキを機械から外してください。
2. ２本のスナップピンとシャフトを取外し，モーアダクトをスライドさせながら取外します。



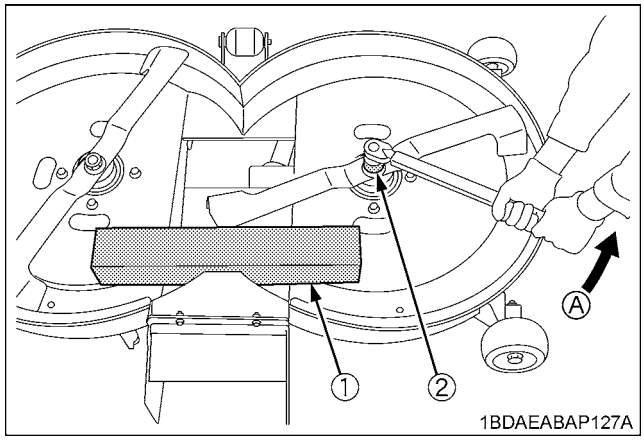
(1) モーアダクト　　(A) スライド
(2) スナップピン
(3) シャフト

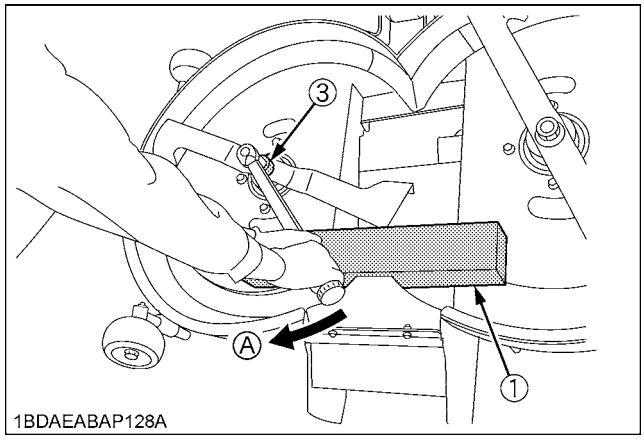
補　足

＊ モーアダクトを取付けるときは，モーアダクトのステーが両方とも２つのワッシャの間にあることを確認してください。

3. 刈刃が見えるようにモーアデッキを仰向けにしてください。
4. 木片を図のように刈刃とモーアデッキの間に入れて固定してください。
5. 刈刃のボルト（2）は右ネジです。ゆるめるときには反時計方向に回してください。
   刈刃のボルト（3）は左ネジです。ゆるめるときには時計方向に回してください。

[RCK48]





(1) 木片　　(A) ゆるめる
(2) 刈刃取付ボルト（右ネジ）
(3) 刈刃取付ボルト（左ネジ）

補　足

＊ 刈刃取付ボルトの着脱は適切なソケットレンチまたはメガネレンチを使用してください。

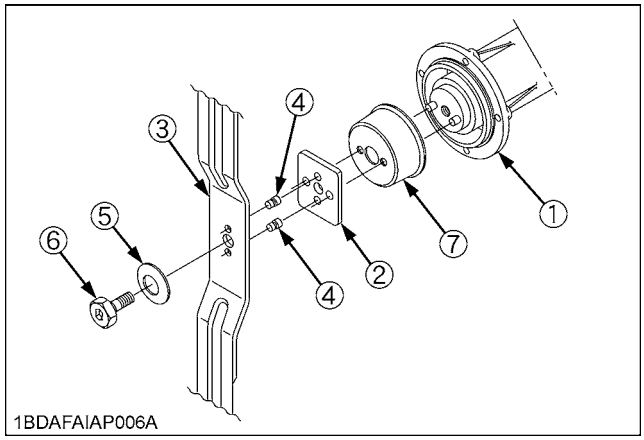
6. 刈刃を研磨するときは刈刃をバイスに確実に固定してください。
   粗い目のやすりを用いて，元の角度に沿って鋭くなるまで研磨してください。
7. 刈刃のバランスを点検するには中央の穴に細い棒を通してください。刈刃のバランスが取れていない場合には刈刃の重い側をバランスが取れるまで削ってください。
8. 刈刃を取付けるには，所定の位置にピンホルダとシャーピンを取付け，刈刃とボルトの間に皿バネを確実に入れてください。

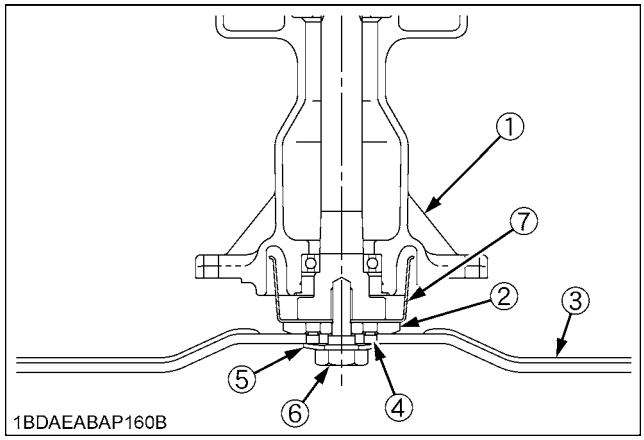
補　足

＊ 皿バネが平らになるか，または摩耗していないことを確認してください。いずれかの場合は，皿バネを交換してください。

9. 刈刃を点検，交換する前にモーアデッキの上と内側の草を拭き取り土を落としてください。

[RCK48]





(1) 主軸ホルダ
(2) ピンホルダ
(3) 刈刃
(4) シャーピン（２本）
(5) 皿バネ
(6) ボルト
(7) 主軸ガード

補　足

＊ ピンホルダと皿バネの向きが図のとおりであることを確認してください。

重　要

＊ 刈刃の２本のボルトは 98 ～ 117.6 N-m（10 ～ 12 kgf-m）のトルクで締めてください。

■新しいシャーピンとの交換

1. シャーピンが折れた場合は，両方のシャーピンと皿バネを新しいものと交換してください。これらの部品は一式がモーアデッキ左側のスペアホルダに収納されています。

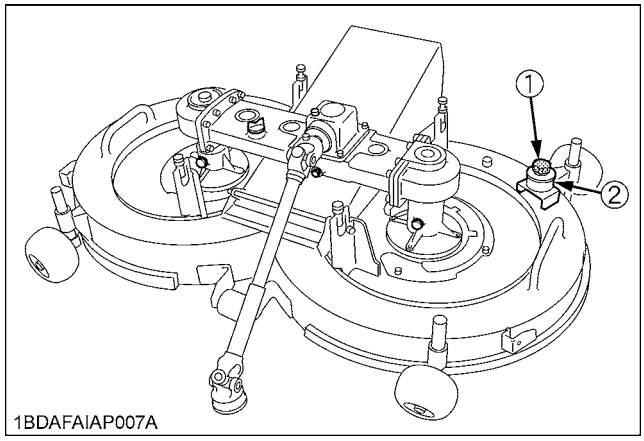
重　要

＊ 新しいシャーピンに交換するときは，必ず皿バネも新しいものと交換してください。
＊ モーアギヤケースや PTO システムの重大な損傷や早期の故障を防止するため，クボタの純正シャーピンと皿バネ以外は使用しないでください。

補　足

＊ 刈刃が石や木などの障害物にぶつかると，シャーピンが折れて歯車の損傷を防ぎます。

2. シャーピンを交換するときは，取扱説明書の**“必要に応じた点検・整備”**の章にある**“刈刃の点検と交換”**を参照してください。



(1) ノブナット
(2) スペアホルダ

■燃料系統の空気抜き

以下の場合，空気を抜く必要があります。
1. 燃料フィルタまたはホースが外れたとき。
2. タンクが完全に空になったとき。
3. 機械を長期間使用しなかった後。

◆ 空気抜きの手順は次のとおりです。

1. 燃料タンクを燃料で満たしてください。
2. エンジンを始動し，30 秒間作動して，エンジンを停止してください。

調整

一般締付けトルク

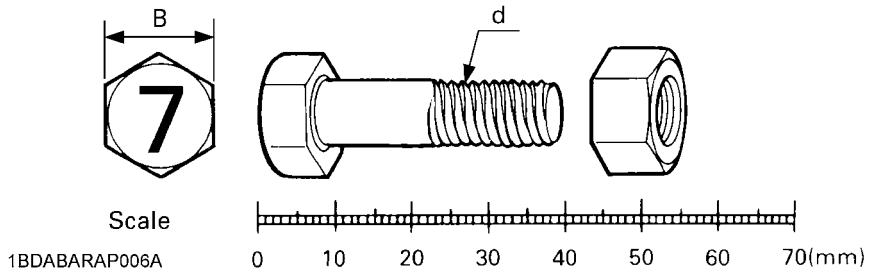
ユニファイネジ（UNC または UNF ネジ山）				メートルネジ			
ねじの呼び		グレード５	グレード８	ねじの呼び		クラス 8.8	クラス 10.9
1/4	(N-m) (kgf-m)	10.7 - 12.9 1.11 - 1.33	16.1 - 19.3 1.66 - 1.99	M6	(N-m) (kgf-m)	9.81 - 11.3 1.0 - 1.15	
5/16	(N-m) (kgf-m)	23.1 - 27.8 2.35 - 2.84	32.5 - 39.3 3.31 - 4.01	M8	(N-m) (kgf-m)	23.6 - 27.4 2.4 - 2.8	29.4 - 34.3 3.0 - 3.5
3/8	(N-m) (kgf-m)	47.5 - 57.0 4.84 - 5.82	61.0 - 73.2 6.22 - 7.47	M10	(N-m) (kgf-m)	48.1 - 55.8 4.9 - 5.7	60.8 - 70.5 6.2 - 7.2
7/16	(N-m) (kgf-m)	75.9 - 89.5 7.74 - 9.12	101.7 - 122 10.37 - 12.44	M12	(N-m) (kgf-m)	77.5 - 90.1 7.9 - 9.2	103 - 117 10.5 - 12.0
1/2	(N-m) (kgf-m)	108.5 - 130.2 11.07 - 13.29	149.2 - 179.0 15.22 - 18.27	M14	(N-m) (kgf-m)	124 - 147 12.6 - 15.0	167 - 196 17.0 - 20.0
9/16	(N-m) (kgf-m)	149.2 - 179.0 15.22 - 18.27	217 - 260.4 22.14 - 26.57	M16	(N-m) (kgf-m)	196 - 225 20.0 - 23.0	260 - 303 26.5 - 31.0
5/8	(N-m) (kgf-m)	203.4 - 244.1 20.75 - 24.91	298.3 - 358.0 30.44 - 36.53				

締付けトルク一覧

ネジ山 サイズ d (mm)	六角ボルト 頭サイズ B (mm)	マークなし		7T	
		N-m	kgf-m	N-m	kgf-m
M8	12 or 13	**17.8 - 20.6** (19.2±1.4)	**1.9 - 2.1** (2.0±0.1)	**23.5 - 27.5** (25.5±2.0)	**2.4 - 2.8** (2.6±0.2)
M10	14 or 17	**39.3 - 45.1** (42.2±2.9)	**4.0 - 4.6** (4.3±0.3)	**48.1 - 55.9** (52.0±3.9)	**4.9 - 5.7** (5.3±0.4)
M12	17 or 19	**62.8 - 72.6** (67.7±4.9)	**6.4 - 7.4** (6.9±0.5)	**77.6 - 90.2** (83.9±6.3)	**8.0 - 9.2** (8.6±0.6)
M14	19 or 22	**107.9 - 125.5** (116.7±8.8)	**11.0 - 12.8** (11.9±0.9)	**123.6 - 147.0** (135.3±11.7)	**12.6 - 15.0** (13.8±1.2)

補　足

＊ ボルトの上にある数字“**7**”は，ボルトが特殊材料でできていることを示します。
＊ 締付ける前に，ボルトの上の数字を確認してください。



格納

注　意

＊ 火災事故の危険性を少なくするため，密閉された空間または可燃物の付近に機械を格納する前に，エンジンおよび排気システムを冷やしてください。
＊ 有害な排気ガス中毒の危険を避けるため，適切な換気装置のない屋内でエンジンをかけないでください。
＊ エンジンが始動している状態で機械を清掃しないでください。
＊ 火災事故を防ぐため，草および木の葉をモーアおよび集草機の中に残さないでください。
＊ 格納時は，許可を得ていない人による操作を防ぐために，キースイッチからキーを抜いてください。

機械を２ヶ月以上使用しない場合は，機械を清掃して，次の要領で整備してから格納しましょう。

1. 必要に応じて部品を修理します。
2. 必要に応じてボルトとナットのゆるみを点検します。
3. さびやすい部分にはグリースかオイルを塗っておきます。
4. タイヤに標準圧力レベルよりやや多く空気を入れます。(約 110%)
5. モーアを地面に降ろします。
6. バッテリを本機から外し，充電し，バッテリ液を適量補充し，乾燥した冷暗所に保管してください。
   バッテリは保管している状態でも放電します。夏季は１ヶ月に１度，冬季は２ヶ月に１度充電してください。
7. 燃料を抜きます。
8. 機械は雨よけのある乾いた場所に格納してください。機械は防水シートで覆います。
9. モーアや集草機を使用後に適切に清掃しないと，刈り草に含まれる水分によりモーアや集草機が傷みます。
   必ずモーアおよび集草機を清掃し，完全に空になっていることを確認してから格納してください。
10. 機械をジャッキで持ち上げ，前後車軸の下にブロックを入れて，４本のタイヤをすべて地面から離します。
    タイヤを直射日光や極端な熱にさらさないでください。

重　要

＊ 機械を洗浄するときは，必ずエンジンを停止してください。洗浄する前に十分エンジンを冷やしてください。
＊ マフラおよびエンジンが冷えてから，機械を覆ってください。

◆ 格納した機械を使用する前の処置

1. 空気圧を点検し，必要に応じて調整してください。
2. バッテリを取付けてください。バッテリの取付け前に再充電し，十分に充電されていることを確認してください。
3. 日常点検を行なってください。(**“定期点検”**の章の**“日常点検”**を参照してください。)
4. すべてのオイル量を点検してください。(エンジンオイル，トランスミッションオイル)
5. エンジンを始動します。エンジンを停止した後で機械の周囲にオイル等の漏れ，飛散がないかを点検してください。
6. 負荷をかける前にエンジンを２，３分運転してください。
7. エンジンを十分に暖機運転して，駐車ブレーキを外し，前進しながらブレーキが正しく調整されているかテストしてください。必要に応じてブレーキを調整してください。

不調と処置

エンジンの不調と処置

エンジンの調子が悪い場合は，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現象	考えられる原因
始動困難な場合	● 燃料タンクまたは燃料フィルタがほこりで詰まっている。
	● 燃料系統に空気や水が混入している。
	● 寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。
	● バッテリが充電されていない。
出力不足の場合	● エアクリーナエレメントが詰まっている。 ● 燃料の流れまたは品質不足。
突然停止した場合	● 燃料不足。
排気ガスに色が付いている場合	● 燃料の品質が悪い。
マフラから黒煙が出て，出力が低下した場合	● エアクリーナエレメントが詰まっている。
作業中にマフラから青白色煙が出た場合	● エンジンオイルの入り過ぎ。
エンジンがアイドリング状態にならない場合	● 燃料フィルタが詰まっている。
オーバーヒートした場合	● 冷却水の量が不足している。
	● ファンベルトのゆるみまたは不具合。
	● 冷却水通路が腐食している。

ご不明の点は，購入先にお問い合わせください。

バッテリの不調と処置

現象	考えられる原因
スタータが作動しない場合	● バッテリが充電されていない。
	● バッテリ端子の接触不良。
	● バッテリの寿命。
上から見ると電極の上部が白っぽく見える場合	● バッテリ液が不足。
	● 充電せずにバッテリを使用した。
充電をしても充電ができない場合	● バッテリの寿命。
端子の腐食がひどく，端子が熱くなる場合	● バッテリ端子の接触不良または端子のさび。
バッテリ液が急に少なくなる場合	● 電解槽にひび割れや小さな穴がある。
	● 充電システムが不調。

ご不明の点は，購入先にお問い合わせください。

トラクタの不調と処置

現象	考えられる原因
スムーズに走行しない場合	● トランスミッションオイルが不足している。
エンジンは回転しているが機械が動かない場合	● 駐車ブレーキがかかっている。 ● トランスミッションオイルが不足している。
速度調整ペダルを踏んでいなくても機械が動く場合（エンジンは回転している）	● HST ニュートラルシステムの調整が正しくない。
PTO ベルトがスリップする場合	● ベルトのテンションが正しくない。 ● ベルトが摩耗している。
サービスブレーキが正常に作動しない場合	● ブレーキ液の量が不足している。
	● ペダルに“ふわふわ感”がある。 （ブレーキシステムに空気が入っている。）
	● ブレーキパッドが摩耗している。
	● ブレーキ液が漏れている。
	● ディスクブレーキアッシにゴミが付着している。
サービスブレーキに異音がある場合	—

ご不明の点は，購入先にお問い合わせください。

モーアの不調と処置

現象	考えられる原因
排出ダクトが詰まる場合	● 芝が湿っている。 ● 芝が長い。 ● 刈高さが低い。 ● エンジン回転が低い。 ● 作業速度が速い。 ● 空気の流れが悪い。
刈り残しが出る場合	● 作業速度が速い。 ● エンジン回転が低い。 ● 芝が長い。 ● 刈刃の切味が悪いまたは破損。 ● モーアデッキ内側への草の堆積。
均平に刈れない場合	● モーアデッキが水平でない。 ● 作業速度が速い。 ● 刈刃の切味が悪い。 ● 刈刃の摩耗。 ● タイヤの空気圧。 ● モーアのローラーが正しく調整されていない。
芝削り（土削り）を発生する場合	● 刈高さが低い。 ● 刈刃の速度が速い。 ● 地形にうねりがある。 ● 地形に起伏（凸凹）が多い。 ● 刈刃の曲がり。 ● タイヤの空気圧が低い。 ● 補助輪が正しく調整されていない。
振動が大きい場合	● モーアデッキ上およびプーリに草が堆積している。 ● 刈刃のバランスが悪い。
モーアの作業負荷が大きい場合	● エンジン回転が低い。 ● 作業速度が速い。 ● モーアの回転軸回りに草が巻きついている。
芝の先端がぎざぎざで灰色がかった茶色になる場合	● 刈刃の切味が悪い。 ● 刈刃の摩耗。 ● モーアデッキが水平でない。

ご不明の点は，購入先にお問い合わせください。

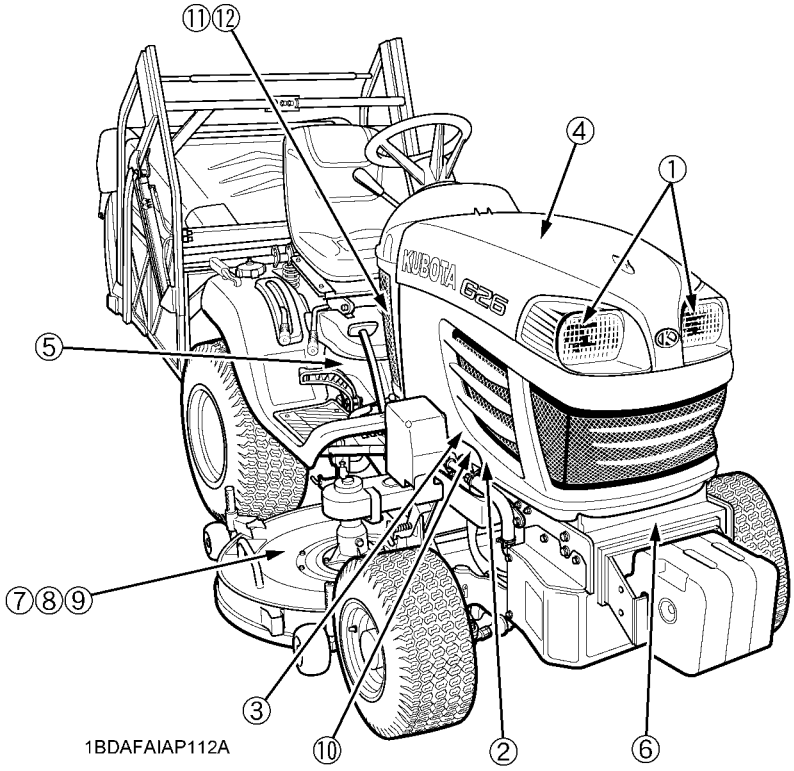
集草機の不調と処置

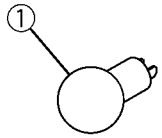
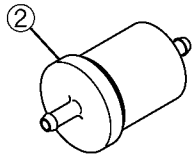
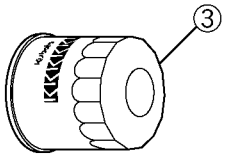
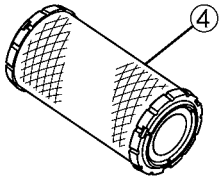
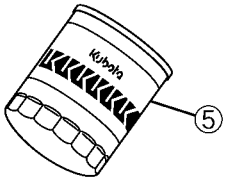
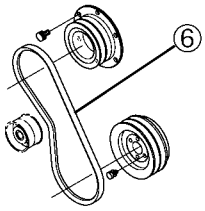
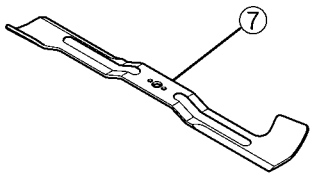
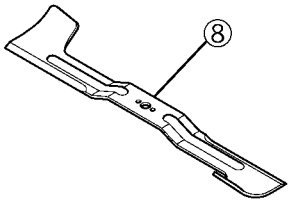
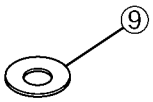
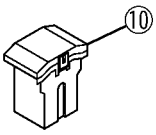
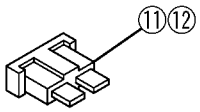
現象	考えられる原因
放出ダクトが詰まる場合	● 芝が湿っている。 ● 芝が長い。 ● 刈高さが低い。 ● エンジン回転が低い。 ● 作業速度が速い。 ● 集草機が一杯である。 ● 集草機のネットが詰まっている。
刈り草が集草されず刈り後に草が落ちている場合	● ダクトが詰まっている。 ● 集草機が一杯である。 ● モーアデッキが詰まっている。 ● 集草機のネットが詰まっている。

ご不明の点は，購入先にお問い合わせください。

付表

主な消耗部品一覧表



ランプ 	フューエルフィルタアッシ 	オイルフィルタ(エンジン) 	エアクリーナエレメント 
オイルフィルタ(トランスミッション) 	Vベルトアッシ(PTOテンション) 	ブレード(左) 	ブレード(右) 
サラバネ 	スローブローヒューズ(50A) 	ヒューズ(15A),ヒューズ(10A) 	

図番	品名	品番	図番	品名	品番
1	ランプ	K2563-5434-0	7	ブレード（左）	K5433-7184-0
2	フューエルフィルタアッシ	12581-4301-2	8	ブレード（右）	K5433-7185-0
3	オイルフィルタ（エンジン）	HH150-3243-0	9	サラバネ	K5371-3435-2
4	エアクリーナエレメント	K1211-8232-0	10	スローブローヒューズ（50A）	T1060-3053-0
5	オイルフィルタ （トランスミッション）	HHK70-1407-0	11	ヒューズ（15A）	T1060-3045-0
6	V ベルトアッシ (PTO テンション)	K2053-1564-0	12	ヒューズ（10A）	T1060-3044-0

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は**まず，購入先へ**　ご相談ください。

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名　　担当　　電話（　　）　　ー		
ご購入日	型式	車台番号
エンジン型式　　機番	その他装着型式　　機番	

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

都道府県	お問合せ先	都道府県	お問合せ先
北海道	北海道営業技術推進部	滋賀、京都、大阪、和歌山、奈良、兵庫	大阪営業技術推進部
青森、秋田、山形（庄内地区）	秋田営業技術推進部	岡山、広島	中国営業技術推進部
岩手、宮城、福島、山形（庄内地区以外）	仙台営業技術推進部	島根、鳥取	中国営業技術推進部（米子事務所）
栃木、群馬、茨城、千葉、埼玉、東京、神奈川、静岡	東京営業技術推進部	香川、徳島、高知、愛媛	株式会社四国クボタ 営業技術課
新潟、長野、山梨	新潟営業技術推進部	山口、福岡、佐賀、長崎、沖縄	福岡営業技術推進部
富山、石川、福井	金沢営業技術推進部	大分、宮崎、熊本、鹿児島	熊本営業技術推進部
愛知、三重、岐阜	名古屋営業技術推進部		

クボタ機械サービス株式会社

北海道営業技術推進部：電(011)376-4434　〒061-1274　北海道北広島市大曲工業団地3丁目1番地
秋田営業技術推進部：電(018)845-1644　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　宮城県名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部：電(048)862-1588　〒338-0832　さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1261　〒950-0992　新潟市中央区上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121　〒924-0038　石川県白山市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　愛知県一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部：電(06)6470-5860　〒661-8567　兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号
中国営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市東区宍甘275番地
中国営業技術推進部(米子事務所)：電(0859)39-3181　〒689-3547　鳥取県米子市流通町430-12
株式会社四国クボタ 営業技術課：電(087)874-8500　〒769-0102　香川県高松市国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本市富合町廻江846-1
本社営業技術部：電(072)241-7247　〒590-0823　大阪府堺市堺区石津北町64番地

株式会社クボタ

機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市桜区西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所：電(06)6470-5970　〒661-8567　兵庫県尼崎市浜1丁目1番1号

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは「(社)日本陸用内燃機関
協会排出ガス自主規制適合エンジン」
であることを示しています。

株式会社クボタ
〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号

品番　K2058-7123-1